cisco.



Cisco UCS C240 M5 Server 設置およびサービス ガイド

初版:2020年7月30日 最終更新:2020年10月21日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー http://www.cisco.com/jp お問い合わせ先:シスココンタクトセンター 0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む) 電話受付時間:平日10:00~12:00、13:00~17:00 http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/ 【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ド キュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更され ている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照くだ さい。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The following information is for FCC compliance of Class A devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio-frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case users will be required to correct the interference at their own expense.

The following information is for FCC compliance of Class B devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If the equipment causes interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, users are encouraged to try to correct the interference by using one or more of the following measures:

- · Reorient or relocate the receiving antenna.
- · Increase the separation between the equipment and receiver.
- · Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- · Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Modifications to this product not authorized by Cisco could void the FCC approval and negate your authority to operate the product.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco および Cisco ロゴは、シスコや米国および他の国の関連会社の商標です。シスコの商標の一覧は、https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html で参照できます。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. 「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。 (1721R)

© 2020 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



概要

- 概要 (1ページ)
- 外部機能 (2ページ)
- ・サービス可能なコンポーネントの場所 (8ページ)
- サーバ機能の概要(11ページ)



サーバは、前面パネル/ドライブバックプレーン構成が異なる各種バージョンで注文可能です。

- Cisco UCS C240 M5(UCSC-C240-M5SX):小型フォーム ファクタ(SFF)ドライブ、24 ドライブ バックプレーン。
 - •フロントローディング ドライブ ベイ 1 ~ 24 で 2.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。
 - フロントローディングドライブベイ1および2は2.5インチNVMe SSDをサポート (オプション)。
 - •2つのリアローディング ドライブ ベイで、最大2つの2.5 インチ SAS/SATA ドライブ または最大2つの2.5 インチ NVMe SSD をサポート(オプション)。
- Cisco UCS C240 M5(UCSC-C240-M5SN): SFF ドライブ、24 ドライブ バックプレーン、 NVMe 向けに最適化。
 - フロントローディング ドライブ ベイ 1 ~ 8 で 2.5 インチ NVMe PCIe SSD のみをサポート。
 - •フロントローディング ドライブ ベイ 9 ~ 24 で 2.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。
 - •2 つのリアローディング ドライブ ベイでは最大 2 つの 2.5 インチ NVMe SSD のみを サポート。
- Cisco UCS C240 M5(UCSC-C240-M5S): SFF ドライブ、8 ドライブ バックプレーンおよ び DVD ドライブ オプション。

- フロントローディング ドライブ ベイ 1 ~ 8 で 2.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。
- フロントローディング ドライブ ベイ 1 および 2 は 2.5 インチ NVMe SSD をサポート (オプション)。
- •2つのリアローディング ドライブ ベイで、最大 2つの 2.5 インチ SAS/SATA ドライブ または最大 2 つの 2.5 インチ NVMe SSD をサポート(オプション)。
- Cisco UCS C240 M5(UCSC-C240-M5L):大型フォームファクタ(LFF)ドライブ、12ド ライブ バックプレーン。
 - フロントローディング ドライブ ベイ 1 ~ 12 で 3.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。
 - フロントローディング ドライブ ベイ 1 および 2 は 3.5 インチ NVMe SSD をサポート (オプション)。
 - •2つのリアローディング ドライブ ベイで、最大2つの2.5インチ SAS/SATA ドライブ または最大2つの2.5インチ NVMe SSD をサポート(オプション)。

外部機能

このトピックでは、各サーババージョンの外部機能について説明します。 LED の状態の定義については、前面パネルの LEDを参照してください。



Cisco UCS C240 M5 サーバ (SFF ドライブ、24 ドライブ) の前面パネルの機能

図 1: Cisco UCS C240 M5 サーバ (SFF ドライブ、24 ドライブ)の前面パネル

1	 • UCSC-C240-M5SX:ドライブベイ1~ 24 で SAS/SATA ドライブをサポート。 • UCSC-C240-M5SN:ドライブベイ9~ 24 で SAS/SATA ドライブをサポート。 	7	温度ステータス LED
2	 • UCSC-C240-M5SX:ドライブベイ1お よび2でNVMe PCIe SSDをサポート。 • UCSC-C240-M5SN:ドライブベイ1~ 8でNVMe PCIe SSDをサポート。 	8	電源装置ステータス LED
3	電源ボタン/電源ステータス LED	9	ネットワーク リンク アクティビティ LED
4	ユニット識別ボタン/LED	10	引き抜きアセットタグ
5	システム ステータス LED	11	KVM コネクタ(DB-15 VGA コネクタ X1、 DB-9 シリアル コネクタ X1、および USB コネ クタ X2 を備えた KVM ケーブルに使用)
6	ファンステータス LED	-	

Cisco UCS C240 M5 サーバ (SFF ドライブ、8 ドライブ) の前面パネルの機能

次の図に、小型フォームファクタ(SFF)ドライブ、8 ドライブ バージョンのサーバ (UCSC-C240-M5S)の前面パネル機能を示します。

LED の状態の定義については、前面パネルの LEDを参照してください。

図 2: Cisco UCS C240 M5 サーバ (SFF ドライブ、8 ドライブ)の前面パネル



1	UCSC-C240-M5S: ドライブ ベイ 1 ~ 8 で SAS/SATA ドライブをサポート。	7	温度ステータス LED
2	UCSC-C240-M5S: ドライブ ベイ 1 および 2 で NVMe PCIe SSD をサポート。	8	電源装置ステータス LED
3	電源ボタン/電源ステータス LED	9	ネットワーク リンク アクティビティ LED
4	ユニット識別ボタン/LED	10	DVD プレーヤー
5	システム ステータス LED	11	引き抜きアセットタグ
6	ファン ステータス LED	-	KVM コネクタ(DB-15 VGA コネクタ X1、 DB-9 シリアル コネクタ X1、および USB コネ クタ X2 を備えた KVM ケーブルに使用)

Cisco UCS C240 M5 サーバ(LFF ドライブ、12 ドライブ)の前面パネルの機能

次の図に、大型フォームファクタ(LFF)ドライブバージョンのサーバ(UCSC-C240-M5L)の前面パネル機能を示します。

LED の状態の定義については、前面パネルの LEDを参照してください。

図 3: Cisco UCS C240 M5 サーバ(LFF ドライブ)の前面パネル



1	UCSC-C240-M5L : ドライブ ベイ 1 ~ 12 で 3.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。	7	温度ステータス LED
2	ドライブ ベイ 1 および 2 は 3.5 インチ NVMe SSD ドライブをサポート。	8	電源装置ステータス LED
	2.5インチ SDD を固定するには、サイズコン バータ ドライブ スレッドが必要です。		
3	電源ボタン/電源ステータス LED	9	ネットワーク リンク アクティビティ LED
4	ユニット識別ボタン/LED	10	KVM コネクタ(DB-15 VGA コネクタ X1、 DB-9 シリアル コネクタ X1、および USB コネ クタ X2 を備えた KVM ケーブルに使用)
5	システム ヘルス LED	11	引き抜きアセットタグ
6	ファン ステータス LED	-	

概要

Cisco UCS C240 M5 サーバの背面パネルの機能

背面パネルの機能は、サーバのバージョンすべてで同一です。

LED の状態の定義については、背面パネルの LED を参照してください。

仕様を参照してください。



図 4: Cisco UCS C240 M5 サーバの背面パネル

2	PCIe ライザー2(PCIe スロット、4、5、6) では次のオプションを利用できます。	8	デュアル 1 Gb/10 Gb イーサネット ポート (LAN1 と LAN2)
	・2A:スロット4(X16)、5(X16)、6 (X8)。		デュアル LAN ポートは、リンク パートナーの 機能に応じて 1 Gbps および 10 Gbps をサポー
	•2B:スロット4(X8)、5(X16)、6 (X8)。リアローディング NVMe SSD 用のケーブル コネクタを含む。		
	 • 2C:スロット4(X8)、5(X8)、6(X 8)。リアローディングおよびフロントローディング NVMe SSD 用の2つのケーブルコネクタを含む。 		
	 2D:スロット4(X16)、5(X8)、6 (X8)。リアローディング NVMe SSD 用のケーブルコネクタを含む。このライ ザーバージョンは、NVMe向けに最適化 されたサーバ UCSC-C240-M5SN でのみ 使用可能です。スロット4は NVMe ス イッチ カード専用。 		
3	背面 2.5 インチ ドライブ ベイ:	9	VGA ビデオ ポート(DB-15 コネクタ)
	 サーバ型番 UCSC-C240-M5SN は、最大 2台のリア NVMe PCIe SSD のみをサポー ト。 		
	 その他すべてのC240M5型番は最大2台のドライブをサポート: 		
	・サーバでハードウェア RAID コント ローラカードを使用する場合は、背 面ベイで SAS/SATA ドライブまたは NVMe SSD がサポートされます。		
	・サーバでソフトウェア RAID を使用 する場合、背面ベイではNVMeSSD だけがサポートされます。		
4	電源装置(2、1+1 として冗長)	10	1 Gb イーサネット専用管理ポート
	仕様およびサポートされるオプションについ ては、電力仕様 を参照してください。		
5	二重孔アース ラグ用ネジ穴。	11	シリアル ポート(RJ-45 コネクタ)

6	モジュール型 LAN on Motherboard (mLOM)	12	背面ユニット識別ボタン/LED
	カードスロット(X 16)		

サービス可能なコンポーネントの場所

ここでは、フィールドで交換可能なコンポーネントとサービス関連の品目の場所を示します。 次の図に、上部カバーを取り外した状態のサーバを示します。

図 5: Cisco UCS C240 M5 サーバ:サービス作業可能なコンポーネントの位置



2	冷却ファン モジュール(6、ホットスワップ 可能)	12	 背面 2.5 インチ ドライブベイ: ・サーバ型番 UCSC-C240-M5SN は、最大 2 台のリア NVMe PCIe SSD のみをサポート。 ・その他すべての C240 M5 型番は最大 2 台のドライブをサポート: ・サーバでハードウェア RAID コントコート にたいます 切合け また
			ロークカードを使用する場合は、育 面ベイで SAS/SATA ドライブまたは NVMe SSD がサポートされます。 ・サーバでソフトウェア RAID を使用す る場合、背面ベイでは NVMe SSD だ けがサポートされます。
3	マザーボード上の DIMM ソケット(CPU あ たり最大 12) この図ではエアーバッフルの下にあるため、 図示されていません。 DIMM スロットの番号については、DIMMの 装着規則とメモリパフォーマンスに関するガ イドラインを参照してください。	13	マザーボード上のトラステッドプラットフォー ムモジュール (TPM) ソケット (図示されず)
4	CPU およびヒートシンク(最大 2) この図ではエアーバッフルの下にあるため、 図示されていません。	14	 PCIe ライザー2(PCIe スロット、4、5、6)では次のオプションを利用できます。 2A:スロット4(X16)、5(X16)、6(X8)。 2B:スロット4(X8)、5(X16)、6(X8)。リアローディング NVMe SSD 用のケーブルコネクタを含む。 2C:スロット4(X8)、5(X8)、6(X8)。リアローディングおよびフロントローディング NVMe SSD 用の2つのケーブルコネクタを含む。
5	SuperCap ユニット (RAID バックアップ) の 取り付けブラケット	15	PCIe ライザー1の microSD カード ソケット

概要

6	マザーボード上の内部垂直 USB 3.0 ポート	16	 PCIe ライザー1 (PCIe スロット、1、2、3) では次のオプションを利用できます。 ・1A:スロット1 (X8)、2 (X16)、3 (X8)。スロット2では CPU2 が必要 ・1B:スロット1 (X8)、2 (X8)、3 (X8)。CPU1ですべてのスロットをサポート
7	 ミニストレージモジュール ソケット。次の オプションがあります。 ・2 台の SD カード スロットを備えた SD カード モジュール。 ・2 台の SATA M.2 ドライブまたは 2 台の NVMe M.2 ドライブ用のスロットを備え た M.2 モジュール 	17	シャーシ床面(x16PCIeレーン)上のモジュラ LOM(mLOM)カードベイ(図示されず)
8	シャーシ侵入スイッチ(オプション)	18	Cisco モジュラ RAID コントローラ PCIe スロッ ト(専用スロット)
9	 NVMe SSD 用の PCIe ケーブル コネクタ。次 の PCIe ライザー 2 オプションのみ 2B:背面 NVMe SSD 用の 1 つのコネク タ。 2C:背面 NVMe SSD 用の 1 つのコネク タ、およびフロントローディング SFF NVMe SSD 用の 1 つのコネクタ 2D:リア NVMe SSD 用の 1 つのコネク タ。(このライザー バージョンは、 NVMe 向けに最適化されたサーバ UCSC-C240-M5SN でのみ使用可能です) 	19	RTC バッテリ、垂直ソケット
10	リアドライブ バックプレーン アセンブリ	20	エアー バッフル上の GPU カード用の保護ク リップ

サポートされるコンポーネントの部品番号などの、このサーバのすべてのバージョンの技術仕様シートは、『Cisco UCS Servers Technical Specifications Sheets』に記載されています(「*Technical Specifications*」まで下へスクロールしてください)。

サーバ機能の概要

次の表に、サーバ機能の概要を示します。

機能	Description
シャーシ	2 ラックユニット(2RU)シャーシ
セントラル プロセッサ	最大2個のインテル Xeon スケーラブル・プロセッサファ ミリーCPU。これには次のシリーズのCPUが含まれます。
	•インテル Xeon Bronze 3XXX プロセッサ
	・インテル Xeon Silver 4XXX プロセッサ
	・インテル Xeon Gold 5XXX プロセッサ
	・インテル Xeon Gold 6XXX プロセッサ
	・インテル Xeon Platinum 8XXX プロセッサ
メモリ	マザーボード上に24個のDDR4DIMMソケット搭載(CPU あたり12個)。
マルチビット エラー保護	マルチビットエラー保護をサポートします。
ベースボード管理	Cisco Integrated Management Controller (Cisco IMC) ファームウェアを実行する BMC。
	Cisco IMC 設定に応じて、1 Gb 専用管理ポート、1 Gb/10 Gb イーサネット LAN ポート、または、シスコ仮想イン ターフェイスカードを介して Cisco IMC にアクセスできま す。

機能	Description
ネットワークおよび管理 I/O	背面パネル:
	•1 Gb イーサネット専用管理ポート X1 (RJ-45 コネク タ)
	• 1 Gb/10 Gb BASE-T イーサネット LAN ポート X 2 (RJ-45 コネクタ)
	デュアル LAN ポートは、リンク パートナーの機能に 応じて 1 Gbps および 10 Gbps をサポートできます。
	•RS-232 シリアル ポート(RJ-45 コネクタ)X 1
	• VGA ビデオ コネクタ ポート X1(DB-15 コネクタ)
	• USB 3.0 ポート×2
	前面パネル:
	 • USB 2.0 2 個、VGA 1 個、DB-9 シリアル コネクタ 1 個を装備した KVM ケーブルを使用する前面パネル KVM(キーボード/ビデオ/マウス)コネクタ X1。
モジュラ LOM	背面パネルの追加接続用に、mLOM カードを追加するために使用できる専用ソケット(X 16 PCIe レーン)X1。
電源	2 基の電源装置。1+1 で冗長構成。
	 AC 電源装置の場合、各台に 770 W AC を設置
	•AC 電源装置の場合、各台に 1050 WAC を設置
	•AC 電源装置の場合、各台に 1600 WAC を設置
	•DC 電源装置の場合、各台に 1050 W DC を設置
	サーバでは、タイプやワット数の異なる電源装置を組み合 わせて使用しないでください。
ACPI	Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 4.0 規格 をサポートしています。
冷却	ホットスワップ可能なファン モジュール(前面から背面 に向かう冷却用)X6。
PCIe I/O	水平 PCIe 拡張スロット X6(2 つの PCIe ライザー アセン ブリ)。
	スロットの仕様については、PCIe スロットの仕様を参照 してください。

機能	Description
InfiniBand	このサーバの PCIe バス スロットは InfiniBand アーキテク チャをサポートしています。

機能	Description
ストレージ、前面パネル	

I

機能	Description
	サーバは、前面パネル/ドライブ バックプレーン構成が異なる各種バージョンで注文可能です。
	• Cisco UCS C240 M5(UCSC-C240-M5SX) : 小型フォー ム ファクタ(SFF)ドライブ、24 ドライブ バックプ レーン。
	 フロントローディング ドライブ ベイ1~24 で 2.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。
	 フロントローディング ドライブ ベイ 1 および 2 は 2.5 インチ NVMe SSD をサポート (オプション)。
	・2 つのリアローディング ドライブ ベイで、最大 2 つの 2.5 インチ SAS/SATA ドライブまたは最大 2 つの 2.5 インチ NVMe SSD をサポート(オプ ション)。
	 Cisco UCS C240 M5 (UCSC-C240-M5SN) : SFF ドラ イブ、24 ドライブ バックプレーン。
	・フロントローディング ドライブ ベイ 1 ~ 8 で 2.5 インチ NVMe PCIe SSD のみをサポート。
	・フロントローディング ドライブ ベイ 9 ~ 24 で 2.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。
	• 2 つのリアローディング ドライブ ベイでは最大 2 つの 2.5 インチ NVMe SSD のみをサポート。
	 Cisco UCS C240 M5 (UCSC-C240-M5S) : SFF ドライブ、8 ドライブ バックプレーンおよび DVD ドライブオプション。
	・フロントローディング ドライブ ベイ 1 ~ 8 で 2.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。
	 フロントローディング ドライブ ベイ 1 および 2 は 2.5 インチ NVMe SSD をサポート (オプション)。
	・2 つのリアローディング ドライブ ベイで、最大 2 つの 2.5 インチ SAS/SATA ドライブまたは最大 2 つの 2.5 インチ NVMe SSD をサポート(オプ ション)。
	・Cisco UCS C240 M5(UCSC-C240-M5L):大型フォー

概要

概要

機能	Description
	ム ファクタ(LFF)ドライブ、12 ドライブ バックプ レーン。
	 フロントローディング ドライブ ベイ1~12 で 3.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポート。
	 フロントローディング ドライブ ベイ1および2 は3.5インチ NVMe SSD をサポート(オプション)。
	・2 つのリアローディング ドライブ ベイで、最大 2 つの 2.5 インチ SAS/SATA ドライブまたは最大 2 つの 2.5 インチ NVMe SSD をサポート(オプ ション)。
	SAS/SATA ドライブはホットスワップ可能です。NVMe SSD はホットプラグ可能です。つまり、ホット リムーブ の前にオペレーティング システムでシャットダウンする 必要があります。
ストレージ、背面パネル	サーバは、リア ドライブ バックプレーン アセンブリで発 注可能です。このアセンブリは、2 つのリアローディング 2.5 インチ ドライブ用のベイを備えています。
	 ・サーバ型番 UCSC-C240-M5SN は、最大 2 台のリア NVMe PCIe SSD のみをサポート。
	 その他すべての C240 M5 型番は最大 2 台のドライブ をサポート:
	 ・サーバでハードウェアRAIDコントローラカード を使用する場合は、背面ベイでSAS/SATAドラ イブまたはNVMeSSDがサポートされます。
	 サーバでソフトウェア RAID を使用する場合、背面ベイではNVMe SSD だけがサポートされます。

機能	Description
ストレージ、内部	サーバには次の内部ストレージオプションがあります。
	・マザーボード上の内部 USB 3.0 ポート X 1。
	• PCIe ライザー1の microSD カード ソケット X 1。
	 ミニストレージモジュールソケット。オプションで 次のいずれかが付属します。
	•SD カード キャリア。最大 2 つの SD カードをサ ポートします。
	 M.2 SSD キャリア。2 つの SATA M.2 SSD または 2 つの NVMe M.2 SSD のいずれかをサポートしま す。
	 Cisco ブート最適化 M.2 RAID コントローラ (SATA M.2 ドライブ用に 2 台のスロットを備え たモジュールと、RAID 1 アレイの 2 台の SATA M.2 ドライブを制御できる内蔵 SATA RAID コン トローラ)
その他のリムーバル メディア	SFF ドライブ(8 ドライブ)バージョンのサーバでは、フ ロントローディング DVD ドライブ オプションがサポート されています。
ストレージの管理	サーバには、次のストレージ コントローラ オプションの いずれか1つをサポートする専用内部ソケットがありま す。
	• PCIe スタイルの Cisco モジュラ RAID コントローラ カード (SAS/SATA)。
	・サーバの組み込み SATA RAID コントローラ用 PCIe スタイルのインタポーザ カード。
	ストレージ コントローラ オプションの一覧については、 #unique_12を参照してください。
RAID バックアップ	サーバの取り外し可能なエアーバッフルに、Cisco モジュ ラ RAID コントローラ カードに使用する 1 つの SuperCap ユニット用の取り付けブラケットがあります。
統合ビデオ	統合 VGA ビデオ。

概要





サーバのインストール

- ・設置の準備 (19ページ)
- •2 支柱ラック エクステンダの取り付け (22 ページ)
- ・ ラックへのサーバの設置 (23ページ)
- ・サーバの初期設定(26ページ)
- •NIC モードおよび NIC 冗長性設定 (32 ページ)
- •BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新 (34ページ)
- ・システム BIOS へのアクセス (34 ページ)
- スマートアクセス(シリアル) (35ページ)
- •スマートアクセス (USB) (35 ページ)

設置の準備

ここでは、次の内容について説明します。

設置に関する警告およびガイドライン

(注) サーバの設置、操作、または保守を行う前に、『Cisco UCS C-シリーズサーバの規制コンプラ イアンスと安全性情報』を参照して重要な安全情報を確認してください。

Â

警告 安全上の重要な注意事項

この警告マークは「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されていま す。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に 留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の 安全についての警告を参照してください。

ステートメント 1071



注意 鉄共振技術を採用している無停電電源装置(UPS)は使用しないでください。このタイプの UPSは、Cisco UCSなどのシステムに使用すると、データトラフィックパターンの変化によっ て入力電流が大きく変動し、動作が不安定になるおそれがあります。 サーバを設置する際には、次のガイドラインに従ってください。

- ・サーバを設置する前に、設置場所の構成を計画し、設置環境を整えます。設置場所を計画 する際に推奨される作業については、『Cisco UCS サイト準備ガイド』を参照してください。
- ・サーバの周囲に、サーバへのアクセスおよび適切な通気のための十分なスペースがあることを確認します。サーバ内では前面から背面へ空気が流れます。
- ・空調が、環境仕様に記載された温度要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが、ラックに関する要件に記載された要件に適合していること を確認します。
- 設置場所の電源が、電力仕様に記載された電源要件に適合していることを確認します。使 用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置(UPS)を使用してください。

ラックに関する要件

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- ・標準的な19インチ(48.3 cm)幅4支柱 EIA ラック(ANSI/EIA-310-D-1992のセクション 1に準拠した英国ユニバーサルピッチに適合するマウント支柱付き)。
- ・標準の19インチ(48.3 cm)幅の2支柱 EIA ラック(エクステンダブラケットキットでのみ使用可能)
- ・付属のシスコ製スライドレールを使用する場合、ラック支柱の穴は、9.6 mm (0.38 インチ)の正方形、7.1 mm (0.28 インチ)の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- ・サーバあたりの縦方向の最小ラックスペースは、2 RU(ラックユニット)、つまり 88.9 mm(3.5 インチ)である必要があります。

サポートされるシスコ製スライド レール キット

サーバは、次のレール キット オプションをサポートします。

- ・シスコ部品 UCSC-RAILS-M5(ボールベアリング スライド レール キッ
- •2 支柱ラック レール取り付け用のエクステンダ ブラケットキット (UCSC-C240SD-EXT)

ラックの設置に必要な工具

シスコが販売するこのサーバ用のスライドレールの場合、設置に必要な工具はありません。

スライド レール

このサーバのスライドレールの調整範囲は24~36インチ(610~914mm)です。

2支柱ラックエクステンダの取り付け

警告 ラックにこの装置をマウントしたり、ラック上の装置の作業を行うときは、ケガをしないように、装置が安定した状態に置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り 付けます。

ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を 設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステップ1 片側の短いブラケットの端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。フランジが内側を向いていることを確認します。図6:2支柱ラックエクステンダ(22ページ)を参照してください。

下部に1本、上部に1本のネジを使用して、ブラケットを支柱に固定します。

(注) 角穴のレール支柱の場合は、まずブラケットを取り付ける前に角ナットをカチッとはめ込みます。 図*6:2支*柱ラックェクステンダ



ステップ2 繰り返し、反対側の支柱に2番目に短いブラケットを取り付けます。2つのブラケットが同じ高さであり、 水平になっていることを確認します。

ステートメント 1006

ステップ3 長い方のブラケットの端をラック支柱の穴の背面に合わせます。フランジが内側を向いていることを確認します。長いブラケットが短いブラケットと同じ高さであること。図6:2支柱ラックエクステンダ(22ページ)を参照してください。

下部に2本、上部に2本のネジを使用して、ブラケットを支柱に固定します。

(注) 角穴のレール支柱の場合は、まずブラケットを取り付ける前に角ナットをカチッとはめ込みます。

次のタスク

ラックにスライドレールとサーバを取り付ける手順 ラックへのサーバの設置(23ページ)を 実行します。

ラックへのサーバの設置

A

警告 ラックにこの装置をマウントしたり、ラック上の装置の作業を行うときは、ケガをしないように、装置が安定した状態に置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り 付けます。

ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を 設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント1006

始める前に

サーバを2支柱ラックに取り付ける場合は、エクステンダキットが取り付けられていることを 確認します。2支柱ラックエクステンダの取り付け (22ページ)を参照してください。

ステップ1 内側と外側のレールは、組み立てられた状態で出荷されます。内側レールと外側レールを分離します。

- 1. 内部のレールをスライドさせて、内部の止め具に当たります。
- バネ付きロックボタンを矢印の方向にスライドさせて(ボタンに表示)、外側のレールから外し、同時にレールを引き出します。

ステップ2 サーバの側面に内側レールを装着します。

a) レール内の3つのキー付きスロットがサーバ側面の3個のペグの位置に合うように、内側レールをサー バの一方の側の位置に合わせます。

- b) キー付きスロットをペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ペグの所定の位置にロッ クします。前面スロットには、前面ペグにロックするための金属製クリップがあります。
- c) 2 つ目の内側レールをサーバの反対側に取り付けます。

図7:サーバ側面への内側レールの取り付け



ステップ3 両方のスライドレール部品で前面の固定プレートを開きます。スライドレール部品の前端に、バネ仕掛けの固定プレートがあります。取り付けペグをラック支柱の穴に挿入する前に、この固定プレートが開いている必要があります。

部品の外側で、背面を向いている緑色の矢印ボタンを押して、固定プレートを開きます。

図8:前面の固定部分、前端の内側



1	前面側の取り付けペグ	3	開いた位置に引き戻された固定プレート
2	取り付けペグと開いた固定プレートの間 のラック支柱	-	

- ステップ4 外側のスライドレールをラックに取り付けます。
 - a) 片側のスライドレール部品の前端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。

スライドレールの前部がラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部か らラック支柱の穴に入ります。図8:前面の固定部分、前端の内側(24ページ)を参照してください。 (注) ラック支柱は、取り付けペグと開いた固定プレートの間にある必要があります。

- b) 取り付けペグを、外側前面からラック支柱の穴に押し込みます。
- c) 「PUSH」のマークが付いた固定プレートのリリースボタンを押します。ばね仕掛けの固定プレートが 閉じて、ペグが所定の位置にロックされます。
- d) スライドレールの長さを調整し、スライドレールアセンブリの後端を対応する背面ラック支柱の穴に 合わせます。スライドレールは前面から背面に向かって水平である必要があります。
 背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。
- e) ロックレバーを内側に押し、同時に対応する背面ラック支柱の穴に背面取り付けペグを押し込みます。
- f) 取り付けペグを取り付けたら、ロックレバーを放します。
- g) 2 つ目のスライド レール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2 つのスライド レール部品が同じ 高さであり、水平になっていることを確認します。
- h) 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライド レールをラック前方へ引き出します。
- **ステップ5** サーバを次のようにスライドレールに装着します。
 - 注意 このサーバは、コンポーネントがフルに搭載されている場合、最大で18kg(40 ポンド)の重量 になります。サーバを持ち上げるときは、2人以上で行うか、リフトを使用することを推奨しま す。この手順を1人で実行しようとすると、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。
 - a) サーバの側面に装着されている内側レールの後端を、ラック上の空のスライドレールの前端の位置に 合わせます。
 - b) 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライド レールに押し込みます。
 - c) 両方の内側レールで内側レール リリース クリップを背面に向けてスライドさせたら、前面のスラム ラッチがラック支柱に収まるまで、サーバをラックに押し込みます。

図 *9*:内側レール リリース クリップ



1	内側レール リリース クリップ	3	ラック支柱に装着されている外側スライ ド レール
2	サーバに装着され、外側のスライドレー ルに挿入されている内側レール	-	

サーバの初期設定

(注) ここでは、サーバをスタンドアロンモードで使用する場合のサーバの電源投入方法、IPアドレスの割り当て方法、サーバ管理への接続方法について説明します。サーバをCiscoUCS Managerの統合で使用する場合は、特定のケーブル接続および設定が必要です。Cisco UCS Manager統合に適した設置方法(167ページ)を参照してください。

サーバのデフォルト設定

サーバは次のデフォルト設定で出荷されます。

• NIC モードは Shared LOM EXT です。

Shared LOM EXT モードでは、1 Gb/10 Gb イーサネットポートおよび取り付け済みの Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) 上のすべてのポートが、Cisco Integrated Management Interface (Cisco IMC) にアクセスできます。10/100/1000 専用管理ポートを使用して Cisco IMC にアクセスする場合は、Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセット アップ (29 ページ)の説明に従って、サーバに接続して NIC モードを変更できます。

- NIC の冗長性はアクティブ-アクティブです。すべてのイーサネット ポートが同時に使用 されます。
- DHCP は有効になっています。
- IPv4 は有効です。

接続方法

システムに接続して初期設定を行うには、次の2つの方法があります。

- ローカル設定:キーボードとモニタをシステムに直接接続して設定を行う場合は、この手順を使用します。この手順では、サーバの前面にある VGA ポートと USB ポートを使用できます。
- ・リモート設定:専用管理LAN 経由で設定を行う場合は、この手順を使用します。



(注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上にDHCPサーバが存在する必要があります。このサーバノードのMACアドレスの範囲を、DHCPサーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MACアドレスは、前面パネルの引き抜きアセットタグにあるラベルに印字されています。このサーバノードでは、Cisco IMCに6つのMACアドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されているMACアドレスは、6つの連続MACアドレスのうち最初のものです。

ローカル接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- VGA モニタ
- ・USB キーボード
- ・サポートされている USB ケーブルおよび VGA DB-15 ケーブル
- ステップ1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。

DC 電源装置を使用している場合は、DC 電源装置の取り付け(初回の取り付け) (98 ページ)を参照してください。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約2分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータスLEDで確認できます。LEDがオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

- ステップ2 USB キーボードとマウス、VGA モニタを前面パネルの対応するコネクタに接続します。
- ステップ3 Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。
 - a) 前面パネルの電源ボタンを4秒間長押しして、サーバを起動します。
 - b) ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら F8 を押します。
 - (注) Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは password です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- ・パスワードは最低8文字、最大14文字とすること。
- パスワードには、ユーザ名を含めないでください。
- パスワードには次の4つのカテゴリの中から3つに該当する文字を含めること。
 - 大文字の英字(A~Z)
 - 小文字の英字(a~z)
 - •10進数の数字(0~9)
 - ・非アルファベット文字(!、@、#、\$、%、^、&、*、-、_、=、")。

ステップ4 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ (29ページ) に進みます。

リモート接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

•管理 LAN に接続された RJ-45 イーサネット ケーブル X 1。

始める前に

- (注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上にDHCPサーバが存在す る必要があります。このサーバノードのMACアドレスの範囲を、DHCPサーバにあらかじめ 設定しておく必要があります。MACアドレスは、前面パネルの引き抜きアセットタグにある ラベルに印字されています。このサーバノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範 囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC ア ドレスのうち最初のものです。
- ステップ1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。

DC 電源装置を使用している場合は、DC 電源装置の取り付け(初回の取り付け) (98 ページ)を参照してください。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約2分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータスLEDで確認できます。LEDがオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

- ステップ2 管理イーサネット ケーブルを前面パネルの専用管理ポートに差し込みます。
- ステップ3 事前設定された DHCP サーバで、サーバ ノードに IP アドレスを割り当てられるようにします。
- ステップ4 割り当てられた IP アドレスを使用して、サーバ ノードの Cisco IMC にアクセスし、ログインします。IP アドレスを特定するには、DHCP サーバの管理者に相談してください。
 - (注) サーバのデフォルトのユーザ名は admin、デフォルト パスワードは password です。
- ステップ5 Cisco IMC サーバの [Summary] ページで、[Launch KVM Console] をクリックします。別の KVM コンソール ウィンドウが開きます。
- **ステップ6** Cisco IMC の [Summary] ページで、[Power Cycle Server] をクリックします。システムがリブートします。
- **ステップ1** KVM コンソール ウィンドウを選択します。
 - (注) 次のキーボード操作を有効にするには、KVM コンソール ウィンドウがアクティブ ウィンドウで ある必要があります。
- ステップ8 プロンプトが表示されたら、F8を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。このユーティリ ティは、KVM コンソール ウィンドウで開きます。

(注) Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求する プロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは password です。 強力なパスワード 機能が 有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- ・パスワードは最低8文字、最大14文字とすること。
- パスワードにユーザ名を含めないこと。
- ・パスワードには次の4つのカテゴリの中から3つに該当する文字を含めること。
 - 大文字の英字(A~Z)
 - 小文字の英字(a~z)
 - 10進数の数字(0~9)
 - ・非アルファベット文字(!、@、#、\$、%、^、&、*、-、_、=、")。

ステップ9 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ (29ページ) に進みます。

Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ

始める前に

システムに接続して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。

- ステップ1 NIC モードを設定して、サーバ管理用の Cisco IMC へのアクセスに使用するポートを選択します。
 - [Shared LOM EXT](デフォルト): これは、工場出荷時設定の Shared LOM 拡張モードです。この モードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルで す。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの [Active-Active] を選択する必要があります。

NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カード ポートの両方に返されます。サー バがスタンドアロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディ セーブルになります。スタンドアロンモードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、 Cisco Card NIC モードを使用します。

- [Shared LOM]: Cisco IMC へのアクセスに1Gb/10Gb イーサネットポートを使用します。次のステッ プで、NIC 冗長性設定に [Active-Active] または [Active-standby] を選択する必要があります。
- [Dedicated]: Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性 設定に [None] を選択する必要があります。

 [Cisco Card]: Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイス カード (VIC)のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に [Active-Active] または [Active-standby] を選択する必要があります。

必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。

- [VIC Slot]: Cisco Card NIC モードを使用する場合にのみ、VIC を取り付けた場所に合わせて、この 設定を選択する必要があります。Riser1、Riser2、または Flex-LOM (mLOM スロット)のいずれか を選択します。
 - PCIe ライザー1と2Bを組み合わせたサーバの場合:
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット2に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット5に VIC を取り付ける必要があります。
 - PCIe ライザー 1C と 2E を組み合わせたサーバの場合:
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット1に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット2に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Flex-LOM] を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける必要があ ります。
- **ステップ2** 必要に応じて、NIC 冗長性を設定します。このサーバでは、次の3つの NIC 冗長性設定を行うことがで きます。
 - [None]: イーサネットポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
 - [Active-standby]:アクティブなイーサネットポートに障害が発生した場合、スタンバイポートにトラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。
 - [Active-active](デフォルト): すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。
- **ステップ3** ダイナミックネットワーク設定用にDHCPをイネーブルにするか、スタティックネットワーク設定を開 始するかを選択します。
 - (注) DHCPをイネーブルにするには、DHCPサーバにこのサーバのMACアドレスの範囲をあらかじ め設定しておく必要があります。MACアドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。こ のサーバでは、Cisco IMC に6つの MACアドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印 字されている MAC アドレスは、6つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

静的 IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

• Cisco IMC の IP アドレス。

IPv6の場合、有効な値は1~127です。

- IPv6の場合、ゲートウェイが不明な場合は、:: (コロン2つ)を入力して noneのままに設定することができます。
- •優先 DNS サーバ アドレス。

IPv6 の場合、:: (コロン2つ)を入力してこれを none のままに設定することができます。

ステップ4 (任意) VLAN の設定を行います。

•ゲートウェイ。

- ステップ5 F1を押して2番目の設定ウィンドウに移動したら、次のステップに進みます。2番目のウィンドウでF2を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。
- **ステップ6** (任意) サーバのホスト名を設定します。
- ステップ7 (任意) ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS (DDNS) ドメインを設定します。
- **ステップ8** (任意) [Factory Default] チェックボックスをオンにすると、サーバは出荷時の初期状態に戻ります。
- **ステップ9** (任意) デフォルトのユーザ パスワードを設定します。
 - (注) サーバのデフォルトのユーザ名は admin です。デフォルト パスワードは password です。
- **ステップ10** (任意) ポート設定の自動ネゴシエーションをイネーブルにするか、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定します。
 - (注) 自動ネゴシエーションは専用 NIC モードを使用する場合にのみ使用できます。自動ネゴシエーションはサーバが接続されているスイッチ ポートに基づいて自動的にポート速度およびデュプレックス モードを設定します。自動ネゴシエーションをディセーブルにした場合、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定する必要があります。
- **ステップ11** (任意) ポート プロファイルとポート名をリセットします。
- **ステップ12** F5 を押して、行った設定に更新します。次の手順でサーバをリブートする前は、新しい設定が表示され メッセージ「Network settings configured」が表示されるまでに約45秒かかる場合があります。
- ステップ13 F10を押して設定を保存し、サーバを再起動します。
 - (注) DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスが ブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

次のタスク

ブラウザと Cisco IMC の IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理インターフェイスに接続しま す。IP アドレスは、行った設定に基づいています(スタティック アドレスまたは DHCP サー バによって割り当てられたアドレス)。



(注)

サーバのデフォルトのユーザ名は admin です。デフォルト パスワードは password です。

サーバを管理するには、ご使用の Cisco IMC リリースに対応するこれらのインターフェイスの 使用手順について『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide』または『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server CLI Configuration Guide』を参照してください。構成ガイドへの リンクについては、『Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap』を参照してください。

NIC モードおよび NIC 冗長性設定

NIC モード	有効な NIC 冗長性設定
Shared LOM EXT	Active-active
Dedicated	なし
Shared LOM	Active-active
	Active-standby
Cisco Card	Active-active
	Active-standby

表 1: 各 NIC モードに対する有効な NIC 冗長性設定

このサーバには、次のような選択可能な NIC モード設定があります。

[Shared LOM EXT](デフォルト): これは、工場出荷時設定の Shared LOM 拡張モードです。このモードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの [Active-Active]を選択する必要があります。

NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カード ポートの両方に返され ます。サーバがスタンドアロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレス が Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カード からのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。スタンドアロンモードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、Cisco Card NIC モードを使用します。

- [Shared LOM]: Cisco IMC へのアクセスに1Gb/10Gb イーサネットポートを使用します。
 次のステップで、NIC 冗長性設定に [Active-Active] または [Active-standby] を選択する必要があります。
- [Dedicated]: Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。次のステップで、 NIC 冗長性設定に [None] を選択する必要があります。

• [Cisco Card]: Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイス カード (VIC) のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に [Active-Active] または [Active-standby] を選択する必要があります。

必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。

- [VIC Slot]: Cisco Card NIC モードを使用する場合にのみ、VIC を取り付けた場所に合わせて、この設定を選択する必要があります。Riser1、Riser2、または Flex-LOM (mLOM スロット)のいずれかを選択します。
 - PCIe ライザー1と2Bを組み合わせたサーバの場合:
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット2に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット5 に VIC を取り付ける必要があります。
 - PCIe ライザー 1C と 2E を組み合わせたサーバの場合:
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット1に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット2に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Flex-LOM] を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける 必要があります。

このサーバには、次のような選択可能な NIC 冗長化設定があります。

- [None]: イーサネットポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを 行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- [Active-standby]:アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイ ポートにトラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、 それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。
- [Active-active](デフォルト): すべてのイーサネットポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。

BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新

注意 BIOS ファームウェアをアップグレードする場合、Cisco IMC ファームウェアも同じバージョン にアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、サーバが起動しません。 BIOS と Cisco IMC のファームウェアが一致するまで電源をオフにしないでください。オフに すると、サーバが起動しなくなります。

シスコは、BIOS、Cisco IMC、およびその他のファームウェアを互換性のあるレベルに同時に アップグレードできるよう支援するために、*Cisco Host Upgrade Utility* を提供しています。

サーバには、シスコが提供し、承認しているファームウェアが使用されています。シスコは、 各ファームウェアイメージと共にリリースノートを提供しています。ファームウェアを更新 するには、いくつかの方法があります。

 ファームウェアの更新に推奨される方法: Cisco Host Upgrade Utility を使用して、Cisco IMC、BIOS、およびコンポーネントのファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアッ プグレードします。

ファームウェアリリースについては、下記のマニュアルロードマップリンクにある『Cisco Host Upgrade Utility Quick Reference Guide』を参照してください。

• Cisco IMC の GUI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアッ プグレードできます。

『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide』を参照してください。

• Cisco IMC の CLI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアッ プグレードできます。

『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server CLI Configuration Guide』を参照してください。

上記のドキュメントへのリンクについては、『Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap』を 参照してください。

システム BIOS へのアクセス

ステップ1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2キーを押して BIOS セットアップユーティリティに切り替えます。

(注) このユーティリティの [Main] ページに、現在の BIOS のバージョンとビルドが表示されます。

- **ステップ2** 矢印キーを使って、BIOS メニューページを選択します。
- **ステップ3** 矢印キーを使って、変更するフィールドを反転表示にします。
- ステップ4 Enter キーを押して変更するフィールドを選択し、そのフィールドの値を変更します。
ステップ5 Exit メニュー画面が表示されるまで右矢印キーを押します。

ステップ6 Exit メニュー画面の指示に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します(または、F10を押します)。Esc キーを押すと、変更内容を保存せずにユーティリティを終了できます。

スマート アクセス(シリアル)

このサーバは、スマートアクセス(シリアル)機能をサポートしています。この機能により、 ホストのシリアルと Cisco IMC CLI を切り替えることができます。

- •この機能には、次の要件があります。
 - ・サーバの前面パネルにある RJ-45 シリアル コネクタを使用できるシリアル ケーブル 接続。
 - サーバの BIOS でコンソール リダイレクションを有効にする必要があります。
 - ・端末タイプは、VT100+または VTUFT8 に設定する必要があります。
 - Serial over LAN (SoL) を無効にする必要があります (SoL はデフォルトで無効になっています)。
- ホストのシリアルから Cisco IMC CLI に切り替えるには、Esc キーを押した状態で9キー を押します。

接続を認証するために Cisco IMC クレデンシャルを入力する必要があります。

• Cisco IMC CLI からホストのシリアルに切り替えるには、Esc キーを押した状態で8キーを 押します。



(注) Serial over LAN (SoL) 機能が有効になっている場合は、Cisco IMC CLI に切り替えることができません。

・セッションが作成されると、CLI または Web GUI に serial という名前で表示されます。

スマートアクセス(USB)

このサーバは、スマートアクセス(USB)機能をサポートしています。このサーバのボード管理コントローラ(BMC)は、大容量のUSBストレージデバイスに対応しており、そのデータにアクセスすることができます。この機能では、前面パネルのUSBデバイスをメディアとして使用して、ネットワーク接続を必要とせずにBMCとユーザ間でデータを転送できます。これは、リモートBMCインターフェイスがまだ利用可能でない場合や、ネットワークの不良構成によりリモートBMCインターフェイスにアクセスできない場合などに役立ちます。

- •この機能には、次の要件があります。
 - •USB キーボードと VGA モニタを前面パネルの対応するコネクタに接続します。
 - ・前面パネルの USB 3.0 コネクタの1 つに接続された USB ストレージ デバイス。
 - USB 3.0 ベースのデバイスを使用できますが、デバイスは USB 2.0 の速度で動作します。
 - •USB デバイスには1つのパーティションのみを設定することをお勧めします。
 - ・サポートされているファイルシステム形式は、FAT16、FAT32、MSDOS、EXT2、 EXT3、および EXT4 です。NTFS はサポートされません。
- スマートアクセス(USB)は、いずれかのBMCユーザインターフェイスを使用して有効 または無効にすることができます。たとえば、ブートアップ中にメッセージが表示された ときにF8を押すことにより、Cisco IMC設定ユーティリティを使用できます。
 - 有効時:前面パネルの USB デバイスは BMC に接続されています。
 - •無効時:前面パネルのUSBデバイスはホストに接続されています。
- 管理ネットワークを使用してリモートで Cisco IMC に接続できない場合は、シリアルケーブルを介してデバイスファームウェア アップデート(DFU)シェルを使用してテクニカルサポートファイルを生成し、前面パネルの USB ポートに装着されている USB デバイスにダウンロードすることができます。



サーバの保守

この章は、次の項で構成されています。

- •ステータス LED およびボタン (37 ページ)
- ・コンポーネント取り付けの準備 (44ページ)
- コンポーネントの取り外しおよび取り付け(49ページ)
- サービス可能なコンポーネントの場所 (49 ページ)
- PCIe ライザーおよび垂直ドライブベイの SAS/SATA ドライブの交換 (52ページ)
- NVMe SSD の交換 (55 ページ)
- •HHHL フォームファクタ NVMe ソリッド ステート ドライブの交換 (59 ページ)
- ファンモジュールの交換(62ページ)
- CPU およびヒートシンクの交換 (64 ページ)
- •メモリ (DIMM) の交換 (80ページ)
- Intel Optane DC 永続メモリ モジュールの交換 (83 ページ)
- microSD カードの交換(88ページ)
- USB ドライブの交換 (91 ページ)
- RTC バッテリの交換 (93 ページ)
- 電源装置の交換 (95 ページ)
- PCIe ライザーの交換 (99 ページ)
- PCIeライザー 1C および 2E の取り付け (101 ページ)
- PCIe カードの交換 (104 ページ)
- SAS ストレージ コントローラ カード (RAID または HBA)の交換 (112 ページ)
- •ブート最適化 M.2 RAID コントローラ モジュールの交換 (115ページ)
- ・シャーシ侵入スイッチの交換(120ページ)
- ・信頼されたプラットフォームモジュール (TPM) の取り付け (121 ページ)
- サービス ヘッダーおよびジャンパ (125 ページ)
- PCB アセンブリ (PCBA) のリサイクル (133 ページ)

ステータス LED およびボタン

ここでは、LED の状態の解釈について説明します。

前面パネルの LED

図 10:前面パネル LED



表 2:前面パネル LED、状態の定義

	LED 名	状態
1	電源ボタン/LED	 ・消灯:サーバにAC電力が供給されていません。
		 オレンジ:サーバはスタンバイ電源モードです。 Cisco IMC と一部のマザーボード機構にだけ電 源が投入されています。
		 ・緑:サーバは主電源モードです。すべてのサー バコンポーネントに電力が供給されています。
2	ユニット識別	・ 消灯:ユニット識別機能は使用されていません。
		 ・青の点滅:ユニット識別機能がアクティブです。
2	ユニット識別	 オレンジ:サーバはスタンバイ電源モードです Cisco IMC と一部のマザーボード機構にだけ 源が投入されています。 緑:サーバは主電源モードです。すべてのサ バコンポーネントに電力が供給されています 消灯:ユニット識別機能は使用されていません 青の点滅:ユニット識別機能がアクティブです

I

3	システム ヘルス	 ・緑:サーバは正常動作状態で稼働しています。
		 緑の点滅:サーバはシステムの初期化とメモリ チェックを行っています。
		 オレンジの点灯:サーバは縮退運転状態にあり ます(軽度の障害)。次に例を示します。
		・電源装置の冗長性が失われている。
		• CPU が一致しない。
		 ・少なくとも1つのCPUに障害が発生している。
		 ・少なくとも1つのDIMMに障害が発生している。
		 RAID 構成内の少なくとも1台のドライブ に障害が発生している。
		• オレンジの点滅(2 回) : システム ボードで重 度の障害が発生しています。
		 オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で 重度の障害が発生しています。
		 オレンジの点滅(4回): CPU で重度の障害が 発生しています。
4	ファン ステータス	 ・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中 です。
		 オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュール で回復不能なしきい値を超えました。
5	温度ステータス	•緑:サーバは正常温度で稼働中です。
		 オレンジの点灯:1つ以上の温度センサーで重 大なしきい値を超えました。
		 オレンジの点滅:1つ以上の温度センサーで回 復不能なしきい値を超えました。
6	電源装置ステータス	•緑:すべての電源装置が正常に動作中です。
		 オレンジの点灯:1台以上の電源装置が縮退運転状態にあります。
		 オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な 障害発生状態にあります。

I

7	ネットワーク リンク アクティビティ	 ・消灯:イーサネットLOMポートリンクがアイドル状態です。 ・緑:1つ以上のイーサネットLOMポートでリンクがアクティブになっていますが、アクティビティは存在しません。
		 緑の点滅:1つ以上のイーサネットLOMポート でリンクがアクティブになっていて、アクティ ビティが存在します。
8	10 Gb イーサネット リンク速度(LAN1 と LAN2 の両方)	 ・消灯:リンク速度は10 Mbps です。 ・オレンジーリンク速度は1 Gbps/100 Mbps で
		す。 ・緑:リンク速度は 10 Gbps です。
9	10 Gb イーサネット リンク ステータス(LAN1 と LAN2 の両方)	 ・消灯:リンクが確立されていません。 ・緑:リンクはアクティブです。 ・緑の点滅:アクティブなリンクにトラフィックが存在します。
10	1 Gb イーサネット専用管理リンク速度	 ・消灯:リンク速度は10 Mbpsです。 ・オレンジ:リンク速度は100 Mbpsです。 ・緑:リンク速度は1 Gbpsです。
11	1 Gb イーサネット専用管理リンク ステータス	 ・消灯:リンクが確立されていません。 ・緑:リンクはアクティブです。 ・緑の点滅:アクティブなリンクにトラフィックが存在します。

I

12	電源の状態(各電源装置に1つ)	AC 電源装置:
		 ・ 消灯: AC 入力なし(12 V 主電源はオフ、12 V スタンバイは電源オフ)です。
		•緑の点滅:12V主電源はオフ、12Vスタンバイ 電源はオンです。
		•緑の点灯:12V主電源はオン、12Vスタンバイ 電源はオンです。
		 オレンジの点滅:警告しきい値が検出されましたが、12V主電源はオンです。
		 オレンジの点灯:重大なエラーが検出されました(過電流、過電圧、過熱障害など)。12V主 電源はオフです。
		DC 電源(UCSC-PSUF-1050WDC):
		 ・消灯:DC入力なし(12V主電源はオフ、12V スタンバイ電源はオフ)です。
		•緑の点滅:12V主電源はオフ、12Vスタンバイ 電源はオンです。
		 ・緑の点灯:12V主電源はオン、12Vスタンバイ 電源はオンです。
		 オレンジの点滅:警告しきい値が検出されましたが、12V主電源はオンです。
		 オレンジの点灯:重大なエラーが検出されました(過電流、過電圧、過熱障害など)。12V主 電源はオフです。
13	SAS/SATA ドライブの障害	・消灯:ハードドライブは正常に動作中です。
	(注) NVMe ソリッド ステート ドライブ	•オレンジ:ドライブ障害が検出されました。
	(SSD)ドライブ トレイの LED の動作 は、SAS/SATA ドライブ トレイとは異な ります。	•オレンジの点滅:デバイスの再構成中です。
		•1 秒間隔のオレンジの点滅:ソフトウェアでド ライブ位置特定機能がアクティブ化されました。
14	SAS/SATA ドライブ アクティビティ LED	 ・消灯:ハードドライブトレイにハードドライ ブが存在しません(アクセスなし、障害なし)。
		 ・緑:ハードドライブの準備が完了しています。
		 ・緑の点滅:ハードドライブはデータの読み取り 中または書き込み中です。

 NVMe SSD ドライブ障害 (注) NVMe ソリッドステート ドライブ (SSD) ドライブ トレイの LED の動作 は、SAS/SATA ドライブ トレイとは異な ります。 	 ・消灯:ドライブが使用されていないため、安全 に取り外すことができます。 ・緑色:ドライブは使用中で、正常に機能してい ます。 ・緑の点滅:ドライバがインサーションに続いて
	初期化を実行中であるか、またはイジェクトコ マンドに従ってアンロードを実行中です。 ・オレンジ:ドライブに障害が発生しています。
	•オレンジの点滅:ドライブはソフトウェアで Locate コマンドを発行されました。
NVMe SSD アクティビティ	 消灯:ドライブアクティビティはありません。
	•緑の点滅:ドライブ アクティビティがありま す。

内部診断 LED

サーバには、CPU、DIMM、およびファン モジュールの内部障害 LED があります。

1

図 11: 内部診断 LED の場所



消灯: CPU は正常です。

オレンジ: DIMM に障害が発生しています。

消灯: DIMM は正常です。

2	ファン モジュール障害 LED(各ファン モ ジュールの上部に 1 つ)	-	
	 オレンジ:ファンに障害が発生しているか、しっかりと装着されていません。 		
	•緑:ファンは正常です。		

コンポーネント取り付けの準備

ここでは、サーバへのコンポーネントの取り付けの準備に役立つ情報およびタスクについて説 明します。

サービス手順に必要な工具

この章の手順を実行するには、次の工具および器具を使用します。

- •T-30 トルクス ドライバ (ヒートシンクの取り外し用、交換用 CPU に付属)
- ・#1 マイナス ドライバ (CPU またはヒートシンクを交換する際に使用)
- •No.1 プラス ドライバ (M.2 SSD および侵入スイッチ交換用)
- •静電気防止用(ESD)ストラップまたは接地マットなどの接地用器具

サーバのシャットダウンと電源切断

サーバは次の2つの電源モードのいずれかで動作します。

- ・主電源モード: すべてのサーバコンポーネントに電力が供給され、ドライブ上にある任意のオペレーティングシステムが動作できます。
- スタンバイ電源モード:電力はサービスプロセッサと特定のコンポーネントにのみ供給されます。このモードでサーバから電源コードを外すことにより、オペレーティングシステムおよびデータの安全を確保します。



注意 サーバがシャットダウンされてスタンバイ電源になった後も、電流は引き続きサーバ上に残っ ています。電源を完全に切断するには、サービス手順の指示どおりに、サーバ内の電源装置か らすべての電源コードを取り外す必要があります。

サーバをシャットダウンするには、前面パネルの電源ボタンまたはソフトウェア管理インター フェイスを使用します。

電源ボタンを使用したシャットダウン

- ステップ1 電源ボタン/LED の色を確認します。
 - オレンジ:サーバはスタンバイモードであり、安全に電源を切断することができます。
 - ・緑:サーバは主電源モードであり、安全に電源を切断するにはシャットダウンする必要があります。
- ステップ2 次の手順でグレースフルシャットダウンまたはハードシャットダウンを実行します。
 - 注意 データの損失やオペレーティングシステムへの損傷が発生しないようにするために、必ずオペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを実行するようにしてください。
 - グレースフルシャットダウン:電源ボタンを押して放します。オペレーティングシステムでグレース フルシャットダウンが実行され、サーバはスタンバイモードに移行します。移行すると、電源ボタン/LED がオレンジで示されます。
 - •緊急時シャットダウン:4秒間電源ボタンを押したままにして主電源モードを強制終了し、スタンバイモードを開始します。
- **ステップ3** サービス手順でサーバの電源を完全に切断するよう指示されている場合は、サーバの電源装置からすべての電源コードを外します。

Cisco IMC GUI を使用したシャットダウン

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
- ステップ2 [Server] タブの [Summary] をクリックします。
- ステップ3 [Actions] 領域で、[Power Off Server] をクリックします。
- ステップ4 [OK] をクリックします。 オペレーティング システムでグレースフル シャットダウンが実行され、サーバはスタンバイ モードに移 行します。移行すると、電源ボタン/LED がオレンジで示されます。
- **ステップ5** サービス手順でサーバの電源を完全に切断するよう指示されている場合は、サーバの電源装置からすべての電源コードを外します。

Cisco IMC CLI を使用したシャットダウン

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

ステップ1 サーバ プロンプトで、次のように入力します。

例:

server# scope chassis

ステップ2 シャーシプロンプトで、次のように入力します。

例:

server/chassis# power shutdown

オペレーティング システムでグレースフル シャットダウンが実行され、サーバはスタンバイ モードに移 行します。移行すると、電源ボタン/LED がオレンジで示されます。

ステップ3 サービス手順でサーバの電源を完全に切断するよう指示されている場合は、サーバの電源装置からすべての電源コードを外します。

Cisco UCS Manager の [Equipment] タブを使用したシャットダウン

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Rack Mounts] > [Servers] を展開します。
- ステップ3 シャットダウンするサーバを選択します。
- ステップ4 [Work] ペインの [General] タブをクリックします。
- ステップ5 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
- ステップ6 確認ダイアログが表示されたら、[Yes] をクリックします。

オペレーティング システムでグレースフル シャットダウンが実行され、サーバはスタンバイ モードに移 行します。移行すると、電源ボタン/LED がオレンジで示されます。

ステップ7 サービス手順でサーバの電源を完全に切断するよう指示されている場合は、サーバの電源装置からすべての電源コードを外します。

Cisco UCS Manager のサービス プロファイルを使用したシャットダウン

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ2 [Servers] > [Service Profiles] を展開します。
- ステップ3 シャットダウン対象のサーバのサービスプロファイルが含まれる組織のノードを展開します。

ステップ4 シャットダウンするサーバのサービス プロファイルを選択します。

- **ステップ5** [Work] ペインの [General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
- ステップ1 確認ダイアログが表示されたら、[Yes] をクリックします。

オペレーティング システムでグレースフル シャットダウンが実行され、サーバはスタンバイ モードに移 行します。移行すると、電源ボタン/LED がオレンジで示されます。

ステップ8 サービス手順でサーバの電源を完全に切断するよう指示されている場合は、サーバの電源装置からすべての電源コードを外します。

サーバ上部カバーの取り外し



- **注意** 適切な冷却を維持するために、上部カバーを取り付けずにサーバを1分以上稼働させないこと を推奨します。
- **ステップ1** 次のようにして、上部カバーを取り外します。
 - a) カバーのラッチがロックされている場合は、ドライバを使用して、ロックを反時計回りに90度回転さ せて、ロックを解除します。
 - b) 緑のつまみがあるラッチの終端を持ち上げます。ラッチを持ち上げながら、カバーを開いた位置に押 し戻します。
 - c) 上部カバーをサーバからまっすぐ持ち上げ、横に置きます。
- **ステップ2** 次のようにして、上部カバーを取り付けます。
 - a) ラッチが完全に開いた位置にある状態で、カバーを、前面カバーパネルのへりから約2分の1インチ (1.27 cm)後方のサーバ上部に置きます。ラッチの開口部をファントレイから上に突き出ているペグ に合わせます。
 - b) 閉じた位置までカバー ラッチを押し下げます。ラッチを押し下げながら、カバーを閉じた位置まで前 方に押します。
 - c) 必要に応じて、ドライバを使用しロックを時計回りに 90 度回転させて、ラッチをロックします。

図12:上部カバーの取り外し



シリアル番号の場所

1

2

サーバのシリアル番号はサーバ上部、前面近くのラベルに印刷されています。「サーバ上部カ バーの取り外し(47ページ)」を参照してください。

ホット スワップとホット プラグ

一部のコンポーネントは、シャットダウンおよびサーバの電源切断を行わなくても、取り外し と交換が可能です。交換には、ホットスワップとホットプラグの2つの種類があります。

- ホットスワップ交換:ソフトウェアまたはオペレーティングシステムでコンポーネントを シャットダウンする必要がありません。これは、次のコンポーネントに適用されます。
 - ・SAS/SATA ハード ドライブ
 - ・SAS/SATA ソリッド ステート ドライブ
 - 冷却ファン モジュール
 - 電源装置(1+1 冗長の場合)
- ホットプラグ交換:次のコンポーネントを取り外す前に、オフラインにする必要があります。
 - NVMe PCIe ソリッド ステート ドライブ

コンポーネントの取り外しおよび取り付け

A

警告 ブランクの前面プレートおよびカバーパネルには、3つの重要な機能があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への電磁干渉(EMI)の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の冷気の流れを適切な状態に保つことです。システムは、必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーを正しく取り付けた状態で運用してください。

ステートメント 1029

注意 損傷を防ぐため、サーバコンポーネントを取り扱う際には、必ずキャリアエッジを持ち、静 電気防止用(ESD)リストストラップやその他の接地装置を使用してください。

ρ

ヒント 前面パネルまたは背面パネルにあるユニット識別ボタンを押すと、サーバの前面パネルと背面 パネル上の青いユニット識別 LED が点滅します。このボタンの確認によって、ラックの反対 側に移動しても対象のサーバを特定できます。これらの LED は、Cisco IMC インターフェイス を使用してリモートでアクティブにすることもできます。

ここでは、サーバコンポーネントの取り付けと交換の方法について説明します。

サービス可能なコンポーネントの場所

ここでは、フィールドで交換可能なコンポーネントとサービス関連の品目の場所を示します。 次の図に、上部カバーを取り外した状態のサーバを示します。



図 13: Cisco UCS C240 SD M5 サーバ、サービス可能なコンポーネントの場所

		10	
2	マザーボード上の DIMM ソケット(CPU あ たり最大 12)	12	次のオプションの PCIe ライザー 2(ドライブ ベイ 04 と 06、および PCIe 02)
	この図ではエアーバッフルの下にあるため、 図示されていません。		•2B:スロット4(x8)、5(x16)、6(x8) スロット3には CPU2 が必要です。
	DIMM スロットの番号については、DIMMの 装着規則とメモリパフォーマンスに関するガ イドライン (80ページ)を参照してくださ い。		 • 2E: ドライブベイ 04 (x4)、ドライブベイ 06 (x4)、PCIe 4 (x16)。 CPU 2でサポートされるすべてのスロット
3	CPU およびヒートシンク(最大 2)	13	PCIe ライザー 01 の microSD カード ソケット
	この図ではエアーバッフルの下にあるため、 図示されていません。		
4	エアー バッフルの SuperCap 電源モジュール 取り付けクリップ(該当する場合)	14	次のオプションのPCIeライザー1(ドライブベ イ 03 および 05、および PCIe 01):
			•1:スロット1 (X8) 、2 (X16) 、3 (X 8) 。スロット3には CPU2 が必要。
			 1Cードライブベイ03(x4)、ドライブベイ05(x4)、PCIe1(x16)。CPU1でサポートされるすべてのスロット
			スロットの仕様については、PCIe スロットの 仕様 (104 ページ)を参照してください。
5	マザーボード上の内部垂直 USB 3.0 ポート	15	ストレージ コントローラ専用スロット
6	ミニ ストレージ モジュール ソケット。次の オプションがあります。	16	ボード上の mLOM カード ソケット
	•2 台の SD カード スロットを備えた SD カード モジュール。		
	• 2 台の SATA M.2 ドライブ用のスロット を備えた M.2 モジュール		
7	シャーシ侵入スイッチ(任意)	17	RTC バッテリ
8	NVMe SSD 用の PCIe ケーブル コネクタ	18	エアー バッフル上の GPU カード用の保護ク リップ
9	垂直ドライブ バックプレーン アセンブリ		
10	電源ユニット(1+1 冗長の場合にホットス ワップ可能)		

サポートされるコンポーネントの部品番号などの、このサーバのすべてのバージョンの技術仕 様シートは、『Cisco UCS Servers Technical Specifications Sheets』に記載されています(「*Technical Specifications*」まで下へスクロールしてください)。

PCle ライザーおよび垂直ドライブ ベイの SAS/SATA ドラ イブの交換



SAS/SATA ハード ドライブまたは SSD はホットスワップ可能であるため、交換時にサーバを シャットダウンしたり、電源をオフにしたりする必要はありません。

SAS/SATA ドライブの装着に関するガイドライン

Cisco UCS C240 SD M5 は、次の組み合わせで 2.5 インチ SAS / SATA をサポートします。

- PCIe ライザー1 および PCIe ライザー2B この組み合わせは、次のものをサポートします。
 - 最大 2 台の 2.5 インチ SAS/SATA ドライブを搭載した 2 つの垂直ドライブ ベイ
- PCIe ライザー 1C および PCIe ライザー2E ー この組み合わせは、次のものをサポートします。
 - PCIe ライザーの4つのドライブベイは、2.5 インチ SAS/SATA ドライブをサポートします。
 - •2つの垂直ドライブベイで最大2台の2.5インチ SAS/SATA ドライブをサポート

最適なパフォーマンスを得るためには、以下のドライブの装着に関するガイドラインを守って ください。

•1 台のサーバに SAS/SATA ハード ドライブと SAS/SATA SSD を混在させることができま す。ただし、ハード ドライブと SSD が混在する論理ボリューム(仮想ドライブ)を構成 することはできません。つまり、論理ボリュームを作成するときは、すべての SAS/SATA ハード ドライブまたはすべての SAS/SATA SSD を含める必要があります。

4K セクター形式の SAS/SATA ドライブの考慮事項

- •4K セクター形式のドライブはレガシー モードではなく UEFI モードで起動する必要があります。この項の手順を参照してください。
- 同じRAIDボリュームの一部として4Kセクター形式および512バイトセクター形式のドライブを設定しないでください。

•4K セクター ドライブのオペレーティング システム サポートについては、サーバの相互運 用性マトリックス『ハードウェアおよびソフトウェア相互運用性マトリックスツール』を 参照してください。

BIOS セットアップ ユーティリティでの UEFI モード起動の設定

- ステップ1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS Setup ユーティリティに切り替えます。
- ステップ2 [Boot Options] タブに移動します。
- ステップ3 [UEFI Boot Options] を [Enabled] に設定します。
- ステップ4 [Boot Option Priorities]の下で、OS のインストールメディア(仮想 DVD など)を [Boot Option #1] として設定します。
- ステップ5 [Advanced] タブに移動します。
- ステップ6 [LOM and PCIe Slot Configuration] を選択します。
- ステップ7 [PCIe Slot ID: HBA Option ROM] を [UEFI Only] に設定します。
- **ステップ8** F10を押して変更内容を保存し、BIOSセットアップユーティリティを終了します。サーバをリブートできます。
- ステップ9 OS をインストールしたら、次のようインストールを確認します。
 - a) ブート中にメッセージが表示されたら、F2キーを押して BIOS Setup ユーティリティに切り替えます。
 - b) [Boot Options] タブに移動します。
 - c) [Boot Option Priorities] の下で、インストールした OS が [Boot Option #1] にリストされていることを確認します。

Cisco IMC GUI での UEFI モード起動の設定

- ステップ1 Web ブラウザとサーバの IP アドレスを使用して、Cisco IMC GUI 管理インターフェイスにログインします。
- ステップ2 [Server] > [BIOS] に移動します。
- **ステップ3** [Actions] の下の [Configure BIOS] をクリックします。
- **ステップ4** [Configure BIOS Parameters] ダイアログで、[Advanced] タブをクリックします。
- **ステップ5** [LOM and PCIe Slot Configuration] セクションに移動します。
- ステップ6 [PCIe Slot: HBA Option ROM] を [UEFI Only] に設定します。
- **ステップ7** [Save Changes] をクリックします。ダイアログが閉じます。
- ステップ8 [BIOS Properties] の下で [Configured Boot Order] を [UEFI] に設定します。
- **ステップ9** [Actions] で [Configure Boot Order] をクリックします。
- ステップ10 [Configure Boot Order] ダイアログで、[Add Local HDD] をクリックします。
- ステップ11 [Add Local HDD] ダイアログで、4K セクターフォーマット ドライブの情報を入力し、それをブート順序の先頭にします。

ステップ12 変更を保存し、サーバをリブートします。この変更はシステムのリブート後に確認できます。

SAS/SATA ドライブの交換

(注) SAS/SATA ハード ドライブまたは SSD はホットスワップ可能であるため、交換時にサーバを シャットダウンしたり、電源をオフにしたりする必要はありません。

PCIe ライザーまたは垂直ドライブベイから SAS/SATA ドライブを取り外すには、次の手順に 従います。

- ステップ1 次のようにして、交換するドライブを取り外すか、サーバのフロントからブランクドライブトレイを取り 外します。
 - a) ドライブトレイの表面にある解除ボタンを押します。
 - b) イジェクト レバーをつかんで開き、ドライブ トレイをスロットから引き出します。
 - c) 既存のドライブを交換する場合は、ドライブをトレイに固定している4本のドライブトレイネジを外し、トレイからドライブを取り外します。
- **ステップ2** 次のようにして、新しいドライブを取り付けます。
 - a) 空のドライブ トレイに新しいドライブを置き、4本のドライブ トレイ ネジを取り付けます。
 - b) ドライブ トレイのイジェクト レバーを開いた状態で、ドライブ トレイを空のドライブ ベイに差し込みます。
 - c) バックプレーンに触れるまでトレイをスロット内に押し込み、イジェクト レバーを閉じてドライブを 所定の位置に固定します。

図 14: ドライブ トレイ内のドライブの交換



NVMe SSD の交換

このセクションでは、前面パネルのドライブベイの2.5インチフォームファクタNVMeソリッドステート ドライブ (SSD) を交換する手順を説明します。

PCIe スロットの HHHL フォームファクタ NVMe SSD を交換する場合は、HHHL フォームファ クタ NVMe ソリッド ステート ドライブの交換 (59 ページ)を参照してください。

フロントロード NVMe SSD の装着に関するガイドライン

Cisco UCS C240 SD M5 次の組み合わせで 2.5 インチ NVMe SSD をサポートします。

- PCIe ライザー1および PCIe ライザー2B:この組み合わせは、次のものをサポートします。
 最大 2 つの 2.5 インチ NVMe SSD を搭載した 2 つの垂直ドライブ ベイ。
- PCIe ライザー 1C および PCIe ライザー2E: この組み合わせは、次のものをサポートします。
 - ・PCIe ライザーの4つのドライブベイは、最大2つの2.5インチNVMeをサポートします。
 - ・2 つの垂直ドライブベイで最大 2 つの 2.5 インチ NVMe をサポート

NVME SSD の要件と制限事項

次の要件に従ってください。

 システム BIOS でホットプラグのサポートを有効にする必要があります。NVMe ドライブ を搭載したシステムを発注した場合は、ホットプラグサポートが有効にされた状態で出荷 されます。

次の制約事項に従ってください。

- NVMe2.5インチSSDは、UEFIモードでの起動のみをサポートしています。レガシーブートはサポートされていません。UEFIブートの設定手順については、BIOSセットアップユーティリティでのUEFIモード起動の設定(53ページ)またはCisco IMC GUIでのUEFIモード起動の設定(53ページ)を参照してください。
- NVMe SSD は PCIe バス経由でサーバとインターフェイスをとるため、SAS RAID コント ローラでは NVMe PCIe SSD を制御できません。
- ・同じシステムに NVMe 2.5 インチ SSD と HHHL フォームファクタ SSD を混在させること は可能ですが、同じパートナーブランドを使用する必要があります。たとえば、2 台の *Intel* NVMe SFF 2.5 インチ SSD と 2 台の *HGST* HHHL フォーム ファクタ SSD は、無効な 構成です。有効な構成は、2 台の HGST NVMe SFF 2.5 インチ SSD と、2 台の HGST HHHL フォーム ファクタ SSD です。
- ・サポートされているすべてのオペレーティングシステムで、UEFIのブートがサポートされています。VMWare ESXiを除くサポートされているすべてのオペレーティングシステムで、ホットインサーションとホットリムーブがサポートされています。

システム BIOS でのホットプラグ サポートの有効化

ホットプラグ(OS 通知のホットインサーションおよびホットリムーブ)は、デフォルトでは システム BIOS で無効になっています。

- NVMe PCIe SSD を一緒に注文している場合、システムの設定は工場出荷時に有効になっています。特に対処の必要はありません。
- •工場出荷後に NVMe PCIe SSD を追加した場合、BIOS でホットプラグ サポートを有効に する必要があります。次の手順を参照してください。

BIOS セットアップ ユーティリティを使用したホットプラグ サポートの有効化

ステップ1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS Setup ユーティリティに切り替えます。

- ステップ2 [Advanced] > [PCI Subsystem Settings] > [NVMe SSD Hot-Plug Support] に移動します。
- ステップ3 値を [Enabled] に設定します。
- ステップ4 変更を保存し、ユーティリティを終了します。

Cisco IMC GUI を使用したホットプラグサポートの有効化

- ステップ1 ブラウザを使用して、サーバの Cisco IMC GUI にログインします。
- ステップ2 [Compute] > [BIOS] > [Advanced] > [PCI Configuration] に移動します。
- ステップ3 [NVMe SSD Hot-Plug Support] を [Enabled] に設定します。
- ステップ4 変更を保存します。

NVMe SSD の交換

このトピックでは、PCIe ライザーまたは垂直ドライブ ベイで 2.5 インチ フォームファクタ NVMe SSD を交換する手順を説明します。

(注) OS 非通知の取り外しはサポートされていません。OS 通知のホットインサーションおよびホット リムーブは、VMWare ESXi を除くすべてのサポート対象オペレーティング システムでサポートされています。



(注) OS 通知のホットインサーションとホット リムーブはシステム BIOS で有効にする必要があり ます。システム BIOS でのホットプラグサポートの有効化 (56ページ) を参照してください。

ステップ1 既存の NVMe SSD を取り外します。

- a) NVMe SSD をシャットダウンして OS 通知の取り外しを開始します。オペレーティング システム イン ターフェイスを使用してドライブをシャットダウンしてから、ドライブ トレイ LED を確認します。
 - ・緑:ドライブを使用中で、正常に機能しています。取り外さないでください。
 - ・緑色、点滅:ドライバはシャットダウンコマンドに従ってアンロード中です。取り外さないでください。
 - ・消灯:ドライブが使用されていないため、安全に取り外すことができます。
- b) ドライブ トレイの表面にある解除ボタンを押します。
- c) イジェクト レバーをつかんで開き、ドライブ トレイをスロットから引き出します。
- d) SSD をトレイに固定している 4本のドライブ トレイ ネジを外し、トレイから SSD を取り外します。
- (注) NVMe SSD を初めてサーバに取り付ける場合は、PCIe ケーブルと PCIe ライザーを取り付ける必要があります。PCIeライザー 1C および 2E の取り付け (101 ページ)を参照してください。
- ステップ2 新しい NVMe SSD を取り付けます。
 - a) 空のドライブ トレイに新しい SSD を置き、4 本のドライブ トレイ ネジを取り付けます。
 - b) ドライブ トレイのイジェクト レバーを開いた状態で、ドライブ トレイを空のドライブ ベイに差し込みます。
 - c) バックプレーンに触れるまでトレイをスロット内に押し込み、イジェクト レバーを閉じてドライブを 所定の位置に固定します。
- **ステップ3** ドライブ トレイ LED を確認し、緑色に点灯するまでドライブへのアクセスを待機します。
 - 消灯:ドライブは使用されていません。
 - ・緑色、点滅:ドライブはホットプラグインサーションに続いて初期化中です。
 - ・緑:ドライブを使用中で、正常に機能しています。

図 15: ドライブ トレイ内のドライブの交換 4) \bigcirc C (A) C.T (1) 306226 (2) 3 (\$ 1 3 イジェクト レバー ドライブ トレイ ネジ (各側面に2個ず つ) 2 4 解除ボタン ドライブ トレイから取り外したドライブ

HHHL フォームファクタ NVMe ソリッド ステート ドライ ブの交換

ここでは、PCIeライザーのハーフハイト、ハーフレングス(HHHL)フォームファクタNVMe SSDの交換について説明します。

HHHL SSD の装着に関するガイドライン

HHHL フォームファクタの NVMe SSD を取り付けるときは、次の装着に関するガイドライン に従ってください。

- •2 CPU システム: PCIe スロット1~6を使用して最大6台のHHHL フォームファクタ SSD を取り付けることができます。
- ・シングル CPU システム:シングル CPU システムでは、PCIe ライザー2は使用できません。したがって、装着可能な HHHL フォーム ファクタ SSD の最大数は3台(PCIe スロット1~3を使用)になります。

HHHL フォームファクタ NVME SSD の要件と制限事項

次の要件に従います。

・このサーバのすべてのバージョンは、HHHL フォームファクタ NVMe SSD をサポートしています。

次の制限事項に従います。

- ・HHHL フォームファクタ NVMe SSD から起動することはできません。
- NVMe SSD インターフェイスは、PCIe バス経由でサーバに接続するため、SAS RAID コン トローラでは HHHL NVMe SSD を制御できません。
- ・同じシステムに NVMe SFF 2.5 インチまたは 3.5インチ SSD と HHHL フォームファクタ SSD を混在させることは可能ですが、同じパートナー ブランドを使用する必要がありま す。たとえば、2 台の *Intel* NVMe SFF 2.5 インチ SSD と 2 台の *HGST* HHHL フォーム ファ クタ SSD は、無効な構成です。有効な構成は、2 台の HGST NVMe SFF 2.5 インチ SSD と、2 台の HGST HHHL フォーム ファクタ SSD です。

HHHL フォームファクタ NVMe SSD の交換

(注) シングル CPU サーバでは、PCIe ライザー2(スロット2)は使用できません。

- ステップ1 PCIe ライザーから既存の HHHL フォーム ファクタ NVME SSD(またはブランク フィラー パネル)を取り 外します。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断を参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。

- 注意 コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
- c) サーバ上部カバーの取り外しの説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- d) ライザー前端にある青色のライザーハンドルと青色のつまみ部分を両手で上にあげてつかみ、まっす ぐ上に持ち上げます。
- e) ライザーの底部にある、固定プレートを固定しているリリース ラッチを押し、ヒンジ付き固定プレートを回して開きます。
- f) カードの背面パネル タブを固定しているヒンジ付きカード タブ固定具を開きます。
- g) HHHL フォーム ファクタ NVME SSD の両端を均等に引いて、PCIe ライザーのソケットから取り外します。

ライザーに SSD がない場合は、ライザーの背面の開口部からブランクパネルを取り外します。

ステップ2 新しい HHHL フォーム ファクタ NVME SSD を次のようにして取り付けます。

- a) ヒンジ付きプラスチック製カードタブ固定具を開きます。
- b) 新しい SSD を、PCIe ライザーの空ソケットの位置に合わせます。
- c) カードの両端を均等に押し下げて、ソケットにしっかりと装着します。
- d) SSD の背面パネル タブがライザーの背面パネルの開口部に対して水平であることを確認したら、背面 パネル タブでヒンジ付きカード タブ固定具を閉じます。
- e) ヒンジ付き固定プレートを閉じます。
- f) PCIe ライザーを、マザーボード上のソケットとシャーシの位置合わせチャネルの上に配置します。
- g) PCIe ライザーの両端を慎重に押し下げて、コネクタをマザーボード上のソケットにしっかりと収納します。
- h) サーバに上部カバーを戻します。
- i) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。

図 16: PCle ライザー カード固定構造



ファンモジュールの交換

サーバの6台のファンモジュールには、サービス可能なコンポーネントの場所 (49ページ) に示すように番号が割り当てられています。

 \mathcal{P}

ヒント 各ファンモジュールの上部に、障害 LED があります。この LED が緑色に点灯している場合 は、ファンが正しく設置されており、動作が良好です。ファンに障害が発生している場合、ま たはファンが正しく装着されていない場合、LED はオレンジ色に点灯します。 Â

- 注意 ファンモジュールはホットスワップ可能なため、ファンモジュールの交換時にサーバのシャットダウンまたは電源の切断を行う必要はありません。ただし、適切な冷却を保てるよう、ファンモジュールを取り外した状態でのサーバの稼働は、1分以内にしてください。
- **ステップ1** 既存のファン モジュールを取り外します。
 - a) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
 - b) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
 - c) ファンモジュールの上部にあるリリースラッチをつかんで両側から押します。まっすぐ持ち上げ、マ ザーボードからコネクタを外します。
- **ステップ2** 次のようにして、新しいファン モジュールを取り付けます。
 - a) 新しいファン モジュールを所定の位置に置きます。ファン モジュール上部に印字されている矢印が サーバ後部に向いている必要があります。
 - b) ファン モジュールをゆっくりと押し下げて、マザーボード上のコネクタにしっかりと差し込みます。
 - c) サーバに上部カバーを戻します。
 - d) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。

図 17: ファン モジュールの上面図



CPU およびヒートシンクの交換

ここでは、次の内容について説明します。

- CPU 構成ルール (65 ページ)
- CPU の交換に必要な工具 (66 ページ)
- CPU およびヒートシンクの交換 (67 ページ)
- RMA 交換 CPU の注文に追加する CPU 関連部品 (73 ページ)

第二世代 Intel Xeon Scalable Processors へのアップグレードのための特 別情報

∕!∖

注意

このサーバでサポートされている第二世代の Intel Xeon Scalable processors にアップグレードす る前に、サーバのファームウェアを必要な最小レベルにアップグレードする必要があります。 古いバージョンのファームウェアは新しい CPU を認識できないため、サーバがブート不可能 になります。

第二世代 Intel Xeon Scalable processors をサポートするこのサーバで、必要な最小のソフトウェ アおよびファームウェア バージョンは、次のとおりです。

表 3: 第二世代	Intel Xeon	Scalable	Processors (の最小	要件
-----------	------------	----------	--------------	-----	----

ソフトウェアまたはファームウェア	最小バージョン
サーバ Cisco IMC	4.0(4)
サーバ BIOS	4.0(4)
Cisco UCS Manager (UCS 統合サーバのみ)	4.0(4)

次のいずれか1つの処理を実行します。

- ・サーバのファームウェアや Cisco UCS Manager ソフトウェアが上(または後で)に示されている最小の必要レベルである場合は、このセクションの手順を使用して CPU ハードウェアを交換できます。
- サーバのファームウェアや Cisco UCS Manager ソフトウェアが必要レベルよりも古い場合は、『Cisco UCS C- and S-Series M5 Servers Upgrade Guide for Next Gen Intel Xeon Processors』の指示に従ってソフトウェアをアップグレードします。ソフトウェアをアップグレードした後、指示通りにこのセクションに戻り、CPU ハードウェアを交換します。

CPU 構成ルール

このサーバのマザーボードには2個の CPU ソケットがあります。各 CPU は、6 つの DIMM チャネル(12の DIMM スロット)をサポートします。DIMM の装着規則とメモリ パフォーマ ンスに関するガイドライン (80ページ)を参照してください。

- ・サーバは、1 つの CPU または 2 つの同型 CPU が取り付けられた状態で動作できます。
- 最小構成では、サーバに最低でも CPU 1 が取り付けられている必要があります。最初に CPU 1、次に CPU 2 を取り付けます。
- ・インテル Xeon Scalable プロセッサー(第一世代)の場合:1 つの CPU によって制御される12 個の DIMM スロットで使用できる最大合計メモリ容量は768 GB です。12 個の DIMM

スロットに合計 768 GB を超える容量のメモリを装着するには、「M」で終わる PID を持 つ大容量メモリ CPU(たとえば、UCS-CPU-6134 M)を使用する必要があります。

- 第二世代インテル Xeon Scalable プロセッサー:これらの第二世代 CPU には3つのメモリ 階層があります。これらの規則は、ソケット単位で適用されます。
 - CPU ソケットに最大1TB のメモリが搭載されている場合は、サフィックスのない CPU を使用できます(例: Gold 6240)。
 - CPU ソケットに最大1TB 以上(最大2TB)のメモリが搭載されている場合は、Mサ フィックスが付いた CPU(例:プラチナ 8276M)を使用する必要があります。
 - CPU ソケットに最大 2 TB 以上(最大 4.5 TB))のメモリが搭載されている場合は、L サフィックスが付いた CPU(例:プラチナ 8270L)を使用する必要があります。
- ・次の制約事項は、シングル CPU 構成を使用する場合に適用されます。
 - ・未使用 CPU ソケットがある場合は、工場出荷時ダスト カバーの装着が必要です。
 - DIMM の最大数は 12 です(CPU 1 チャネル A、B、C、D、E、F のみ)。
 - PCIe ライザー2(スロット4、5、6)は使用できません。
 - ・3 つのスロット(PCIe1、2、3)をすべてサポートするには、PCIe ライザー1 (UCSC-RSI-1-240M5)を使用する必要があります。PCIe ライザー1 (UCSC-PCI-1-C240M5)のスロット3は、CPU2により制御されるため、使用できま せん。
 - •フロントロードNVMeドライブは使用できません(PCIeライザー2または1Cが必要です)。
- 次の NVIDIA GPU は、Second Generation Intel Xeon Scalable processor ではサポートされて いません。
 - NVIDIA Tesla P4
 - NVIDIA Tesla P100 12G
 - NVIDIA Tesla P100 16G

CPUの交換に必要な工具

- この手順に必要な工具および器具は、次のとおりです。
 - •T-30 トルクス ドライバ:交換用 CPU に付属。
 - No.1 マイナス ドライバ:交換用 CPU に付属。
 - CPU アセンブリ ツール:交換用 CPU に付属。Cisco PID UCS-CPUAT=として個別に注文 可能。

 ・ヒートシンク クリーニング キット:交換 CPU に付属。Cisco PID UCSX-HSCK=として個 別に注文可能。

1つのクリーニングキットで最大4つの CPU をクリーンアップできます。

・サーマルインターフェイスマテリアル(TIM):交換用 CPU に付属しているシリンジ。
 既存のヒートシンクを再利用する場合にのみ使用(新しいヒートシンクには、TIMのパッドがあらかじめ貼り付けられています)。Cisco PID UCS-CPU-TIM=として個別に注文可能。

1つの TIM キットが1つの CPU をカバーします。

RMA 交換 CPU の注文に追加する CPU 関連部品 (73 ページ)も参照してください。

CPU およびヒートシンクの交換

∕!∖

注意 CPUとそのソケットは壊れやすいので、ピンを損傷しないように十分に注意して扱う必要があります。CPUはヒートシンクとサーマルインターフェイスマテリアルとともに取り付け、適切に冷却されるようにする必要があります。CPUを正しく取り付けないと、サーバが損傷することがあります。

この手順についての学習ビデオを「CPU and Heatsink Replacement in Cisco UCS M5 Servers」で 視聴できます。

- ステップ1 既存の CPU/ヒートシンク アセンブリをサーバから取り外します。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
 - c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
 - d) 交換用 CPU に付属している T-30 トルク ドライバを使用して、アセンブリをマザーボードのスタンド オフに固定している 4 つの非脱落型ナットを緩めます。
 - (注) ヒートシンクを水平に持ち上げるため、ヒートシンク ナットを交互に均等に緩めます。ヒー トシンク ナットを、ヒートシンク ラベルに示されている順序(4、3、2、1)で緩めます。
 - e) CPU/ヒートシンクアセンブリをまっすぐ持ち上げ、ヒートシンクを下にして静電気防止用シートに置きます。

図 18: CPU/ヒートシンク アセンブリの取り外し



1	ヒートシンク	4	マザーボード上の CPU ソケット
2	ヒートシンクの非脱落型ナット(各側 に2個)	5	T-30 トルク ドライバ
3	CPUキャリア(この図ではヒートシン クの下)	-	

- **ステップ2** CPU アセンブリからヒートシンクを離します(CPU アセンブリは CPU とプラスチック製 CPU キャリアで 構成されています)。
 - a) ヒートシンクが上下逆になるようにヒートシンクと CPU アセンブリを配置します。

サーマルインターフェイスマテリアル(TIM)ブレーカーの位置に注意してください。CPUキャリア 上の小さなスロットの横に、TIM BREAKER と印字されています。 図 19: ヒートシンクと CPU アセンブリの切り離し



1	CPU キャリア	4	TIM ブレーカー スロットに最も近い位 置にある CPU キャリアの内側ラッチ
2	СРИ	5	TIM ブレーカー スロットに差し込まれ ている No.1 マイナス ドライバ
3	CPUキャリアのTIMBREAKERスロット	-	

- b) TIMブレーカースロットに最も近い位置にあるCPUキャリアクリップをつまんでから押し上げ、ヒー トシンクの隅のスロットからクリップを外します。
- c) TIM BREAKER と印字されているスロットに、#1 マイナス ドライバの先端を差し込みます。
 - (注) 次のステップでは、CPUの表面を押し開けないでください。ゆっくりと回転させ、TIMブレー カースロットの位置でCPUキャリアのプラスチック面を持ち上げます。ヒートシンク表面の 損傷を防ぐため、十分注意してください。
- d) ドライバをゆっくりと回転させ、ヒートシンクのTIMがCPUから離れるまで、CPUを持ち上げます。
 (注) ドライバの先端で緑色のCPU基盤に触ったり、損傷したりしないようにしてください。
- e) TIM ブレーカーの反対側の隅にある CPU キャリア クリップをつまんで押し上げ、ヒートシンクの隅の スロットからクリップを外します。

- f) CPU キャリアの残りの 2 つの隅で、外側ラッチをゆっくりと外側に押し開け、ヒートシンクから CPU アセンブリを持ち上げます。
 - (注) CPUアセンブリを取り扱うときには、プラスチック製のキャリアだけをつかんでください。 CPUの表面には触れないでください。プラスチック製のキャリアからCPUを外さないでください。
- ステップ3 新しい CPU アセンブリは、CPU アセンブリツールに入った状態で出荷されます。新しい CPU アセンブリ と CPU アセンブリツールを箱から取り出します。

CPU アセンブリと CPU アセンブリ ツールが外れている場合は、位置合わせ機構で正しい向きを確認して ください。CPU キャリアのピン1の三角形を、CPU アセンブリツールの斜めになった角に合わせる必要が あります。

注意 CPU とそのソケットは壊れやすいので、ピンを損傷しないように十分に注意して扱う必要があり ます。

図 20: CPU アセンブリ ツール、CPU アセンブリ、ヒートシンク位置合わせ機構
1	CPU アセンブリ ツール	4	ヒートシンクの斜めになった角(ピン1 位置合わせ機構)
2	CPUアセンブリ(プラスチック製キャリ ア フレーム内の CPU)	5	プラスチック製キャリアの三角形の切り 込み(ピン1位置合わせ機構)
3	ヒートシンク	6	CPU アセンブリ ツールの斜めになった角 (ピン1位置合わせ機構)

- ステップ4 新しい TIM をヒートシンクに塗布します。
 - (注) 適切に冷却されてパフォーマンスが出るように、ヒートシンクの CPU 側の表面に新しい TIM が 必要です。
 - 新しいヒートシンクを取り付ける場合は、新しいヒートシンクにはTIMが塗布されたパットが付属しています。ステップ5に進みます。
 - ・ヒートシンクを再利用する場合は、ヒートシンクから古い TIM を除去してから、付属のシリンジから 新しい TIM を CPU 表面に塗布する必要があります。次のステップ a に進みます。
 - a) ヒートシンクの古い TIM に、ヒートシンク クリーニング キット(UCSX-HSCK=) 付属の洗浄液を塗 布し、少なくとも 15 秒間吸収させます。
 - b) ヒートシンク クリーニング キット付属の柔らかい布を使って、古い CPU から TIM をすべてふき取り ます。ヒートシンク表面に傷を付けないように注意してください。
 - c) 新しい CPU (UCS-CPU-TIM=) 付属の TIM のシリンジを使用して、4 立方センチメートルのサーマル インターフェイスマテリアルを CPU の上部に塗布します。均一に塗布されるように、次に示すパター ンを使用してください。

図 21: サーマル インターフェイス マテリアルの塗布パターン



ステップ5 (注) 適切に冷却を行うため、ご使用のCPUに対応した正しいヒートシンクだけを使用します。ヒートシンクには、UCSC-HS-C240M5(150W以下の標準パフォーマンスCPU用)とUCSC-HS2-C240M5(150W超のハイパフォーマンスCPU用)の2種類があります。ヒートシンクのラベルに示されているワット数に注意してください。

CPU アセンブリッールに CPU アセンブリが配置されている状態で、ヒートシンクを CPU アセンブリに設置します。正しい向きになるように、ピン1の位置合わせ機構に注意してください。CPU キャリアの隅の クリップがヒートシンクの隅にはまるときのカチッという音が聞こえるまで、ゆっくりと押し下げます。

- **注意** 次のステップでは、CPU コンタクトや CPU ソケット ピンに触れたり損傷したりすることがない ように、十分注意してください。
- **ステップ6** CPU/ヒートシンク アセンブリをサーバに取り付けます。
 - a) CPU アセンブリ ツールから、ヒートシンクと、ヒートシンクに取り付けられている CPU アセンブリ を持ち上げます。
 - b) アセンブリを、マザーボードの CPU ソケットの位置に合わせます。

位置合わせ機構に注意してください。ヒートシンクのピン1の斜めになった角が、CPU ソケットのピン1の斜めになった角と合っている必要があります。CPU ソケットの支柱が、アセンブリのガイド穴の位置に合っている必要があります。



1	アセンブリのガイド穴(2 個)	4	ヒートシンクの斜めになった角 (ピン1
			位置合わせ機構)

2	CPU ソケットの位置合わせ支柱(2 個)	5	ソケットの斜めになった角(ピン1位置 合わせ機構)
3	CPU ソケット リーフ スプリング	-	

- c) CPU アセンブリとヒートシンクを CPU ソケットに配置します。
- d) 交換用 CPU に付属している T-30 トルク ドライバを使用して、ヒートシンクをマザーボードのスタン ドオフに固定する 4 つの非脱落型ナットを締めます。
 - (注) ヒートシンクを水平に下ろすため、ヒートシンクナットを交互に均等に締めます。ヒートシンクナットを、ヒートシンクラベルに示されている順序(1、2、3、4)で締めます。CPUソケットのリーフスプリングが平らになるように、非脱落型ナットを完全に締める必要があります。
- e) サーバに上部カバーを戻します。
- f) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。

RMA 交換 CPU の注文に追加する CPU 関連部品

CPU の返品許可(RMA)が Cisco UCS C シリーズ サーバで行われた場合は、追加部品が CPU のスペアに含まれていないことがあります。TAC エンジニアが正常に交換を行うためには、 RMA に追加部品を追加する必要がある場合があります。



- (注) 次の項目が CPU 交換シナリオに適用されます。システム シャーシを交換し、既存の CPU を新しいシャーシに移動する場合は、CPU からヒートシンクを分離する必要はありません。RMA 交換システム シャーシの注文に追加する CPU 関連部品 (74ページ)を参照してください。
 - シナリオ1:既存のヒートシンクを再利用しています。
 - ・ヒートシンクのクリーニングキット(UCSX-HSCK=)

1つのクリーニングキットで最大4つの CPU をクリーンアップできます。

• M5 サーバ用サーマル インターフェイス マテリアル (TIM) キット (UCS CPUTIM =)

1つの TIM キットが1つの CPU をカバーします。

シナリオ2:既存のヒートシンクを交換しています。

- \triangle
- 注意 適切に冷却を行うため、必ずCPUに合った正しいヒートシンクを
 使用してください。ヒートシンクには、UCSC-HS-C240M5(150
 W 以下の CPU 用)と UCSC-HS2-C240M5(150 W を超える CPU
 用)の2種類があります。
- ・ヒートシンク: UCSC-HS-C240M5(150W以下のCPU用)とUCSC-HS2-C240M5(150Wを超えるCPU用)

新しいヒートシンクには、TIM が事前に塗布されたパッドが付いています。

・ヒートシンクのクリーニングキット(UCSX-HSCK=)

1つのクリーニングキットで最大4つの CPU をクリーンアップできます。

- ・シナリオ3: CPU キャリア(CPU の周りのプラスチック フレーム)が破損しています。
 - ・CPU キャリア:UCS-M5-CPU-CAR=
 - ・#1 マイナス ドライバ (ヒートシンクからの CPU の分離に使用)
 - ・ヒートシンク クリーニング キット (UCSX-HSCK=)

1つのクリーニングキットで最大4つの CPU をクリーンアップできます。

• M5 サーバ用サーマルインターフェイス マテリアル (TIM) キット (UCS CPUTIM =)

1つの TIM キットが1つの CPU をカバーします。

CPU ヒートシンク クリーニング キットは最大 4 CPU およびヒート シンクのクリーニングに最 適です。クリーニング キットには、古い TIM の CPU およびヒートシンクのクリーニング用 と、ヒートシンクの表面調整用の 2 本のボトルの溶液が入っています。

新しい予備ヒートシンクには、TIMが事前に塗布されたパットが付属しています。ヒートシン クを取り付ける前に、CPUの表面から古い TIM を洗浄することが重要です。したがって、新 しいヒートシンクの発注時でも、ヒートシンク クリーニング キットを注文する必要がありま す。

RMA 交換システム シャーシの注文に追加する CPU 関連部品

システム シャーシの返品許可(RMA)を Cisco UCS C シリーズ サーバで行った場合は、既存の CPU を新しいシャーシに移動します。



(注) 前世代の CPU とは異なり、M5 サーバの CPU では CPU ヒートシンク アセンブリを移動する際 に CPU からヒートシンクを分離する必要がありません。したがって、ヒートシンク クリーニ ング キットやサーマル インターフェイス マテリアルの品目を追加する必要はありません。 • CPU またはヒートシンク アセンブリの移動に必要なツールは T-30 トルクス ドライバのみ です。

CPUを新しいシャーシに移動するには、**M5**世代 **CPU**の移動(75ページ)の手順を使用します。

M5 世代 CPU の移動

この手順に必要なツール: T-30 トルクス ドライバ

Â

- 注意 RMAにより発送される交換用サーバでは、すべてのCPUソケットにダストカバーが装着されています。カバーは輸送中にソケットのピンを損傷から保護します。以下の手順で説明するように、返品するシステムにこれらのカバーを移動させる必要があります。
- ステップ1 M5 CPU を新しいサーバに移動する場合、CPU からヒートシンクを分離する必要はありません。次の操作 を行ってください。
 - a) T-30 トルクス ドライバを使用して、ボードのスタンドオフにアセンブリを固定している 4 本のキャプ ティブ ナットを緩めます。
 - (注) ヒートシンクを水平に持ち上げるため、ヒートシンクナットを交互に均等に緩めます。ヒー トシンクナットを、ヒートシンクラベルに示されている順序(4、3、2、1)で緩めます。
 - b) CPUとヒートシンクのアセンブリをまっすぐに持ち上げて、ボードから取り外します。
 - c) ヒートシンクを外して CPU を静電気防止シートの上に置きます。

図 23: CPU/ヒートシンク アセンブリの取り外し



1	ヒートシンク	4	マザーボード上の CPU ソケット
2	ヒートシンクの非脱落型ナット(各側 に2個)	5	T-30 トルク ドライバ
3	CPUキャリア(この図ではヒートシン クの下)	-	

- **ステップ2**新しいシステムから返品するシステムに CPU ソケット カバーを移動させます。
 - a) ソケットカバーを交換用システムから取り外します。「REMOVE」マークが付けられた2個のくぼみ をつかみ、真っ直ぐに持ち上げます。
 - (注) カバーの両端のくぼみをしっかりとつかんでください。CPU ソケットのピンに触れないでく ださい。

図 24: CPU ソケット ダスト カバーの取り外し



- b) ダストカバーの文字が書かれた面を上にして、CPU ソケットの上に装着します。カバーの穴開き部分 がソケット プレート上のすべての位置合わせ支柱に合っていることを確認します。
 - **注意** 次の手順で記述されている2ヵ所以外、カバー上のどこも押さないでください。他の場所を 押すとソケットのピンが損傷する危険性があります。
- c) 2つのネジ式支柱の近くにある「INSTALL」の横の2つの丸いマークを押し下げます(次の図を参照)。カチッという音が聞こえ、装着された感触がするまで押します。
 - (注) 輸送中にダストカバーが緩まないようにするため、カチッという音と感触がするまで押す必要があります。



ステップ3 新しいシステムに CPU を取り付けます。

a) 新しいボード上で、次に示すように、CPU ソケット上にアセンブリの位置を合わせます。

位置合わせ機構に注意してください。ヒートシンクのピン1の斜めになった角が、CPU ソケットのピン1の斜めになった角と合っている必要があります。CPU ソケットの支柱が、アセンブリのガイド穴の位置に合っている必要があります。



図 26: CPU ソケットへのヒートシンク/CPU アセンブリの取り付け

1	アセンブリのガイド穴(2 個)	4	ヒートシンクの斜めになった角(ピン1 位置合わせ機構)
2	CPU ソケットの位置合わせ支柱(2 個)	5	ソケットの斜めになった角(ピン1位置 合わせ機構)
3	CPU ソケット リーフ スプリング	-	

- b) 新しいボード上で、CPU とヒートシンクのアセンブリを CPU ソケットに配置します。
- c) T-30 トルクス ドライバを使用して、ヒートシンクをボードのスタンドオフに固定する 4 本のキャプ ティブ ナットを締め付けます。
 - (注) ヒートシンクを水平に下ろすため、ヒートシンクナットを交互に均等に締めます。ヒートシンクナットを、ヒートシンクラベルに示されている順序(1、2、3、4)で締めます。CPUソケットのリーフスプリングが平らになるように、非脱落型ナットを完全に締める必要があります。

メモリ (DIMM)の 交換

Â

注意 DIMM とそのソケットは壊れやすいので、取り付け中に損傷しないように、注意して扱う必要 があります。

Æ

注意 シスコではサードパーティの DIMM はサポートしていません。シスコ以外の DIMM をサーバ で使用すると、システムに問題が生じたり、マザーボードが損傷したりすることがあります。

(注) サーバ パフォーマンスを最大限に引き出すには、DIMM の取り付けまたは交換を行う前に、 メモリ パフォーマンスに関するガイドラインと装着規則を熟知している必要があります。

DIMM の装着規則とメモリ パフォーマンスに関するガイドライン

ここでは、最大のメモリパフォーマンスを得るためのルールおよびガイドラインについて説明 します。

DIMM スロットの番号付け

次の図に、マザーボード上の DIMM スロットの番号付けを示します。

図 27 : DIMM スロットの番号付け



DIMM 装着ルール

最大のパフォーマンスを得るために、DIMMの取り付けまたは交換を行うときは、次のガイド ラインに従ってください。

- •各 CPU では6つのメモリ チャネルがサポートされます。
 - CPU1はチャネルA、B、C、D、E、Fをサポートします。
 - CPU2はチャネルG、H、J、K、L、Mをサポートします。

- ・各チャネルには DIMM スロットが 2 つあります(たとえば、チャネル A=スロット A1 と A2)。
- ・シングルCPU構成の場合、CPU1のチャネルのみに装着します(A、B、C、D、E、F)。
- ・最適なパフォーマンスを得るには、CPUの数およびCPUあたりのDIMMの数に応じて、 次の表に示す順序でDIMMを装着します。サーバにCPUが2つ搭載されている場合は、 次の表に示すように、2つのCPU間でDIMMが均等になるように調整します。



(注) 次の表に、推奨構成を示します。CPU あたり 5、7、9、10、または 11 個の DIMM を使用することはお勧めしません。

表 4: DIMM 装着順序

CPU あたりの		ットへの装着	CPU1のスロットの装着		
DIMINI の数(推 奨構成)	青の#1スロット	黒の#2スロット	青の#1スロット	黒の#2スロット	
1	(K1)	-	(D1)	-	
2	(K1, L1)	-	(D1, E1)	-	
3	(K1, L1, M1)	-	(D1, E1, F1)	-	
4	(K1, L1); (G1, H1)	-	(D1, E1); (A1, B1)	-	
6	(K1, L1); (M1, G1); (H1, J1)	-	(D1, E1); (F1, A1); (B1, C1)	-	
8	(K1, L1); (G1, H1)	(K2, L2); (G2, H2)	(D1, E1); (A1, B1)	(D2, E2); (A2, B2)	
12	(K1, L1); (M1, G1); (H1, J1)	(K2, L2); (M2, G2); (H2, J2)	(D1, E1); (F1, A1); (B1, C1)	(D2, E2); (F2, A2); (B2, C2)	

- •1 つの CPU によって制御される 12 個の DIMM スロットで使用できる最大合計メモリ容量 は 768 GB です。12 個の DIMM スロットに合計 768 GB を超える容量のメモリを装着する には、「M」で終わる PID を持つ大容量メモリ CPU(たとえば、UCS-CPU-6134 M)を使 用する必要があります。
- ・メモリのミラーリングを使用すると、2つの装着済みチャネルの一方からしかデータが提供されないため、使用可能なメモリ量が50%減少します。メモリのミラーリングを有効にしている場合は、偶数番号のチャネルに DIMM を装着する必要があります。
- NVIDIA M シリーズ GPU は、サーバで1 TB 未満のメモリのみサポートします。
- NVIDIA P シリーズ GPU は、サーバで1 TB 以上のメモリがさらにサポートできます。
- ・AMD FirePro S7150 X2 GPU は、サーバで1 TB 以下のメモリのみサポートします。
- ・次の表に示す DIMM の混在規則に従ってください。

表 5 : D	<i>IMM</i> の混在	使用の規則
---------	----------------	-------

DIMM パラメータ	同一チャネル内の DIMM	同ーバンク内の DIMM
DIMM 容量 例:8 GB、16 GB、 32 GB、64 GB、128 GB	同一チャネル内に異なる容量 の DIMM を混在させることが できます(たとえば、A1、A2 など)。	バンク内で DIMM 容量を混在させ ることはできません(たとえば、 A1、B1)。DIMM のペアは同じで ある必要があります(同じPIDおよ びリビジョン)。
DIMM 速度 例:2666 GHz	速度を混在できますが、DIMM はチャネルにインストールさ れた最も遅いDIMM/CPUの速 度で動作します。	バンク内で DIMM 速度を混在させ ることはできません(たとえば、 A1、B1)。DIMM のペアは同じで ある必要があります(同じ PID およ びリビジョン)。
DIMM タイプ RDIMM または LRDIMM	チャネル内で DIMM タイプを 混在させることはできません。	バンク内で DIMM タイプを混在さ せることはできません。

メモリのミラーリング

偶数個のチャネルに DIMM を装着した場合にのみ、サーバの CPU がメモリ ミラーリングをサ ポートします。1 つのチャネルまたは 3 つのチャネルに DIMM を装着した場合、メモリのミ ラーリングは自動的に無効になります。

メモリのミラーリングを使用すると、2つの装着済みチャネルの一方からしかデータが提供されないため、使用可能なメモリ量が 50%減少します。また、重複するチャネルは冗長性を提供します。

DIMMの交換

障害のある DIMM の識別

各 DIMM ソケットには、対応する DIMM 障害 LED が DIMM ソケットの正面にあります。こ れらの LED の位置については、内部診断 LED (42 ページ) を参照してください。サーバが スタンバイ電源モードの場合、これらの LED はオレンジ色に点灯し、障害のある DIMM であ ることを示します。

- ステップ1 次のようにして、既存の DIMM を取り外します。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。

- 注意 コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
- c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- d) DIMM スロットの前端を覆うエアーバッフルを取り外してスペースを空けます。
- e) 取り外す DIMM の場所を確認して、その DIMM スロットの両端のイジェクト レバーを開きます。

ステップ2 次のようにして、新しい DIMM を取り付けます。

- (注) DIMMを装着する前に、このサーバのメモリ装着規則(DIMMの装着規則とメモリパフォーマンスに関するガイドライン(80ページ))を参照してください。
- a) 新しい DIMM をマザーボード上の空のスロットの位置に合わせます。DIMM スロット内の位置合わせ 機能を使用して、DIMM を正しい向きに配置します。
- b) DIMM がしっかりと装着され、両端のイジェクトレバーが所定の位置にロックされるまで、DIMM の 上部の角を均等に押し下げます。
- c) サーバに上部カバーを戻します。
- d) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。

Intel Optane DC 永続メモリ モジュールの交換

このトピックには、Intel Optane データセンター永続メモリモジュール(DCPMM)を交換する ための情報(検証機能のための装着規則と方法を含む)が含まれています。DCPMMはDDR4 DIMMと同じフォームファクタを持ち、DIMM スロットに取り付けます。

Â

注意 DCPMMとそのソケットは壊れやすいので、取り付け中に損傷しないように、注意して扱う必要があります。

(注) サーバパフォーマンスを最大限に引き出すには、DCPMMの取り付けまたは交換を行う前に、 メモリパフォーマンスに関するガイドラインと装着規則を熟知している必要があります。

 (注) Intel Optane DC 永続メモリ モジュールには、第二世代 Intel Xeon Scalable processors が必要で す。DCPMM をインストールする前に、サーバのファームウェアと BIOS をバージョン 4.0 (4) 以降にアップグレードしてから、サポートされている第二世代 Intel Xeon Scalable processors を インストールする必要があります。

DCPMMは、次の3つのモードのいずれかで動作するように設定できます。

- ・メモリモード:モジュールは100%メモリモジュールとして動作します。データは揮発性であり、DRAMはDCPMMのキャッシュとして機能します。
- アプリダイレクトモード:モジュールは、ソリッドステートディスクストレージデバイスとして動作します。データは保存され、不揮発性です。
- ・混合モード(25%メモリモード+75%アプリダイレクト):このモジュールでは、25%の容量を揮発性メモリとして使用し、75%の容量を不揮発性ストレージとして使用して動作します。

Intel Optane DC 永続メモリ モジュールの丹生直規則とパフォーマンス のガイドライン

このトピックでは、DDR4 DRAM DIMM を使用した Intel Optane DC 永続メモリ モジュール (DCPMM)を使用する場合の、メモリパフォーマンスの最大値に関する規則とガイドライン について説明します。

DIMM スロットの番号付け

次の図は、サーバマザーボード上の DIMM スロットの番号付けを示します。

図 28: DIMM スロットの番号付け



設定ルール

次の規則とガイドラインを確認してください。

- このサーバでDCPMMを使用するには、2つのCPUをインストールする必要があります。
- Intel Optane DC 永続メモリ モジュールには、第二世代 Intel Xeon Scalable processors が必要です。DCPMM をインストールする前に、サーバのファームウェアと BIOS をバージョン4.0 (4) 以降にアップグレードしてから、サポートされている第二世代 Intel Xeon Scalable processors をインストールする必要があります。
- DCPMM は 2666 MHz で動作します。サーバに 2933 MHz RDIMM または LRDIMM があ り、DCPMM を追加すると、メインメモリの速度は 2666 MHz に下がり、DCPMM の速度 に一致します。
- 各 DCPMM は、20 W をピークとして 18 W を引き出します。
- ・サーバで DCPMM を使用する場合:

- サーバにインストールされているDDR4DIMMは、すべて同じサイズである必要があります。
- ・サーバにインストールされている DCPMM はすべて同じサイズである必要があり、同じ SKU が必要です。
- 次の表は、このサーバでサポートされる DCPMM 設定を示しています。示されているよう に、DCPMM: DRAMの比率に応じて、CPU1と CPU2 に DIMM スロットを装着します。

図 29: デュアル CPU 設定用のサポートされる DCPMM構成

Count CPU 1												
				MC1			IMCO					
Channel 2		Chan	Channel 1 Char		nel O	0 Channel 2		Channel 1		Channel 0		
	F2	F1	E2	E1	D2	D1	C2	C1	B2	B1	A2	A1
6102		DIMM		DIMM	DCPMM	DIMM		DIMM		DIMM	DCPMM	DIMM
6104		DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM		DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM
6 to 6	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM

DIMM to DCPMM Count	CPU 2											
		IMC1						IMCO				
Channel 2		Chan	Channel 1 Channel 0		nel O	Channel 2		Channel 1		Channel 0		
	M2	M1	L2	L1	K2	K1	J2	J1	H2	H1	G2	G1
6102		DIMM		DIMM	DCPMM	DIMM		DIMM		DIMM	DCPMM	DIMM
6 to 4		DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM		DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM
6 to 6	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM	DCPMM	DIMM

Intel Optane DC 永続メモリ モジュールのインストール



(注) DCPMM 設定は、交換用 DCPMM を含む、領域内のすべての DCPMM に常に適用されます。 事前設定されたサーバでは、特定の交換用 DCPMM をプロビジョニングすることはできません。

DCPMM が動作しているモードを理解します。AppDirect モードでは、この手順でいくつかの 追加の考慮事項があります。

注意 App-Direct モードで DCPMM を交換するには、すべてのデータを DCPMM から消去する必要が あります。この手順を実行する前に、必ずデータをバックアップまたはオフロードしてくださ い。

ステップ1 App Direct モードでは、すべての Optane DIMM に保存されている既存のデータを他のストレージにバック アップします。

- ステップ2 App Direct モードでは、すべての Optane DIMM から目標と名前空間を自動的に削除する永続メモリポリ シーを削除します。
- **ステップ3** 既存の DCPMM の削除:
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
 - c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
 - d) DIMM スロットの前端を覆うエアーバッフルを取り外してスペースを空けます。
 - 注意 RMA 状況のように、あるサーバから別のサーバに DCPMM をアクティブ データ(永続メモ リ)とともに移動する場合は、各 DCPMM を新しいサーバの同じ位置にインストールする必 要があります。古いサーバから削除するときに、各 DCPMM の位置を書き留めたり、一時的 にラベルを付けたりします。
 - e) 取り外す DCPMM の場所を確認して、その DIMM スロットの両端のイジェクト レバーを開きます。
- ステップ4 新しい DCPMM をインストールします。
 - (注) DCPMM を装着する前に、このサーバの装着規則(Intel Optane DC 永続メモリ モジュールの丹生 直規則とパフォーマンスのガイドライン(84ページ))を参照してください。
 - a) 新しい DCPMM をマザーボード上の空のスロットの位置に合わせます。DIMM スロット内の位置合わ せ機能を使用して、DCPMM を正しい向きに配置します。
 - b) DIMM がしっかりと装着され、両端のイジェクト レバーが所定の位置にロックされるまで、DCPMM の上部の角を均等に押し下げます。
 - c) エアーバッフルを再度取り付けます。
 - d) サーバに上部カバーを戻します。
 - e) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。
- ステップ5 インストール後の操作を実行します。
 - (注) 永続メモリポリシーがホスト制御の場合、OS側から次のアクションを実行する必要があります。
 - ・既存の設定が100%メモリモードで、新しいDCPMMも100%メモリモード(工場出荷時のデフォルト)の場合、操作はすべてのDCPMMが最新の一致するファームウェアレベルであることを確認することだけです。
 - 既存の設定が完全にまたは一部 App-Direct モードで、新しい DCPMM も App-Direct モードの場合、すべての DCPMM が最新の一致するファームウェアレベルであることを確認し、新しい目標を作成することによって DCPMM の再プロビジョニングも行います。
 - App Direct モードの場合は、永続メモリ ポリシーを再適用します。

• App Directモードでは、オフロードされたすべてのデータを DCPMM に復元します。

- 既存の設定と新しい DCPMM が異なるモードの場合は、すべての DCPMM が最新の一致するファーム ウェア レベルであることを確認し、新しい目標を作成することによって DCPMM の再プロビジョニン グも行います。
- 目標、地域、および名前空間を設定するためのツールが多数用意されています。
 - ・サーバのBIOSセットアップユーティリティを使用するには、『DCPMMのサーバーBIOSセットアップユーティリティメニュー(87ページ)』を参照してください。
 - Cisco IMC または Cisco UCS Manager を使用するには、『Cisco UCS: Intel Optane DC 永続メモリモジュールの設定と管理』ガイドを参照してください。

DCPMM のサーバー BIOS セットアップ ユーティリティ メニュー

∕!∖

注意 データ損失の可能性:現在インストールされている DCPMM のモードを、アプリ ダイレクト モードまたは混合モードからメモリモードに変更すると、永続メモリ内のデータはすべて削除 されます。

DCPMM は、サーバの BIOS セットアップユーティリティ、Cisco IMC、Cisco UCS Manager、 または OS 関連のユーティリティを使用して設定できます。

- BIOS セットアップユーティリティを使用するには、以下のセクションを参照してください。
- Cisco IMC を使用するには、Cisco IMC 4.0(4) 以降の設定ガイドを参照してください。CISCO IMC CLI および GUI 設定ガイド
- Cisco UCS Manager を使用するには、Cisco UCS Manager 4.0(4) 以降の設定ガイドを参照してください。Cisco UCS Manager CLI および GUI 設定ガイド

サーバー BIOS セットアップ ユーティリティには、DCPMM のメニューが含まれています。 DCPMM の領域、目標、および名前スペースを表示または設定したり、DCPMM ファームウェ アを更新したりするために使用できます。

システム ブート中に画面にプロンプトが表示されたら、**F2**を押して BIOS セットアップ ユー ティリティを開きます。

DCPMM メニューは、ユーティリティの[詳細] タブにあります。

Advanced > Intel Optane DC Persistent Memory Configuration

このタブから、他のメニューにアクセスできます。

- DIMM: インストールされている DCPMM を表示します。このページから、DCPMMファームウェアを更新し、他の DCPMM パラメータを設定できます。
 - ヘルスのモニタ
 - ファームウェアの更新
 - セキュリティの設定

セキュリティモードを有効にして、DCPMM設定がロックされるようにパスワードを 設定することができます。パスワードを設定すると、インストールしたすべての DCPMMに適用されます。セキュリティモードはデフォルトでは無効です。

- ・データ ポリシーの設定
- ・領域:領域とその永続的なメモリタイプを表示します。インターリーブでアプリダイレクトモードを使用する場合、リージョンの数はサーバ内の CPU ソケットの数に等しくなります。インターリーブでアプリダイレクトモードを使用しない場合、リージョンの数はサーバ内の DCPMM ソケットの数に等しくなります。

[領域]ページから、リソースの割り当て方法をDCPMMに通知するメモリの目標を設定で きます。

- 目標設定の作成
- ・名前スペース:名前スペースを表示し、永続的なメモリが使用されているときにそれらを作成または削除することができます。目標の作成時に名前スペースを作成することもできます。永続メモリの名前スペースのプロビジョニングは、選択した領域にのみ適用されます。

サイズなどの既存の名前スペース属性は変更できません。名前スペースを追加または削除 することができます。

• 合計容量:サーバ全体の DCPMM リソース割り当ての合計を表示します。

BIOS セットアップ ユーティリティを使用して DCPMM ファームウェアを更新する

.binファイルへのパスがわかっている場合は、BIOSセットアップユーティリティからDCPMM ファームウェアを更新できます。ファームウェアの更新は、インストールされているすべての DCPMM に適用されます。

- [Advanced (詳細)] > [Intel Optane DC Persistent Memory Configuration (Intel Optane DC 永続メモリ設定)] > [DIMM] > [Update firmware (ファームウェアの更新)] に移動します。
- 2. [File (ファイル)] で、ファイルパスを.bin ファイルに指定します。
- **3.** [アップデート(Update)] を選択します。

microSD カードの交換

PCIe ライザー1の上部に、microSD カード用のソケットが1つあります。

Â

- 注意 データの損失を避けるため、動作中(アクティビティ LED がオレンジ色に変化)に microSD カードをホット スワップすることは避けてください。アクティビティ LED は、microSD カードが更新中または削除中にオレンジ色に変化します。
- ステップ1 既存の microSD カードを取り外します。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
 - c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
 - d) microSD カードを見つけます。ソケットは、PCIe ライザー1の上部、プラスチック製カバーの下にあります。
 - e) 固定具を指先で押してプラスチック製ソケットカバーを開き、microSDカードにアクセスできる十分 な隙間を作ります。次にmicroSDカードを上から押し込んでから離し、カードが外れるようにします。
 - f) microSD カードをつかみ、ソケットから持ち上げます。
- ステップ2 新しい microSD カードを装着します。
 - a) プラスチック製カバーの固定具を指先で開いたまま、新しい microSD カードをソケットの位置に合わ せます。
 - b) カチッと音がしてソケットの所定の位置にロックされるまで、カードをゆっくりと押し下げます。
 - c) サーバに上部カバーを戻します。
 - d) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。

図 30: 内部 microSD カード ソケットの位置



	ソケットの場所	トにアクセスします)
2	プラスチック製固定具の下の microSD カード ソケット	

USBドライブの交換

- 注意 データ損失の可能性があるため、サーバの電源が入っている状態で内部 USB ドライブをホット スワップすることは避けてください。
- ステップ1 既存の内部 USB ドライブを取り外します。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
 - c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
 - d) マザーボード上で電源装置の前にある USB ソケットを見つけます。
 - e) USB ドライブをつかんで縦方向に引き出し、ソケットから取り出します。
- ステップ2 新しい内部 USB ドライブを取り付けます。
 - a) USB ドライブをソケットの位置に合わせます。
 - b) USB ドライブを縦方向に押し込み、ソケットに完全に収まるようにします。
 - c) サーバに上部カバーを戻します。
 - d) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。

図 31: 内部 USB ポートの場所



内部 USB ポートの有効化または無効化

工場出荷時のデフォルトでは、サーバのすべての USB ポートが有効です。ただし、内部 USB ポートは、サーバ BIOS で有効または無効にできます。

- ステップ1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2キーを押して BIOS セットアップユーティリティに切り替えます。
- ステップ2 [Advanced] タブまで移動します。
- ステップ3 [Advanced] タブの [USB Configuration] を選択します。
- **ステップ4** [USB Configuration] ページの [USB Ports Configuration] を選択します。

1

- **ステップ5** [USB Port: Internal] までスクロールし、Enter を押してから、ダイアログ ボックスから [Enabled] または [Disabled] を選択します。
- ステップ6 F10 を押して保存し、ユーティリティを終了します。

RTCバッテリの交換

A

警告 バッテリを正しく交換しないと、爆発するおそれがあります。交換用バッテリは元のバッテリ と同じものか、製造元が推奨する同等のタイプのものを使用してください。使用済みのバッテ リは、製造元が指示する方法に従って処分してください。

ステートメント 1015

Â

警告 リサイクラ:バッテリーを共有しないでください!お住いの国または地域の適切な規制に従い、 バッテリーを処分するようにしてください。

リアルタイムクロック(RTC)バッテリは、サーバの電源が外れているときにシステムの設定 を保持します。バッテリタイプはCR2032です。シスコでは、シスコに注文でき(PID N20-MBLIBATT)、ほとんどの電器店からも購入できる、業界標準のCR2032バッテリをサ ポートしています。

RTC バッテリを取り外すと、次のことが影響を受けます。

- ・実際の時間がデフォルト値にリセットされます。
- ・サーバの CMOS 設定が失われます。RTC バッテリを交換したら、システム設定をリセットする必要があります。

ステップ1 RTC バッテリを取り外します。

- a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
- b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、前面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
- c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- d) サーバから PCIe ライザー1を取り外し、マザーボード上の RTC バッテリ ソケットの周りに隙間を空 けます。PCIe ライザーの交換 (99 ページ)を参照してください。
- e) 水平 RTC バッテリ ソケットを見つけます。

f) マザーボード上のソケットからバッテリを取り外します。保護クリップをゆっくりと押し開けて隙間 を確保し、バッテリを持ち上げます。

ステップ2新しい RTC バッテリを取り付けます。

a) バッテリをソケットに挿入し、カチッという音がするまでクリップの下に押し込みます。

(注) 「3V+」のマークが付いているバッテリのプラス側を、上側に向ける必要があります。

- b) サーバに PCIe ライザー1を取り付けます。PCIe ライザーの交換 (99ページ)を参照してください。
- c) サーバに上部カバーを戻します。
- d) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。

図 32:マザーボード上の RTC バッテリの場所



電源装置の交換

サーバには1つまたは2つの電源装置を設置できます。2つの電源装置を設置している場合、 それらの電源装置は1+1 冗長です。

- ・サポートされている電源装置の詳細については、電力仕様(141ページ)も参照してくだ さい。
- ・電源 LED の詳細については、前面パネルの LED (38 ページ)も参照してください。

ここでは、AC および DC 電源装置の交換手順について説明します。

AC 電源装置の交換



ステップ1 交換する電源装置を取り外すか、空のベイからブランクパネルを取り外します。

- a) 次のいずれかの操作を実行します。
 - ・サーバに電源装置が1つしかない場合は、サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)の説 明に従ってサーバをシャットダウンし、電源を切断します。
 - ・サーバに電源装置が2つある場合は、サーバをシャットダウンする必要はありません。
- b) 交換する電源装置から、電源コードを取り外します。
- c) 電源装置のハンドルをつかみながら、リリース レバーをハンドルに向けてひねります。
- d) 電源装置をベイから引き出します。
- ステップ2 次のようにして、新しい電源装置を取り付けます。
 - a) 電源装置のハンドルをつかみ、空のベイに新しい電源装置を挿入します。
 - b) リリース レバーがロックされるまで、電源装置をベイに押し込みます。
 - c) 電源コードを新しい電源装置に接続します。

d) サーバをシャットダウンした場合にのみ、電源ボタンを押して、サーバを主電源モードで起動します。 図 33: AC 電源装置の交換



DC 電源装置の交換





- (注) サーバでは、タイプやワット数の異なる電源装置を組み合わせて使用しないでください。両方 の電源装置が同じである必要があります。
- **ステップ1** 交換する DC 電源装置を取り外すか、空のベイからブランク パネルを取り外します。
 - a) 次のいずれかの操作を実行します。
 - DC 電源装置が1つしかないサーバで電源装置を交換する場合は、サーバのシャットダウンと電源 切断(44ページ)の説明に従ってサーバをシャットダウンし、電源を切断します。
 - DC 電源装置が2つあるサーバで電源装置を交換する場合は、サーバをシャットダウンする必要は ありません。
 - b) 交換する電源装置から、電源コードを取り外します。コネクタ固定クリップを少し持ち上げて、電源 装置のソケットからコネクタを引き抜きます。
 - c) 電源装置のハンドルをつかみながら、リリース レバーをハンドルに向けてひねります。
 - d) 電源装置をベイから引き出します。
- ステップ2 新しい DC 電源装置を取り付けます。
 - a) 電源装置のハンドルをつかみ、空のベイに新しい電源装置を挿入します。
 - b) リリースレバーがロックされるまで、電源装置をベイに押し込みます。
 - c) 電源コードを新しい電源装置に接続します。固定クリップがカチッと所定の位置に収まるまで、コネ クタをソケットに押し込みます。
 - d) サーバをシャットダウンした場合にのみ、電源ボタンを押して、サーバを主電源モードで起動します。

図 34: DC 電源装置の交換



1	鍵状ケーブル コネクタ (CAB-48DC-40A-8AWG)	3	PSU ステータス LED
2	鍵状 DC 入力ソケット	-	

DC 電源装置の取り付け(初回の取り付け)



- ステップ1 感電の危険を避けるために、施設の回路ブレーカーの DC 電源装置をオフにします。
 - (注) 必要な DC 入力ケーブルは、Cisco 製品 CAB-48DC-40A-8AWG です。この3mケーブルは、一方の端は電源の DC 入力ソケットに鍵のように合わせて差し込む3ピンコネクタです。ケーブルのもう一方の端にはコネクタがないので、施設の DC 電源に配線できます。
- ステップ2 ケーブルの終端処理されていない端を、施設の DC 電源入力ソースに配線します。
- **ステップ3** ケーブルの終端処理されている端を、電源のソケットに接続します。コネクタは、配線の極性とアースが 正しくなるように、鍵状構造になっています。
- ステップ4 施設の回路ブレーカーで DC 電源を復旧させます。

ステップ5 電源ボタンを押し、サーバをブートして主電源モードに戻します。

図 35: DC 電源装置の交換



ステップ6 シャーシでの追加の接地については、DC 電源ユニットの接地 (99 ページ) を参照してください。

DC 電源ユニットの接地

AC 電源装置は内部アースがあるため、サポート対象の AC 電源コードを使用する場合は、それ以上接地する必要はありません。

DC電源装置を使用する場合は、サーバシャーシからラックのアースグラウンドへの追加の接 地を行うことができます。二重孔アースラグおよびアース線で使用する2つのネジ穴は、シャー シの背面パネルにあります。



(注) シャーシの接地点はM5ネジに合う大きさです。独自のネジ、アースラグとアース線を提供する必要があります。アースラグは、M5ネジに合ったデュアルホールラグである必要があります。ユーザが提供するアースケーブルは14 AWG(2 mm)、最低 60℃のワイヤか、現地の規定で許可されるものでなければなりません。

PCle ライザーの交換

このサーバには、ツール不要の PCIe ライザーが 2 つあり、PCIe カードと SAS/SATA/NVMe SSD を水平に取り付ることができます。各ライザーは、2 つのバージョンで利用可能です。ラ イザーバージョン別のスロットと機能の詳細については、PCIe スロットの仕様(104ページ) を参照してください。

始める前に

ケーブルの損傷を避けるため、取り外すライザーからケーブルをすべて取り外してください。

- ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断 (44 ページ)を参照)。
- ステップ2 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルか らケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - 注意 コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出してく ださい。
- ステップ3 サーバ上部カバーの取り外し (47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- ステップ4 交換する PCIe ライザーを取り外します。
 - a) ライザーのフリップアップハンドルと青色の前方端をつかんで均等に持ち上げ、マザーボードのソケットから回路基板を外します。ライザーを静電気防止素材の上に置きます。
 - b) ライザーにカードが取り付けられている場合は、ライザーからカードを取り外します。PCIe カードの 交換 (107 ページ) を参照してください。
- **ステップ5** 次のようにして、新しい PCIe ライザーを取り付けます。
 - (注) PCIe ライザーは交換することはできません。PCIe ライザーを間違ったソケットに差し込むと、 サーバは起動しなくなります。ライザー1は「RISER1」のラベルが付いたマザーボードソケット に差し込む必要があります。ライザー2は「RISER2」のラベルが付いたマザーボードソケットに 差し込む必要があります。
 - a) 古い PCIe ライザーからカードを取り外していた場合は、そのカードを新しいライザーに取り付けま す。PCIe カードの交換 (107 ページ) を参照してください。
 - b) PCIe ライザーをマザーボード上のソケットとシャーシ内の位置合わせスロットの上に配置します。
 - c) PCIe ライザーの両端を慎重に押し下げて、回路基板のコネクタをマザーボード上のソケットにしっか りと差し込みます。
- ステップ6 サーバに上部カバーを戻します。
- **ステップ1** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完全 に投入します。

図 36: PCle ライザーの位置合わせ機構



PCIeライザー1C および2E の取り付け

各ライザーは、2つのバージョンで利用可能です。ライザーバージョン別のスロットと機能の 詳細については、PCIe スロットの仕様(104ページ)を参照してください。

この手順では、NVMeSSDをサポートしていないライザー1および2Bを取り外した後、NVMeSSDをサポートしているライザー1Cおよび2Eを取り付ける方法について説明します。

始める前に

ケーブルの損傷を避けるため、取り外すライザーからケーブルをすべて取り外してください。

- ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断 (44 ページ)を参照)。
- ステップ2 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルか らケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - 注意 コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出してく ださい。
- ステップ3 サーバ上部カバーの取り外し (47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ4** PCIe ライザー1と2Bを取り外します。
 - a) ライザーのフリップアップハンドルと青色の前方端をつかんで均等に持ち上げ、マザーボードのソケットから回路基板を外します。ライザーを静電気防止素材の上に置きます。
 - b) ライザーにカードが取り付けられている場合は、ライザーからカードを取り外します。PCIe カードの 交換 (107 ページ) を参照してください。
- ステップ5 新しい PCIe ライザーを取り付けます。
 - (注) PCIe ライザーは交換することはできません。PCIe ライザーを間違ったソケットに差し込むと、 サーバは起動しなくなります。ライザー1は「RISER1」のラベルが付いたマザーボードソケット に差し込む必要があります。ライザー2は「RISER2」のラベルが付いたマザーボードソケットに 差し込む必要があります。
 - a) 古い PCIe ライザーからカードを取り外していた場合は、そのカードを新しいライザーに取り付けま す。PCIe カードの交換 (107 ページ)を参照してください。
 - b) PCIe ライザーをマザーボード上のソケットとシャーシ内の位置合わせスロットの上に配置します。
 - c) PCIe ライザーの両端を慎重に押し下げて、回路基板のコネクタをマザーボード上のソケットにしっか りと差し込みます。
 - d) マザーボードからライザー2E(コネクタ CN6) にケーブルを接続します。
 - e) ライザー1C(コネクタ CFG1)から2E(コネクタ CN9)にケーブルを接続します。
 - f) (任意) HBA (UCSC-SAS-M5) を使用している場合は、垂直バックプレーンから B1 というラベルの 付いた HBA コネクタにケーブルを接続します。
 - g) (任意) ライザー1の水平ドライブ(UCSC-RSAS-C240M5)に SAS が必要な場合は、ケーブルを水 平ドライブ バックプレーンから A1 とラベル付けされた HBA コネクタに接続します。
 - h) (任意) ライザー2の水平ドライブ (UCSC-RSAS-C240M5) に SAS が必要な場合は、ケーブルを水 平ドライブ バックプレーンから A2 とラベル付けされた HBA コネクタに接続します。
- ステップ6 サーバに上部カバーを戻します。
- **ステップ1** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完全 に投入します。

図 37: PCle ライザーの位置合わせ機構



1	ライザーのハンドリング ポイント(フ リップアップ ハンドルと前方の青色の 縁)	3	シャーシ内のライザー2の位置合わせ機 構
2	シャーシ内のライザー1の位置合わせ機 構		

図 38: PCle ライザーのケーブル接続



PCIe カードの交換

(注) シスコでは、シスコが認定および販売しているすべての PCIe カードをサポートしています。 シスコが認定も販売もしていない PCIe カードについては、お客様の責任でご使用ください。 シスコでは、C シリーズ ラックマウント サーバのサポートは常時行っておりますが、市販の 標準規格のサードパーティカードを使用しているお客様は、その特定のカードで問題が発生し た場合、そのサードパーティ カードのベンダーにご連絡していただく必要があります。

PCleスロットの仕様

サーバには、ツール不要のPCIeライザーが2つあり、PCIeカードを水平に取り付けられます。 各ライザーは、2つのバージョンで注文可能です。

- ライザー1には、次の2つのオプションがあります。
 - オプション1 (UCSC-RIS-1-240M5) ースロット1(x8)、2(x16)、および3(x8)。スロット1と2はCPU1により制御されます。スロット3はCPU2により制御され、シングル CPU構成では使用できません。
 - オプション1C(UCSC-RS1C-240M5SD) ードライブベイ3(x4)、ドライブベイ5(x4)、 およびPCIeスロット1(x16)。すべてのスロットがCPU1により制御されます。
 - ・さらに、ライザー1にはマイクロ SD カード スロットがあります。
- ライザー2には、次の2つのオプションがあります。
 - オプション2B スロット4(x8)、5(x16)、6(x8)。リアローディング NVMe SSD 用の1つの PCIe ケーブルコネクタを搭載しています。
 - オプション2E(UCSC-RS2E-240M5SD) ドライブベイ 4 (x4)、ドライブベイ 6 (x4)、および PCIeスロット 2 (x16) には、フロントローディング NVMe SSD 用の PCIe ケーブル コネクタが 1 つ含まれています。

サーバは、次の2つのPCIe ライザーの組み合わせで注文可能です。

- PCIe ライザー1および PCIe ライザー2B
- PCIe ライザー 1C および PCIe ライザー 2E



(注)

その他の組み合わせはサポートされていません。

図 39:前面パネル、PCle スロットの番号付けの表示



次の表で、スロットの仕様について説明します。

表 6: PCle ライザー 1(UCSC-PCI-1-C240M5) PCle 拡張スロット

スロット番号	電気路の 幅	コネクタの長 さ	カードの最大 長	カードの高さ(背面 パネル開口部)	NCSI のサポー ト	倍幅 GPU カード のサポート
1	Gen-3 x8	x24 コネクタ	¾ レングス	フルハイト	あり	なし
2	Gen-3 x16	x24 コネクタ	フルレングス	フルハイト	対応	対応
3 ¹	Gen-3 x8	x16 コネクタ	フルレングス	フルハイト	非対応	非対応

microSD カード	ライザー上部に1つの microSD カード用ソケット。
スロット	

¹ スロット3は、シングル CPU システムでは使用できません。

表 7: PCIe ライザー 2B (UCSC-RIS-2B-240M5) PCIe 拡張スロット

スロット番号	電気路の 幅	コネクタの長さ	カードの最大長	カードの高さ(背面 パネル開口部)	NCSI のサポー ト	倍幅 GPU カード のサポート
4	Gen-3 x8	x24 コネクタ	¾ レングス	フルハイト	あり	なし
5	Gen-3 x16	x24 コネクタ	フルレングス	フルハイト	あり	なし
6	Gen-3 x8	x16 コネクタ	フルレングス	フルハイト	非対応	非対応
垂直 NVMe コネクタ	Gen-3 x8	フロント ドライフ	<i>ヽ</i> ゙゙ヾックプレーン^	\接続、フロントロー	ディング NVMeS	SSDをサポート。

表 8: PCle ライザー 1(UCSC-PCI-1-C240M5) PCle 拡張スロット

スロット番号	電気路の 幅	コネクタの長さ	カードの最大 長	カードの高さ(背 面パネル開口部)	NCSI のサ ポート	倍幅 GPU カー ドのサポート
ドライブ ベイ 3	Gen-3 x4	ドライブ ベイ コ ネクタ	該当なし	2.5 インチ	NA	×
ドライブ ベイ 5	Gen-3 x4	ドライブ ベイ コ ネクタ	該当なし	2.5 インチ	NA	×
PCIe 1	Gen-3 x16	x24	¾ レングス	フルハイト	あり	なし
microSD カードス ロット	ライザー上部に1つの microSD カード用ソケット。					

表 *9 : PCle* ライザー *1(UCSC-PCI-1-C240M5*)*PCle* 拡張スロット

スロット番号	電気路の 幅	コネクタの長さ	カードの最大長	カードの高さ(背 面パネル開口部)	NCSI のサ ポート	倍幅 GPU カー ドのサポート
ドライブベイ4	Gen-3 x4	ドライブ ベイ コ ネクタ	該当なし	2.5 インチ	NA	×
ドライブベイ6	Gen-3 x4	ドライブ ベイ コ ネクタ	該当なし	2.5 インチ	NA	×
PCIe 2	Gen-3 x16	x24	¾ レングス	フルハイト	あり	なし
垂直 NVMe コネ	Gen-3 x8	垂直ドライブバックプレーンの前面へ:2つの PCIe NVMe ドライブをサポートします。				
------------	----------	---				
クタ						

PCIe カードの交換

(注) Cisco UCS 仮想インターフェイスカードを取り付ける場合、前提条件に関する考慮事項があり ます。Cisco 仮想インターフェイスカード(VIC)に関する考慮事項(109ページ)を参照して ください。

(注) マザーボードの専用ソケットにRAIDコントローラカードが装着されています。SASストレー ジョントローラカード(RAIDまたはHBA)の交換(112ページ)を参照してください。

- (注) 倍幅 GPU カードの取り付けと交換の手順については、GPU カードの取り付け (151 ページ) を参照してください。
- ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を参照)。
- **ステップ2**上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出してく ださい。
- ステップ3 サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- ステップ4 交換する PCIe カードを取り外します。
 - a) 交換する PCIe カードのポートから、すべてのケーブルを外します。
 - b) ライザー前端にある青色のライザーハンドルと青色のつまみ部分を両手で上にあげてつかみ、まっす ぐ上に持ち上げます。
 - c) ライザーの底部にある、固定プレートを固定しているリリース ラッチを押し、ヒンジ付き固定プレートを回して開きます。
 - d) カードの背面パネル タブを固定しているヒンジ付きカード タブ固定具を開きます。
 - e) PCIe カードの両端を均等に引いて、PCIe ライザーのソケットから取り外します。 ライザーにカードがない場合は、ライザーの背面の開口部からブランクパネルを取り外します。

ステップ5 次のようにして、新しい PCIe カードを取り付けます。

- a) ヒンジ付きカードタブ固定具を開いた状態で、新しい PCIe カードを PCIe ライザーの空ソケットの位置に合わせます。
- b) カードの両端を均等に押し下げて、ソケットにしっかりと装着します。
- c) カードの背面パネルタブがライザーの背面パネルの開口部に対して水平であることを確認したら、カードの背面パネルタブ上でヒンジ付きカードタブ固定具を閉じます。
- d) ライザーの底部でヒンジ付き固定プレートを回して閉じます。プレートのクリップが、カチッと音が してロック位置に収まったことを確認します。
- e) PCIe ライザーを、マザーボード上のソケットとシャーシの位置合わせチャネルの上に配置します。
- f) PCIe ライザーの両端を慎重に押し下げて、コネクタをマザーボード上のソケットにしっかりと収納します。
- ステップ6 サーバに上部カバーを戻します。
- **ステップ1** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完全 に投入します。

図 40: PCle ライザー カード固定構造



	2	ヒンジ付き固定プレート	-	
--	---	-------------	---	--

Cisco 仮想インターフェイス カード (VIC) に関する考慮事項

ここでは、VICカードのサポートおよびこのサーバに関する特別な考慮事項をについて説明します。

(注) Cisco Card NIC モードを使用する場合、VIC を取り付けた場所に合わせて、VIC スロットの設定を行う必要もあります。そのオプションは、Riser1、Riser2、および Flex-LOM です。NIC モードの詳細については、NIC モードおよび NIC 冗長性設定(32ページ)を参照してください。

Cisco UCS Manager の統合に Cisco UCS VIC カードを使用するには、サポートされる設定、配線、およびその他の要件について、『Cisco UCS C-Series Server Integration with Cisco UCS Manager Guides』も参照してください。

表 10: このサーバでの VIC のサポートと考慮事項

VIC	サーバでサ ポートされる 数量	VIC をサポー トするスロッ ト	Cisco UCS Manager 統合のプライマリス ロット	Cisco Card NIC モード 用のプラ イマリ スロット	最小の Cisco IMC ファーム ウェア
Cisco UCS VIC 1455	2 PCIe	PCIe 2	PCIe 2	PCIe 2	4.0(1)
UCSC-PCIE-C25Q-04		PCIe 5			
Cisco UCS VIC 1495	2 PCIe	PCIe 2	PCIe 2	PCIe 2	4.0(2)
UCSC PCIE C100 04		PCIe 5			
Cisco UCS VIC 1457	1 mLOM	mLOM	mLOM	mLOM	4.0(1)
UCSC-MLOM-C25Q-04					
Cisco UCS VIC 1497	1 mLOM	mLOM	mLOM	mLOM	4.0(2)
UCSC-MLOM-C100-04					

・サーバでは、ライザー1とライザー2Bの統合サーバで2つのPCIeスタイル、および1つのmLOMスタイルの合計3つのVICがサポートされています。



(注) PCIe ライザー2は、シングル CPU システムでは使用できません。

mLOM カードの交換

背面パネルでの接続を増強するため、サーバではモジュラ LOM(mLOM)カードがサポート されています。mLOM ソケットはマザーボード上、ストレージ コントローラ カードの下にあ りあます。

MLOM ソケットには、Gen-3 x16 の PCIe レーンがあります。サーバが 12 V のスタンバイ電源 モードであり、ネットワーク通信サービス インターフェイス (NCSI) プロトコルをサポート している場合、ソケットは電源がオンのままになります。

- (注) mLOM カードが Cisco UCS 仮想インターフェイスカード(VIC)の場合は、詳細およびサポート情報についてはCisco 仮想インターフェイスカード(VIC)に関する考慮事項(109ページ)を参照してださい。
- ステップ1 既存の mLOM カード(またはブランクパネル)を取り外します。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
 - c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
 - d) マザーボード上の mLOM ソケットの周りに隙間を空けるため、ストレージ コントローラ (RAID また は HBA カード)をすべて取り外します。SAS ストレージ コントローラ カード (RAID または HBA) の交換(112ページ)を参照してください。
 - e) mLOM カードをシャーシ床面のネジ付きスタンドオフに固定している取り付けネジ(蝶ネジ)を緩め ます。
 - f) mLOM カードを水平方向にスライドさせてソケットから外し、サーバから取り外します。
- ステップ2 新しい mLOM カードを取り付けます。
 - a) コネクタをマザーボードのソケットの位置に合わせて、シャーシ床面に mLOM カードを置きます。
 - b) カードを水平方向に押し、カードのエッジコネクタをソケットと完全にかみ合わせます。
 - c) 非脱落型取り付けネジを締めて、カードをシャーシフロアに固定します。
 - d) ストレージ コントローラ カードをサーバに再び取り付けます。SAS ストレージ コントローラ カード (RAID または HBA)の交換(112ページ)を参照してください。
 - e) サーバに上部カバーを戻します。
 - f) サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を 完全に投入します。



図 41: ストレージョントローラ カードの下にある mLOM カード ソケットの位置

SASストレージコントローラカード(RAIDまたはHBA) の交換

ハードウェアベースのストレージ制御については、サーバでマザーボード上の専用の垂直ソ ケットに差し込む SAS HBA またはシスコモジュラ SAS RAID コントローラを使用できます。

ストレージョントローラ カードのファームウェアの互換性

ストレージ コントローラ (RAID または HBA)のファームウェアに、サーバ上にインストー ルされている Cisco IMC および BIOS の現行バージョンとの互換性があることを確認する必要 があります。互換性がない場合は、Host Upgrade Utility(HUU)を使用して、ストレージコン トローラのファームウェアを互換性のあるレベルにアップグレードまたはダウングレードして ください。

(注) スタンドアロンモードのみで実行されているサーバ:コントローラハードウェア (UCSC-SAS-M5)を交換した後に、ファームウェアの現在のバージョンが更新バージョンと 同じであった場合でも、Cisco UCS Host Upgrade Utility (HUU) コントローラのファームウェ アの更新を実行する必要があります。これは、サーバSKUに正しい値をコントローラの suboem idをプログラムするために必要です。これを行わないと、ソフトウェアでドライブ列挙が正し く表示されない場合があります。この問題は、UCSM モードのサーバの制御には影響しませ ん。

このユーティリティをダウンロードする方法、およびこのユーティリティを使用してサーバコ ンポーネントを互換性のあるレベルにする方法については、HUU ガイドに用意されている、 ご使用の Cisco IMC リリースに対応する HUU ガイドを参照してください。

SAS ストレージョントローラ カード(RAID または HBA)の交換

このサーバのストレージ コントローラの詳細については、サポートされるストレージ コント ローラとケーブル (147ページ)を参照してください。

シャーシには、取り付け前にカードを取り付ける必要があるプラスチック取り付けブラケット が含まれています。

- **ステップ1** 次のようにして、サーバでコンポーネントを取り付ける準備をします。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
 - c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ2** サーバから既存のストレージ コントローラ カードを取り外します。
 - (注) シャーシには、取り付け前にカードを取り付ける必要があるプラスチック取り付けブラケットが 含まれています。交換時には、ブラケットから古いカードを取り外してから、このアセンブリを サーバに取り付ける前に、新しいカードをブラケットに取り付ける必要があります。
 - a) 既存のカードから SAS/SATA ケーブルとすべての SuperCap ケーブルを外します。
 - b) カードの青色のイジェクトレバーを持ち上げ、マザーボードのソケットからカードを外します。
 - c) カードのキャリアフレームをまっすぐ持ち上げ、カードをマザーボードソケットから外し、シャーシウォールの2つのペグからフレームを外します。

サーバの保守

ステップ3 新しいストレージ コントローラ カードを取り付けます。

- a) 新しいカードをプラスチック製のキャリア ブラケットに取り付けます。保持タブがカードの端を覆う ようにします。
- b) アセンブリをシャーシの上に配置し、カードの端をマザーボードのソケットの位置に合わせます。同時に、キャリアブラケットの後ろにある2つのスロットを、内側シャーシウォールのペグの位置に合わせます。
- c) カードの両隅を押し、ライザー ソケットにコネクタを装着します。同時に、キャリア フレームのス ロットが内側シャーシ ウォールのペグに収まっていることを確認します。
- d) カードの青色のイジェクトレバーを完全に閉じ、ソケットにカードを固定します。
- e) 新しいカードに SAS/SATA ケーブルとすべての SuperCap ケーブルを接続します。
- ステップ4 サーバに上部カバーを戻します。
- **ステップ5** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完全 に投入します。
- **ステップ6** スタンドアロンモードでサーバが実行されている場合、Cisco UCS Host Upgrade Utility を使用してコント ローラファームウェアを更新し、コントローラの正しい suboem id をプログラムします。
 - (注) スタンドアロンモードのみで実行されているサーバ:コントローラハードウェア(UCSC-SAS-M5) を交換した後に、ファームウェアの現在のバージョンが更新バージョンと同じであった場合でも、 Cisco UCS Host Upgrade Utility(HUU)コントローラのファームウェアの更新を実行する必要があ ります。これは、サーバ SKU に正しい値をコントローラの suboem id をプログラムするために必 要です。これを行わないと、ソフトウェアでドライブ列挙が正しく表示されない場合があります。 この問題は、UCSM モードのサーバの制御には影響しません。

このユーティリティをダウンロードする方法、およびこのユーティリティを使用してサーバコン ポーネントを互換性のあるレベルにする方法については、HUUガイドに用意されている、ご使用 の Cisco IMC リリースに対応する HUU ガイドを参照してください。 図 42: ストレージ コントローラ カードの交換



ブート最適化 M.2 RAID コントローラ モジュールの交換

Cisco ブート最適化 M.2 RAID コントローラ モジュールを、マザーボード上のミニ ストレージ モジュール ソケットに接続します。2 台の SATA M.2 ドライブ用のスロットに加え、RAID 1 アレイ内の SATA M.2 ドライブを制御可能な統合 6 Gbps SATA RAID コントローラを搭載して います。

Cisco ブート最適化 M.2 RAID コントローラに関する考慮事項

次の考慮事項を確認します。

- このコントローラをサポートする Cisco IMC および Cisco UCS Manager の最小バージョン は 4.0 (4) 以降です。
- ・このコントローラは、RAID1(単一ボリューム)とJBODモードをサポートします。



- (注) このコントローラ モジュールを使用するとき、RAID 設定のため にサーバ組み込み SW MegaRAID コントローラを使用しないでく ださい。代わりに、次のインターフェイスを使用できます。
 - Cisco IMC 4.0(4a) 以降
 - •BIOS HII ユーティリティ、BIOS 4.0(4a) 以降
 - Cisco UCS Manager 4.0(4a) 以降 (UCS Manager 統合サーバ)
- ・スロット1(上部)のSATA M.2ドライブは、最初のSATA デバイスです。スロット2(裏
 (側)のSATA M.2ドライブは、2番目のSATA デバイスです。
 - ・ソフトウェアのコントローラ名は MSTOR です。
 - スロット1のドライブはドライブ253としてマッピングされます。スロット2のドラ イブはドライブ254としてマッピングされます。
- RAID を使用する場合は、両方の SATA M.2 ドライブが同じ容量であることをお勧めしま す。異なる容量を使用すると、ボリュームを作成する 2 つのドライブの容量が小さくな り、残りのドライブ スペースは使用できなくなります。

JBOD モードは、混合容量の SATA M.2 ドライブをサポートします。

- ホットプラグの交換はサポートされていません。サーバの電源をオフにする必要があります。
- コントローラおよびインストールされているSATA M.2ドライブのモニタリングは、Cisco IMCおよびCisco UCS Manager を使用して行うことができます。また、UEFI HII、PMCLI、 XMLAPI、Redfish などの他のユーティリティを使用してモニタすることもできます。
- ・コントローラおよび個別ドライバのファームウェア更新:
 - スタンドアロンサーバでは、Cisco Host Upgrade Utility (HUU)を使用します。『HUU マニュアル』を参照してください。
 - Cisco UCS Manager に統合されたサーバについては、『Cisco UCS Manager ファーム ウェア管理ガイド』を参照してください。
- SATA M.2 ドライブは UEFI モードでのみ起動できます。レガシ ブート モードはサポート されていません。
- RAID ボリュームの一部であった単一の SATA M.2 ドライブを交換する場合、ユーザーが 設定をインポートするように求めるプロンプトが表示された後に、ボリュームの再構築が

自動的に開始します。ボリュームの両方のドライブを交換する場合は、RAID ボリューム を作成し、手動で任意の OS を再インストールする必要があります。

- ・別のサーバから使用済みドライブにボリュームを作成する前に、ドライブのコンテンツを 消去することをお勧めします。サーバ BIOS の設定ユーティリティには、SATA セキュア 消去機能が搭載されています。
- ・サーバBIOSには、このコントローラに固有の設定ユーティリティが含まれており、RAID ボリュームの作成と削除、コントローラプロパティの表示、および物理ドライブの内容の 消去に使用できます。サーバの起動中にプロンプトが表示された場合は、F2を押してユー ティリティにアクセスします。次に、[Advanced (高度)]>[Cisco Boot Optimized M.2 RAID Controller (Cisco ブート最適化 M.2 RAID コントローラ)]に移動します。

Cisco ブート最適化 M.2 RAID コントローラの交換

このトピックでは、Cisco ブート最適化 M.2 RAID コントローラを取り外して交換する方法に ついて説明します。コントローラボードの上部には1つの M.2 ソケット(スロット1)と、そ の下側に1つの M.2 ソケット(スロット2)があります。

- ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断 (44 ページ)を参照)。
- ステップ2 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルか らケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出してく ださい。

ステップ3 サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。

- ステップ4 マザーボード ソケットからコントローラを取り外します。
 - a) 電源装置1の前のソケットに装着されているコントローラを見つけます。
 - b) コントローラ ボードの両端で、キャリアを固定しているクリップを外側に押します。
 - c) コントローラの両端を持ち上げ、マザーボードのソケットから外します。
 - d) キャリアを静電気防止シートの上に置きます。



図 43: マザーボード上の Cisco ブート最適化 M.2 RAID コントローラ

1	マザーボード上のソケットの場所	3	固定クリップ
2	配置ペグ	-	

- **ステップ5** 古いコントローラから交換用コントローラに SATA M.2 ドライブを変える場合は、交換用コントローラを 取り付ける前に、次の操作を行ってください。
 - (注) ドライブ上で以前設定されたボリュームとデータは、M.2 ドライブを新しいコントローラに変え るときに保持されます。システムは、ドライブにインストールされている既存の OS を起動しま す。

- a) No.1 プラス ドライバを使用して、M.2 ドライブをキャリアに固定している1本のネジを取り外しま す。
- b) キャリアのソケットから M.2 ドライブを持ち上げます。
- c) 交換用 M.2 ドライブをコントローラ ボードのソケット上に置きます。
- d) M.2 ドライブを下に向け、コネクタの終端をキャリアのソケットに挿入します。M.2 ドライブのラベル が上向きになっている必要があります。
- e) M.2 ドライブをキャリアに押し込みます。
- f) M.2 SSD の終端をキャリアに固定する1本のネジを取り付けます。
- g) コントローラの電源を入れ、2番目の M.2 ドライブを取り付けます。

図 44: Cisco ブート最適化 M.2 RAID コントローラ (M.2 ドライブの取り付けの表示)



- ステップ6 マザーボード上のソケットにコントローラを取り付けます。
 - a) コントローラのコネクタを下向きにし、マザーボードのソケットと同じ端で、コントローラをソケット上に置きます。2つの配置ペグは、コントローラの2つの穴と一致する必要があります。
 - b) 2つのペグがコントローラの2つの穴を通過するように、コントローラのソケットの端をゆっくりと押 し下げます。
 - c) 固定クリップが両端でカチッと音がしてロックされるまで、コントローラを押し下げます。
- ステップ1 サーバに上部カバーを戻します。
- **ステップ8** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完全 に投入します。

シャーシ侵入スイッチの交換

シャーシ侵入スイッチは、シャーシからカバーが取り外されるたびにシステムイベントログ (SEL)にイベントを記録するオプションのセキュリティ機能です。

- ステップ1 次のようにして、サーバでコンポーネントを取り付ける準備をします。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
 - c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- ステップ2 既存の侵入スイッチを取り外します。
 - a) マザーボードのソケットから侵入スイッチ ケーブルを外します。
 - b) No.1プラスドライバを使用して、スイッチ機構をシャーシ側面に固定している1本のネジを緩めて取 り外します。
 - c) スイッチ機構をまっすぐに上にスライドさせて、シャーシのクリップから外します。
- ステップ3 新しい侵入スイッチを取り付けます。
 - a) ネジ穴の位置が合うように、シャーシウォールのクリップに向けてスイッチ機構を下にスライドさせます。
 - b) #1プラスドライバを使用して、スイッチ機構をシャーシウォールに固定する1本のネジを取り付けま す。
 - c) マザーボードのソケットにスイッチ ケーブルを接続します。
- ステップ4 サーバにカバーを戻します。
- **ステップ5** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完全 に投入します。





信頼されたプラットフォームモジュール(**TPM**)の取り 付け

信頼されたプラットフォームモジュール(TPM)は小型の回路基板であり、マザーボードの ソケットに差し込んで、外せないように一方向ネジを使用して固定します。マザーボード上の ソケットの位置は、PCIe ライザー2の下です。

TPMに関する考慮事項

- このサーバは、TPM バージョン 1.2 または TPM バージョン 2.0 をサポートします。TPM
 2.0、UCSX-TPM2-002B(=) は連邦情報処理標準(FIPS) 140-2 に準拠しています。FIPS
 はサポートされていますが、FIPS 140-2 がサポートされるようになりました。
- フィールドでのTPMの交換はサポートされていません。サーバにTPMが取り付けられて いない場合にのみ、工場出荷後にTPMを取り付けることができます。
- 既存の TPM 1.2 がサーバに取り付けられていれば、TPM 2.0 にはアップグレードできません。サーバに既存の TPM がない場合、TPM 2.0 を取り付けることができます。
- TPM 2.0 が応答しなくなると、サーバをリブートします。

TPM の取り付けおよび有効化

(注) フィールドでの TPM の交換はサポートされていません。サーバに TPM が取り付けられていない場合にのみ、工場出荷後に TPM を取り付けることができます。

ここでは、TPM を取り付けて有効にするときに、その順序で行う必要がある次の手順について説明します。

- 1. TPM ハードウェアの取り付け
- 2. BIOS での TPM の有効化
- 3. BIOS での Intel TXT 機能の有効化

TPM ハードウェアの取り付け



- (注) 安全確保のために、TPM は一方向ネジを使用して取り付けます。このネジは一般的なドライ バでは取り外せません。
- ステップ1 次のようにして、サーバでコンポーネントを取り付ける準備をします。
 - a) サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を 参照)。
 - b) 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。

c) サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。

ステップ2 サーバから PCIe ライザー2を取り外し、マザーボード上の TPM ソケット周りに隙間を空けます。 ステップ3 次のようにして、TPM を取り付けます。

- a) マザーボード上の TPM ソケットの位置を確認します。
- b) TPM 回路基板の下部にあるコネクタとマザーボードの TPM ソケットの位置を合わせます。TPM ボードのネジ穴を TPM ソケットに隣接するネジ穴の位置に合わせます。
- c) TPM を均等に押し下げて、マザーボード ソケットにしっかりと装着します。
- d) 一方向ネジを1本取り付けて、TPM をマザーボードに固定します。
- ステップ4 サーバに PCIe ライザー2を取り付けます。PCIe ライザーの交換 (99 ページ)を参照してください。
- ステップ5 サーバにカバーを戻します。
- **ステップ6** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完全 に投入します。
- ステップ7 BIOS での TPM の有効化 (124 ページ) に進みます。



1	マザーボード上の TPM ソケットの位置	-	
	(PCIe ライザー2の下)		

BIOS での TPM の有効化

ハードウェアを取り付けたら、BIOS で TPM のサポートを有効にする必要があります。

 (注) この手順を実行する前に、BIOS 管理者パスワードを設定する必要があります。このパスワードを設定するには、システム ブート中にプロンプトが表示されたときに F2 キーを押して、BIOS セットアップ ユーティリティを開始します。[Security]>[Set Administrator Password] を 選択し、表示されるプロンプトに応じて新しいパスワードを2回入力します。

ステップ1 TPM サポートを有効にします。

- a) ブートアップ中に F2 プロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS セットアップに入ります。
- b) BIOS 管理者パスワードで、BIOS セットアップ ユーティリティにログインします。
- c) [BIOS Setup Utility] ウィンドウで、[Advanced] タブを選択します。
- d) [Trusted Computing] を選択し、[TPM Security Device Configuration] ウィンドウを開きます。
- e) [TPM SUPPORT] を [Enabled] に変更します。
- f) F10を押して設定を保存し、サーバを再起動します。

ステップ2 TPM のサポートが有効になっていることを確認します。

- a) ブートアップ中に F2 プロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS セットアップに入ります。
- b) BIOS 管理者パスワードを使用して、BIOS Setup ユーティリティにログインします。
- c) [Advanced] タブを選択します。
- d) [Trusted Computing] を選択し、[TPM Security Device Configuration] ウィンドウを開きます。
- e) [TPM SUPPORT] と [TPM State] が [Enabled] であることを確認します。

ステップ3 BIOS での Intel TXT 機能の有効化 (124 ページ)に進みます。

BIOS での Intel TXT 機能の有効化

Intel Trusted Execution Technology (TXT)を使用すると、ビジネスサーバ上で使用および保管 される情報の保護機能が強化されます。この保護の主要な特徴は、隔離された実行環境および 付随メモリ領域の提供にあり、機密データに対する操作をシステムの他の部分から見えない状 態で実行することが可能になります。Intel TXT は、暗号キーなどの機密データを保管できる 封印されたストレージ領域を提供し、悪意のあるコードからの攻撃時に機密データが漏洩する のを防ぐために利用できます。

- ステップ1 サーバをリブートし、F2を押すように求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
- ステップ2 プロンプトが表示されたら、F2を押して、BIOS セットアップ ユーティリティを起動します。
- ステップ3 前提条件の BIOS 値がイネーブルになっていることを確認します。
 - a) [Advanced] タブを選択します。
 - b) [Intel TXT(LT-SX) Configuration] を選択して、[Intel TXT(LT-SX) Hardware Support] ウィンドウを開きま す。
 - c) 次の項目が [Enabled] としてリストされていることを確認します。
 - [VT-d Support] (デフォルトは [Enabled])
 - [VT Support] (デフォルトは [Enabled])
 - [TPM Support]
 - [TPM State]
 - d) 次のいずれかを実行します。
 - [VT-d Support] および [VT Support] がすでに [Enabled] の場合、手順4に進みます。
 - [VT-d Support] および [VT Support] の両方が [Enabled] でない場合、次のステップに進み、有効にします。
 - e) Escape キーを押して、BIOS セットアップ ユーティリティの [Advanced] タブに戻ります。
 - f) [Advanced] タブで、[Processor Configuration] を選択し、[Processor Configuration] ウィンドウを開きます。
 - g) [Intel (R) VT] および [Intel (R) VT-d] を [Enabled] に設定します。
- ステップ4 Intel Trusted Execution Technology (TXT)機能を有効にします。
 - a) [Intel TXT(LT-SX) Hardware Support] ウィンドウに戻ります(別のウィンドウを表示している場合)。
 - b) [TXT Support] を [Enabled] に設定します。

ステップ5 F10を押して変更内容を保存し、BIOS セットアップ ユーティリティを終了します。

サービス ヘッダーおよびジャンパ

このサーバは、特定のサービスおよびデバッグ機能のジャンパを設定できる2つのヘッダーブ ロック(J38、J39)を備えています。

- ここでは、次の内容について説明します。
 - CMOS クリア ヘッダー (J38、ピン 9 ~ 10)の使用 (127 ページ)
 - •BIOS リカバリ ヘッダー (J38、ピン 11 ~ 12)の使用 (128 ページ)
 - パスワード クリア ヘッダー (J38、ピン 13 ~ 14)の使用 (130 ページ)
 - Cisco IMC 代替イメージ起動ヘッダー (J39、ピン1~2)の使用 (131ページ)

- Cisco IMC パスワードデフォルトリセットヘッダー (J39、ピン3~4)の使用 (131ページ)
- Cisco IMC デフォルトリセット ヘッダー (J39、ピン 5 ~ 6)の使用 (132 ページ)

図 46: サービス ヘッダー ブロック J38 および J39 の場所



1	ヘッダーブロック J38 の場所	6	ヘッダーブロック J39 の場所
2	J38 ピン1の矢印(マザーボード上に印字)	7	J39 ピン1の矢印(マザーボード上に印字)
3	CMOS をクリア:J38 ピン 9 ~ 10	8	代替イメージから Cisco IMC を起動: J39 ピン 1 ~ 2
4	BIOS を回復:J38 ピン 11 ~ 12	9	Cisco IMC のパスワードをデフォルトにリセット: J39 ピン 3 ~ 4
5	パスワードをクリア : J38 ピン 13 ~ 14	10	Cisco IMC をデフォルトにリセット: J39 ピン 5 ~ 6

CMOS クリア ヘッダー(J38、ピン 9 ~ 10)の使用

このスイッチで、システムがハングアップしたときにサーバのCMOS設定をクリアできます。 たとえば、設定が正しくないためにサーバがハングアップしてブートしなくなった場合に、こ のジャンパを使って設定を無効化し、デフォルト設定を使って再起動できます。

- 注意 CMOSをクリアすることによってカスタマイズされた設定が削除されるため、データが失われ ることがあります。このCMOSのクリア手順を使用する前にBIOSに必要なカスタマイズされ た設定を書き留めます。
- **ステップ1** サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を参照)。
- **ステップ2** 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- ステップ3 サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ4** J38 ピン9および 10 に 2 ピン ジャンパを取り付けます。
- ステップ5 上部カバーと AC 電源コードをもう一度サーバに取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ6** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。電源 LED が緑色になれば、サーバは主電源モードです。
 - (注) リセットを完了するには、サーバ全体が再起動して主電源モードになるようにする必要があり ます。ホスト CPU が実行されていないと、ジャンパの状態は判別できません。
- **ステップ7** 電源ボタンを押し、サーバをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、電流が流れないようにす るために AC 電源コードを抜きます。

- **ステップ8** サーバの上部カバーを外します。
- **ステップ9** 取り付けたジャンパを取り外します。
 - (注) ジャンパを取り外さないと、サーバの電源を再投入するたびに CMOS 設定がデフォルトにリ セットされます。
- **ステップ10** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。

BIOS リカバリ ヘッダー(J38、ピン11~12)の使用

どのステージで BIOS が破損しているかにより、さまざまな動作が発生することがあります。

・BIOS BootBlock が破損すると、システムが次のメッセージで停止する場合もあります。

Initializing and configuring memory/hardware

•ブートブロック以外が破損している場合は、次のようなメッセージが表示されます。

****BIOS FLASH IMAGE CORRUPTED****
Flash a valid BIOS capsule file using Cisco IMC WebGUI or CLI interface.
IF Cisco IMC INTERFACE IS NOT AVAILABLE, FOLLOW THE STEPS MENTIONED BELOW.
1. Connect the USB stick with bios.cap file in root folder.
2. Reset the host.
IF THESE STEPS DO NOT RECOVER THE BIOS
1. Power off the system.
2. Mount recovery jumper.
3. Connect the USB stick with bios.cap file in root folder.
4. Power on the system.
Wait for a few seconds if already plugged in the USB stick.
REFER TO SYSTEM MANUAL FOR ANY ISSUES.

(注) 上部に表示されるメッセージによって示されるように BIOS を回復するには、2 種類の方法が あります。まず、手順1を試行します。この手順で BIOS が回復しない場合は、手順2を使用 します。

手順1: bios.cap リカバリ ファイルを使った再起動

- ステップ1 BIOS 更新パッケージをダウンロードし、一時的な場所に保存して展開します。
- **ステップ2** 展開したリカバリ フォルダ内のファイルを、USB ドライブのルート ディレクトリにコピーします。リカ バリ フォルダにはこの手順に必要な bios.cap ファイルが含まれます。
 - (注) bios.cap ファイルは、USB ドライブのルート ディレクトリにある必要があります。このファイル の名前を変更しないでください。USB ドライブは、FAT16 または FAT32 ファイル システムで フォーマットする必要があります。

ステップ3 USB ドライブをサーバの USB ポートに接続します。

- **ステップ4** サーバをリブートします。
- ステップ5 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。

サーバが、更新された BIOS ブートブロックでブートします。BIOS が USB ドライブの有効な bios.cap ファ イルを検出すると、次のメッセージが表示されます。

Found a valid recovery file...Transferring to Cisco IMC System would flash the BIOS image now... System would restart with recovered image after a few seconds...

- **ステップ6** サーバの BIOS 更新が完了するのを待ってから、USB ドライブをサーバから取り外します。
 - (注) BIOS の更新中に、Cisco IMC はサーバをシャットダウンし、画面が約 10 分間空白になります。
 更新中は、電源コードを外さないでください。更新が完了すると、Cisco IMC はサーバの電源を 投入します。

手順2: BIOS リカバリ ヘッダーおよび bios.cap ファイルの使用

- ステップ1 BIOS 更新パッケージをダウンロードし、一時的な場所に保存して展開します。
- **ステップ2** 展開したリカバリフォルダ内のファイルを、USBドライブのルートディレクトリにコピーします。リカ バリフォルダにはこの手順に必要な bios.cap ファイルが含まれます。
 - (注) bios.cap ファイルは、USB ドライブのルート ディレクトリにある必要があります。このファイ ルの名前を変更しないでください。USB ドライブは、FAT16 または FAT32 ファイル システム でフォーマットする必要があります。
- ステップ3 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を参 照)。すべての電源装置から電源コードを外します。
- ステップ4 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- **ステップ5** サーバ上部カバーの取り外し (47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ6** J38 ピン 11 および 12 に 2 ピン ジャンパを取り付けます。
- **ステップ7** AC 電源コードをサーバに再度取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モードになります。
- **ステップ8** ステップ2で準備した USB メモリをサーバの USB ポートに接続します。
- **ステップ9** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。

サーバが、更新された BIOS ブート ブロックでブートします。BIOS が USB ドライブの有効な bios.cap ファイルを検出すると、次のメッセージが表示されます。

Found a valid recovery file...Transferring to Cisco IMC System would flash the BIOS image now... System would restart with recovered image after a few seconds...

ステップ10 サーバの BIOS 更新が完了するのを待ってから、USB ドライブをサーバから取り外します。

- BIOSの更新中に、Cisco IMC はサーバをシャットダウンし、画面が約10分間空白になります。
 更新中は、電源コードを外さないでください。更新が完了すると、Cisco IMC はサーバの電源を 投入します。
- ステップ11 サーバが完全にブートした後に、サーバの電源を再び切り、すべての電源コードを外します。
- **ステップ12** 取り付けたジャンパを取り外します。
 - (注) リカバリ完了後にジャンパを取り外さない場合、「Please remove the recovery jumper」と表示されます。
- **ステップ13** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。

パスワードクリア ヘッダー(J38、ピン13~14)の使用

このスイッチを使用すると、管理者パスワードをクリアできます。

- ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を参 照)。すべての電源装置から電源コードを外します。
- **ステップ2** 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- **ステップ3** サーバ上部カバーの取り外し (47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ4** J38 ピン 13 および 14 に 2 ピン ジャンパを取り付けます。
- ステップ5 上部カバーと AC 電源コードをもう一度サーバに取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モードになり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ6** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。電源LEDが緑色になれば、サーバは主電源モードです。
 - (注) リセットを完了するには、サーバ全体が再起動して主電源モードになるようにする必要があり ます。ホスト CPU が実行されていないと、ジャンパの状態は判別できません。
- **ステップ7** 電源ボタンを押し、サーバをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、電流が流れないようにす るために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ8** サーバの上部カバーを外します。
- **ステップ9** 取り付けたジャンパを取り外します。
 - (注) ジャンパを取り外さないと、サーバの電源を入れ直すたびにパスワードがクリアされます。
- **ステップ10** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。

Cisco IMC 代替イメージ起動ヘッダー(J39、ピン1~2)の使用

この Cisco IMC デバッグ ヘッダーを使用して、Cisco IMC 代替イメージからシステムを強制的 に起動することができます。

- ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断を参照)。すべての電源装置から電源コードを外します。
- **ステップ2** 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - 注意 コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- ステップ3 サーバ上部カバーの取り外しの説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ4** J39 ピン1 および2 に2 ピン ジャンパを取り付けます。
- **ステップ5** 上部カバーと AC 電源コードをもう一度サーバに取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ6** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。電源 LED が緑色になれば、サーバは主電源モードです。
 - (注) 次回 Cisco IMC にログインすると、次のようなメッセージが表示されます。

'Boot from alternate image' debug functionality is enabled. CIMC will boot from alternate image on next reboot or input power cycle.

- (注) このジャンパを取り外さないと、サーバの電源を再投入するとき、または Cisco IMC をリブー トするときに、サーバは常に代替 Cisco IMC イメージからブートします。
- **ステップ7** ジャンパを取り外すには、電源ボタンを押しサーバをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、 電流がまったく流れないようにするために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ8** サーバの上部カバーを外します。
- ステップ9 取り付けたジャンパを取り外します。
- **ステップ10** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。

Cisco IMC パスワード デフォルト リセット ヘッダー (**J39**、ピン**3**~ 4) の使用

この Cisco IMC デバッグ ヘッダーを使用して、Cisco IMC パスワードを強制的にデフォルトに 戻すことができます。

ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断を参照)。すべての電源装置から電源コードを外します。

- ステップ2 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- **ステップ3** サーバ上部カバーの取り外しの説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- ステップ4 J39 ピン3 および4 に 2 ピン ジャンパを取り付けます。
- **ステップ5** 上部カバーと AC 電源コードをもう一度サーバに取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ6** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。電源LEDが緑色になれば、サーバは主電源モードです。
 - (注) 次回 Cisco IMC にログインすると、次のようなメッセージが表示されます。
 'Reset to default CIMC password' debug functionality is enabled.
 On input power cycle, CIMC password will be reset to defaults.
 - (注) このジャンパを取り外さないと、サーバの電源を入れ直すたびにCiscoIMCパスワードがデフォ ルトにリセットされます。Cisco IMC をリブートする場合、このジャンパは影響しません。
- **ステップ7** ジャンパを取り外すには、電源ボタンを押しサーバをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、 電流がまったく流れないようにするために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ8** サーバの上部カバーを外します。
- **ステップ9** 取り付けたジャンパを取り外します。
- **ステップ10** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。

Cisco IMC デフォルト リセット ヘッダー (J39、ピン5~6)の使用

この Cisco IMC デバッグ ヘッダーを使用して、Cisco IMC 設定を強制的にデフォルトに戻すこ とができます。

- ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断(44ページ)を参照)。すべての電源装置から電源コードを外します。
- ステップ2 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- **ステップ3** サーバ上部カバーの取り外し (47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ4** J39 ピン5 および6 に 2 ピン ジャンパを取り付けます。

- **ステップ5** 上部カバーと AC 電源コードをもう一度サーバに取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ6** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。電源LEDが緑色になれば、サーバは主電源モードです。
 - (注) 次回 Cisco IMC にログインすると、次のようなメッセージが表示されます。
 'CIMC reset to factory defaults' debug functionality is enabled.
 On input power cycle, CIMC will be reset to factory defaults.
 - (注) このジャンパを取り外さないと、サーバの電源を入れ直すたびに Cisco IMC の設定がデフォルトにリセットされます。Cisco IMC をリブートする場合、このジャンパは影響しません。
- **ステップ7** ジャンパを取り外すには、電源ボタンを押しサーバをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、 電流がまったく流れないようにするために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ8** サーバの上部カバーを外します。
- **ステップ9** 取り付けたジャンパを取り外します。
- **ステップ10** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。

PCB アセンブリ (PCBA) のリサイクル

PCBAは、外部および内部のネジでサーバに固定されます。追加の部品を取り外して、PCBA をシートメタルトレイに接続する取り付けネジを露出させる必要があります。PCBAをリサイ クルする前に、トレイから PCBA を取り外す必要があります。PCBAは12本のM3.5x0.6mm ネジで保護されています。

始める前に



(注) リサイクラのみ。この手順は、標準のフィールドサービスオプションではありません。この手順は適切な処分のための電子機器を要求するリサイクラのためのものであり、エコデザインと eウェスト規制に準拠しています。

プリント基板アセンブリ (PCBA) を取り外すには、次の要件を満たしている必要があります。

- サーバを施設の電源から取り外す必要があります。
- ・サーバを機器ラックから取り外す必要があります。
- ・サーバの上部カバーを取り外す必要があります。サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)を参照してください。

ステップ1 外部ネジを取り外します。

a) ドライバを使用して、前面プレートのネジを外します。

図 47:前面プレートの PCBA 取り付けネジの位置



b) ドライバを使用して、シャーシの各側面のネジを外します。



ステップ2 ファン ケージのネジを取り外します。





ステップ3 ファンケージをつかんで取り外します。

- ステップ4 侵入防御スイッチ (IPS) を取り外します (次の図を参照)。
 - a) マザーボードで、IPS ロック タブをコネクタから外します。
 - b) IPS ケーブルをつかみ、マザーボードから取り外します。

図 50: 侵入防御スイッチの場所



- ステップ5 内部コンポーネントの取り外しを続けます。
 - a) ケーブルホルダーをつかんで取り外します。
 - b) RAID カードブラケットをつかんで取り外します。

図 51: 内部コンポーネントの位置



ステップ6 PCBA を取り外します。

- a) 各リボンケーブルのそれぞれの端をつかんで外します。
- b) ドライバを使用して、すべての PCBA 取り付けねじを外します。
- c) シートメタルトレイから PCBA を取り外し、PCBA を適切に廃棄します。

図 52: PCBA ケーブルと取り付けねじの位置





サーバの仕様

- ・サーバの仕様 (139ページ)
- 電源コードの仕様 (142ページ)

サーバの仕様

この付録では、サーバの物理的仕様と、環境および電源の仕様を示します。

- •物理仕様 (139ページ)
- ・環境仕様 (140ページ)
- •電力仕様 (141ページ)

物理仕様

次の表に、サーババージョンの物理仕様を示します。

表 11:物理仕様

説明	仕様
高さ	86.4 mm (3.4 インチ)
幅	443.9 mm(17.48 インチ)
奥行 (長さ)	サーバのみ:537.5 mm(21.16 インチ)
	スライドレール付きサーバ:575.5mm(22.66インチ)
最大重量(フル装備シャーシ)	1.8 kg (4.0 ポンド)

環境仕様

次の表に、サーバの環境要件および仕様を示します。

表12:物理仕様

説明	仕様
温度 (動作時)	$50 \sim 95 ^{\circ}\text{F} (10 \sim 35 ^{\circ}\text{C})$
	拡張環境 41~104°F (5~40°C)
	海抜 305 m ごとに最高温度が 1 ℃ 低下。
	(注) ASHRAE のガイドラインでは動作範囲が異なる複数 のクラスが定義されていますが、推奨される温度と湿 度の動作範囲はクラスごとに同じです。推奨される温 度と湿度の範囲は次のとおりです。
	•動作温度:64.4°F~80.6°F(18°C~27°C)
	詳細情報については、『Ciscoユニファイドコンピュー ティングシステムサイトプランニングガイド: データ センターの電源と冷却』を参照してください。
非動作時温度	$-40 \sim 149 ^{\circ}\text{F} (-40 \sim 65 ^{\circ}\text{C})$
(サーバが倉庫にあるか運送中の場合)	
湿度(RH)(動作時)	8~90%
湿度(RH)(非動作時)	$5 \sim 93\%$
(サーバが倉庫にあるか運送中の場合)	
動作時高度	0~10,000 フィート
非動作時高度	0~40,000 フィート
(サーバが倉庫にあるか運送中の場合)	
音響出力レベル	5.5
ISO7779 に基づく A 特性音響出力レベル LwAd (Bels)を測定	
73°F(23°C) で動作	
騒音レベル	40
ISO7779に基づくA特性音圧レベルLpAm(dBA)を 測定	
73°F(23°C)で動作	

電力仕様

(注)

サーバでは、タイプやワット数の異なる電源装置を組み合わせて使用しないでください。両方 の電源装置が同じである必要があります。

次の URL にある Cisco UCS Power Calculator を使用すると、ご使用のサーバ設定の電源に関する詳細情報を取得できます。

http://ucspowercalc.cisco.com [英語]

サポート対象の電源装置オプションの電源仕様を次に示します。

1050 W AC 電源装置

ここでは、各 1050 W AC 電源装置の仕様を示します(Cisco 部品番号 UCSC-PSUF-1050W)。

表 13:1050 WAC 仕様

説明	仕様
AC 入力電圧	公称範囲:100~120 VAC、200~240 VAC
	(範囲:90~132 VAC、180~264 VAC)
AC 入力周波数	公称範囲:50~60 Hz
	(範囲:47~63 Hz)
最大 AC 入力電流	100 VAC で 12.5 A
	208 VAC で 6.0 A
最大入力電圧	1250 VA @ 100 VAC
最大突入電流	15 A (サブサイクル期間)
最大保留時間	1050 W で 12 ms
PSU あたりの最大出力電	800 W @ 100 \sim 120 VAC
力 	$1050 \text{ W} @ 200 \sim 240 \text{ VAC}$
電源装置の出力電圧	12 VDC
電源装置のスタンバイ電	12 VDC
上	
効率評価	Climate Savers Platinum Efficiency (80 Plus Platinum 認証済み)
フォームファクタ	RSP2

入力コネクタ	IEC320 C14

1050 W DC 電源装置

ここでは、各1050WDC電源装置の仕様を示します(Cisco部品番号UCSC-PSUF-1050WDC)。

表 14:1050 W DC 仕様

説明	仕様
DC 入力電圧	公称範囲:-48~-60 VDC
	(範囲:-40~-72 VDC)
最大 DC 入力電流	-40 VDC で N32 A
最大入力ワット数	1234 W
最大突入電流	35 A(サブ サイクル期間)
最大保留時間	100%の負荷で5ms(1050Wメインおよび36Wスタンバイ)
PSU あたりの最大出力電	1050 W (DC 12 V 主電源)
カ 	36 W (DC 12 V スタンバイ電源)
電源装置の出力電圧	12 VDC
電源装置のスタンバイ電	12 VDC
· 効率評価	≥92%(負荷50%)
フォームファクタ	RSP2
入力コネクタ	固定3線ブロック

電源コードの仕様

サーバの各電源装置には、電源コードがあります。サーバとの接続には、標準の電源コードま たはジャンパ電源コードを使用できます。ラック用の短い方のジャンパ電源コードは、必要に 応じて標準の電源コードの代わりに使用できます。

(注) 使用できるのは、下の表に示す認定済みの電源コードまたはジャンパ電源コードだけです。
表15:サポートされる電源コード

Description	長さ(フィート)	長さ (メートル)	
CAB-48DC-40A-8AWG	11.7	3.5』	
DC 電源コード、-48 VDC、40 A、8 AWG			
3 線の 3 ソケット Mini-Fit コネクタ			
CAB-C13-C14-AC	9.8	3.0	
電源コード、10A、C13~C14、埋め込み型コンセント			
CAB-250V-10A-AR	8.2	2.5	
AC 電源コード、250 V、10 A			
アルゼンチン			
CAB-C13-C14-2M-JP	6.6	2.0	
電源コード、C13 ~ C14			
日本 PSE マーク			
CAB-9K10A-EU	8.2	2.5	
AC 電源コード、250 V、10 A、CEE 7/7 プラグ			
欧州			
CAB-250V-10A-IS	8.2	2.5	
AC 電源コード、250 V、10 A			
イスラエル			
CAB-250V-10A-CN	8.2	2.5	
AC 電源コード、250 V、10 A			
中華人民共和国			
CAB-ACTW	7.5	2.3	
AC 電源コード、250 V、10 A			
台湾			
CAB-C13-CBN	2.2	0.68	
AC キャビネット ジャンパ電源コード、250 V、10 A、			
$C13 \sim C14$			

CAB-C13-C14-2M	6.6	2.0
AC キャビネット ジャンパ電源コード、250 V、10 A、		
$C13 \sim C14$		
CAB-9K10A-AU	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A、3112 プラグ、		
オーストラリア		
CAB-N5K6A-NA	8.2	2.5
AC 電源コード、200/240 V、6 A		
北米		
CAB-250V-10A-ID	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A		
インド		
CAB-9K10A-SW	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A、MP232 プラグ		
スイス		
CAB-250V-10A-BR	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A		
ブラジル		
CAB-9K10A-UK	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A(13 A ヒューズ)、BS1363 プラグ		
英国		
CAB-9K12A-NA	8.2	2.5
AC 電源コード、125 V、13 A、NEMA 5-15 プラグ		
北米		
CAB-AC-L620-C13	6.6	2.0
AC 電源コード、NEMA L6-20 - C13 コネクタ		
CAB-9K10A-IT	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A、CEI 23-16/VII プラグ		
イタリア		

R2XX-DMYMPWRCORD	NA	NA
電源コードなし。電源コードなしサーバを選択する PID オプションあり。		



ストレージ コントローラに関する考慮事 項

この付録では、ストレージコントローラ(RAIDおよびHBA)に関する情報を提供します。

- サポートされるストレージョントローラとケーブル (147ページ)
- ストレージ コントローラ カードのファームウェアの互換性(148ページ)
- Cisco 12G SAS モジュラー RAID コントローラ用の書き込みキャッシュポリシー (148 ページ)
- RAID ユーティリティに関する詳細情報 (149 ページ)

サポートされるストレージ コントローラとケーブル

Cisco UCS C240 SD M5 サーバは、専用の内部ソケットに差し込む単一の Cisco 12G SAS HBA (JBOD/パススルーモード) コントローラをサポートします。

(注) NVMe PCIe SSD は、SAS RAID コントローラでは制御できません。

このサーバでは、次の表に示す RAID および HBA コントローラ オプションとケーブル要件が サポートされます。

コントローラ	最大制御ドライブ数	RAID レベル	オプションの Supercap バック アップ	必要なケーブル
Cisco 12G モジュラ	2 GB キャッシュを搭載	非 RAID	×	専用内蔵スロットに装着
SAS HBA	し、最大 16 台のドライブ	JBOD モードもサポー		された状態で出荷されま
UCSC-SAS-M5	を制御します。	トされています。		す。

ストレージコントローラカードのファームウェアの互換 性

ストレージョントローラ(RAID または HBA)のファームウェアに、サーバ上にインストー ルされている Cisco IMC および BIOS の現行バージョンとの互換性があることを確認する必要 があります。互換性がない場合は、Host Upgrade Utility(HUU)を使用して、ストレージョン トローラのファームウェアを互換性のあるレベルにアップグレードまたはダウングレードして ください。



(注) スタンドアロンモードのみで実行されているサーバ:コントローラハードウェア (UCSC-SAS-M5)を交換した後に、ファームウェアの現在のバージョンが更新バージョンと 同じであった場合でも、Cisco UCS Host Upgrade Utility (HUU) コントローラのファームウェ アの更新を実行する必要があります。これは、サーバSKUに正しい値をコントローラの suboem idをプログラムするために必要です。これを行わないと、ソフトウェアでドライブ列挙が正し く表示されない場合があります。この問題は、UCSM モードのサーバの制御には影響しませ ん。

このユーティリティをダウンロードする方法、およびこのユーティリティを使用してサーバコ ンポーネントを互換性のあるレベルにする方法については、HUU ガイドに用意されている、 ご使用の Cisco IMC リリースに対応する HUU ガイドを参照してください。

Cisco 12G SAS モジュラー RAID コントローラ用の書き込 みキャッシュ ポリシー

このサーバおよびその他のシスコの M5 世代サーバで、Cisco モジュラー RAID コントローラ のデフォルトの書き込みキャッシュ ポリシーは [Write Through] です(充電された SuperCap ま たは「良好な BBU」の有無に関係ありません)。これは、コントローラの最適なパフォーマ ンス特性を利用します。

必要に応じて、書き込みポリシーをライトバックに設定することができます。書き込みポリ シーは、次の方法を使用して設定できます。

 スタンドアロンサーバの場合、Cisco IMC インターフェイスを使用して [Virtual Drive Properties] > [Write Policy] を設定します。ご使用の『Cisco IMC Configuration Guide』の「Managing Storage Adapters」のセクションを参照してください。

Cisco IMC GUI and CLI Configuration Guides

Cisco UCS 統合サーバでは、Cisco UCS Manager インターフェイスを使用して、ストレージプロファイルの仮想ドライブの構成の一部として書き込みキャッシュポリシーを設定します。

Cisco UCS Manager Configuration Guides

•LSI オプション ROM 設定ユーティリティを使用します。

RAID ユーティリティに関する詳細情報

Broadcomユーティリティには、詳細な使用法に関するヘルプマニュアルが用意されています。

- RAID に関する基本情報および Cisco サーバのサポートする RAID コントローラ カード用 ユーティリティの使用については、『Cisco UCS Servers RAID Guide』を参照してください。
- ハードウェア SAS MegaRAID 設定: 『Broadcom 12Gb/s MegaRAID SAS Software User Guide, Version 2.8』
- ・組み込みソフトウェア MegaRAID およびサーバ BIOS 経由でアクセスするユーティリティ (第4章を参照):『Broadcom Embedded MegaRAID ソフトウェア ユーザー ガイド 2018 年3月』。

I



GPU カードの取り付け

この付録では、サポートされている GPU カードの設定ルールと取り付け手順について説明します。

- ・サーバファームウェアの要件 (151ページ)
- GPU カードの設定ルール (151 ページ)
- すべての GPU の要件: 4 GB を超えるメモリマップド I/O (152 ページ)
- GPU カードの取り付け (153 ページ)
- T シリーズ GPU 用 NVIDIA GRID ライセンス サーバの使用 (157 ページ)
- GPU カードをサポートするドライバのインストール (165 ページ)

サーバ ファームウェアの要件

次の表に、サポートされている GPU カードのサーバ ファームウェアの最低限必要なバージョンを示します。

GPU カード	Cisco IMC/BIOS の最低限必要なバージョン
Nvidia T4 PCIe 16 GB 70W	4.1(2a)

GPU カードの設定ルール

GPU カードをサーバに装着する際には、次のルールに注意してください。

- ・サーバの設定に基づいて必要な電力を判別するには、リンク http://ucspowercalc.cisco.com で UCS Power Calculator を使用してください。
- ・最大2個の倍幅 GPU カードが PCIe ライザー1、スロット2と PCIe ライザー2、スロット 5 でサポートされています。



- (注) 倍幅の GPU カードはすべての PCIe ライザーオプションでサポートされていません。倍幅の GPU カードをサポートするのは以下のライザーオプションのみです。
 - PCIeライザー1 (UCSC-RIS-1-240M5)
 - PCIe ライザー 2B (UCSC-RIS-2B-240M5)
- ・スロット2に取り付けられている倍幅カードはスロット4を覆い、スロット5に取り付けられている倍幅カードはスロット6を覆います。

• NVIDIA T4 :

ライザー 1/2B とライザー 1C/2E の組み合わせで、次の PCIe スロットの使用状況を確認します。

ライザーの組み合わせ	使用可能な GPU 向けライザー スロット		
	シングル CPU	2 つの CPU	
ライザー1および2B	スロット2	スロット2および5	
ライザー 1C および 2E	スロット1	スロット1および2	

- 同じライザーに GPU カードと Cisco UCS VIC を取り付けることができます。スロット2 に GPU カードを取り付けると、ライザー1 での NCSI のサポートはスロット1 に自動的 に移ります。スロット5 に GPU カードを取り付けると、ライザー2 での NCSI のサポー トはスロット4 に自動的に移ります。
- NVIDIA T シリーズ GPU は、サーバで 1 TB 以上のメモリをサポートできます。

すべての GPU の要件:4 GB を超えるメモリマップド I/O

サポートされるすべての GPU カードは、4 GB を超えるメモリマップド I/O (MMIO) を許可 する BIOS 設定が必要です。

スタンドアロンサーバ:サーバをスタンドアロンモードで使用する場合、このBIOS設定はデフォルトで有効です。

[Advanced] > [PCI Configuration] > [Memory Mapped I/O Above 4 GB] [Enabled]

この設定値を変更するには、ブートアップ時に指示されたらF2を押してBIOSセットアップユーティリティを使用します。

 サーバが Cisco UCS Manager と統合され、サービスプロファイルによって制御される場合 に GPU が存在していると、この設定はデフォルトによりサービス プロファイルで有効に なります。 この設定を手動で変更するには、次の手順を使用します。

ステップ1 サービス プロファイルの設定方法については、使用しているリリースの『Cisco UCS Manager Configuration Guide』 (GUI または CLI) をご覧ください。

Cisco UCS Manager Configuration Guides

- ステップ2 「Configuring Server-Related Policies」にある「Configuring BIOS Settings」の章を参照してください。
- **ステップ3** PCI 構成の BIOS の設定用のプロファイルのセクションで、[Memory Mapped IO Above 4GB Config] を次の いずれかに設定します。
 - •[Disabled]: 64 PCI デバイスを 64 GB 以上のアドレス空間にマッピングしません。
 - •[Enabled]: 64 ビット PCI デバイスの I/O を 64 GB 以上のアドレス空間にマッピングします。
 - Platform Default:ポリシーはサーバの BIOS のデフォルトに含まれるこの属性の値を使用します。これは、サーバ BIOS がこの項目にデフォルトの有効化設定を使用するように設定されていることがわかっている場合にのみ使用します。

ステップ4 サーバをリブートします。

(注) Cisco UCS Manager は、BIOS ポリシーまたはデフォルトの BIOS 設定による BIOS 設定の変更を Cisco Integrated Management Controller (CIMC) バッファにプッシュします。これらの変更はバッ ファ内にとどまり、サーバがリブートされるまでは有効になりません。

GPUカードの取り付け

次に示すサポートされている GPU カードを装着または交換する手順は、次のとおりです。

• Nvidia T4 PCIe 16 GB 70W

表 16: Cisco UCS C240 SD M5 GPU カードの動作温度要件

GPU カード	最高サーバ動作温度(吸気口温度)
Nvidia T4 PCIe 16 GB 70W	35°C (95.0°F)

Ņ

(注) NVIDIA GPU: NVIDIA GPU カードは、ストレートケーブルとY字型ケーブルの2本の電源 ケーブルが付属していることがあります。このサーバでGPUカードに電源を接続するにはス トレートケーブルを使用します。Y字型ケーブルは使用しないでください。Y字型ケーブル は、外部デバイスのGPUカードを接続する場合にのみ使用します(Magma シャーシなど)。 次の表では、GPUで使用されるケーブルがリストされています。また、ケーブルがGPUBOM に含まれているかどうか、または別途注文する必要があるかどうかも示されています。

- 別途 = ordering tool プロンプトが表示される場合はケーブルを別途注文する必要があります。
- ・付属=ケーブルはGPUに付属しています。追加のアクションは必要ありません。
- ステップ1 サーバをシャットダウンして、電源を切ります(サーバのシャットダウンと電源切断 (44 ページ)を参照)。
- ステップ2 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルか らケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
 - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出してく ださい。
- ステップ3 サーバ上部カバーの取り外し(47ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- ステップ4 既存の GPU カードを取り外します。
 - a) 両手で PCIe ライザーの金属製ブラケットをつかんでまっすぐ持ち上げ、マザーボード上のソケットからコネクタを外します。ライザーを静電気防止素材の上に置きます。
 - b) ライザーの底部で、固定プレートを留めているクリップを押し下げます。
 - c) ヒンジ付き固定プレートを回して開け、中にアクセスできるようにします。
 - d) カードの背面パネル タブを固定しているヒンジ付きプラスチック製固定具を開きます。
 - e) PCIe ライザーの電源コネクタから GPU カードの電源ケーブルを外します。
 - f) GPU カードの両端を均等に引いて、PCIe ライザーのソケットから取り外します。

図 53: PCle ライザー カード固定構造



1	ヒンジ付き固定プレートのリリースラッ チ	3	ヒンジ付きカード タブ固定具
2	ヒンジ付き固定プレート	-	

ステップ5 新しい GPU カードを取り付けます。

(注) GPU カードの設定ルール (151 ページ) で説明されているこのサーバの設定ルールに従います。

- a) GPUカードをライザーのソケットの位置に合わせ、カードのエッジコネクタをソケットにゆっくりと 押し込みます。コネクタに支障をきたすことを防ぐためにカードの両隅を均等に押します。
- b) GPUの電源コードを接続します。ストレート電源ケーブルコネクタは色分けされています。ケーブルの黒いコネクタをGPUカードの黒いコネクタに、ケーブルの白いコネクタをPCIeライザーの白いGPU POWERコネクタに接続します。
 - **注意** ストレート電源ケーブルを逆向きに接続しないでください。ケーブルの黒いコネクタは GPU カードの黒いコネクタに接続します。コードの白いコネクタを PCIe ライザーの白いコネクタ に接続します。
- c) カードの端のカードタブ固定具を閉じます。

- d) ライザーの底部でヒンジ付き固定プレートを回して閉じます。プレートのクリップが、カチッと音が してロック位置に収まったことを確認します。
- e) PCIe ライザーを、マザーボード上のソケットとシャーシの位置合わせチャネルの上に配置します。
- f) PCIe ライザーの両端を慎重に押し下げて、コネクタをマザーボード上のソケットにしっかりと収納します。

同時に、(GPUカードのフロントエンドにある)GPUの前面支持ブラケットを、サーバのエアーバッフルにある固定ラッチの位置に合わせます。

ステップ6 GPU の前面支持ブラケットをエアー バッフル上のラッチに差し込みます。

- a) ラッチリリースタブをつまみ、ラッチをサーバの前面に向け倒します。
- b) ラッチを後方に向けて倒します。これにより、ラッチのへりが、GPUの前面支柱ブラケットの端にか ぶるように閉じます。
- c) ラッチ リリース タブがカチッと音がしてラッチが所定の位置に固定されたことを確認します。

図 54: エアーバッフルの固定ラッチに差し込まれた GPU の前面支持ブラケット



1	GPU カードのフロントエンド	3	固定ラッチのへり
2	GPU の前面支持ブラケット	4	固定ラッチ リリース タブ

- ステップ1 サーバに上部カバーを戻します。
- **ステップ8** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完全 に投入します。
- ステップ9 オプション: GPU カードをサポートするドライバのインストール (165 ページ) に進みます。

(注) NVIDIAは、いくつかのカードにグリッド機能を提供しています。グリッド機能を使用するには、 グリッドライセンスをインストールする必要があります。「T シリーズ GPU 用 NVIDIA GRID ラ イセンス サーバの使用 (157 ページ)」を参照してください。

Tシリーズ GPU 用 NVIDIA GRID ライセンス サーバの使用

この項の内容は、NVIDIA Tesla T シリーズの GPU に適用されます。

NVIDIA グリッドライセンスの取得および使用時に、次の順序でこのセクションのトピックを お読みください。

- NVIDIA グリッドのライセンス サーバについて十分理解します。
 NVIDIA グリッド ライセンス サーバの概要 (157 ページ)
- 製品アクティベーション キーを NVIDIA に登録します。
 製品アクティベーション キーの NVIDIA への登録 (158 ページ)
- GRID ソフトウェア スイートをダウンロードします。
 グリッド ソフトウェア スイートのダウンロード (159 ページ)
- GRID License Server ソフトウェアをホストにインストールします。
 NVIDIA グリッド ライセンス サーバ ソフトウェアのインストール (159ページ)
- NVIDIA ライセンス ポータルでライセンスを作成し、ダウンロードします。
 NVIDIA ライセンスポータルからライセンスサーバへのグリッドライセンスのインストール (161 ページ)
- GRID のライセンスを管理します。
 グリッドライセンスの管理 (163 ページ)

NVIDIA グリッド ライセンス サーバの概要

GRID vGPU や GRID 仮想ワークステーションなどのライセンス済み GRID 機能が有効になる と、NVIDIA M シリーズ GPU は Tesla と GRID 機能を統合します。これらの機能は、OS のブー ト時に、NVIDIA GRID License Server 仮想アプライアンスからネットワーク経由で提供される ソフトウェア ライセンスを交付されることで有効になります。ライセンスは、OS がシャット ダウンするときにライセンス サーバに戻ります。

GRID ライセンスサーバで提供されるライセンスを、ダウンロード可能なライセンスファイル として NVIDIA のライセンス ポータルから取得します。ユーザはこのライセンス ファイルを GRID ライセンス サーバに管理インターフェイスを用いてインストールします。

図 55: NVIDIA GRID ライセンス アーキテクチャ



グリッドのライセンスには、グリッド機能の3つの異なるクラスを有効にする、3つのエディ ションがあります。グリッドソフトウェアが使用している機能に基づいてライセンスエディ ションを自動的に選択します。

グリッド ライセンス エディショ ン	GRID 機能
GRID Virtual GPU (vGPU)	ビジネス デスクトップ コンピューティング向け Virtual GPU
GRID Virtual Workstation	ミッドレンジ ワークステーション コンピューティング向 け Virtual GPU
GRID Virtual Workstation – Extended	ハイエンド ワークステーション コンピューティング向け Virtual GPU GPU パススルーのワークステーション グラフィック

製品アクティベーション キーの NVIDIA への登録

オーダーの処理が完了すると、製品アクティベーションキー(PAK)および購入したライセン スのタイプと数量のリストが記載されている、NVIDIAからのウェルカム電子メールを受け取 ります。

- ステップ1 [Log In] リンクを選択するか、まだアカウントを持っていない場合には [Register] リンクを選択します。 [NVIDIA Software Licensing Center] > [License Key Registration] ダイアログが開きます。
- **ステップ2** ライセンス キー登録フォームに入力し、[Submit My Registration Information] をクリックします。 [NVIDIA Software Licensing Center] > [Product Information Software] ダイアログが開きます。
- ステップ3 追加の PAK がある場合は、[Register Additional Keys] をクリックします。追加の各キーについては、[License Key Registration] ダイアログのフォームに入力し、[Submit My Registration Information] をクリックします。
- ステップ4 プロンプトが表示されたら、利用条件に同意し、パスワードを設定します。

グリッド ソフトウェア スイートのダウンロード

- ステップ1 [NVIDIA Software Licensing Center] > [Product Information Software] ダイアログに戻ります。
- ステップ2 [Current Releases] タブをクリックします。
- **ステップ3** [NVIDIA GRID] リンクをクリックして、[Product Download] ダイアログにアクセスします。このダイアログ には、次のダウンロード リンクがあります。
 - NVIDIA License Manager ソフトウェア
 - gpumodeswitch ユーティリティ
 - •ホスト ドライバ ソフトウェア
- ステップ4 ソフトウェアをダウンロードするには、このリンクを使用します。

NVIDIA グリッド ライセンス サーバ ソフトウェアのインストール

詳細なインストール手順およびトラブルシューティングについては、『NVIDIA GRID License Server User Guide』を参照してください。さらに、ご使用のリリースの最新情報については、 『NVIDIA GRID License Server Release Notes』を参照してください。

http://www.nvidia.com

NVIDIA GRID License Server のプラットフォーム要件

- ホスティングプラットフォームは、物理マシンでも仮想マシンでもかまいません。NVIDIA は、License Serverのみを実行する専用ホストを使用することを推奨しています。
- ホスティングプラットフォームは、サポート対象のWindows OS を実行する必要があります。
- ホスティングプラットフォームには、定数 IP アドレスが必要です。

- ホスティングプラットフォームは、少なくとも1つの固定イーサネットMACアドレスが 必要です。
- ・ホスティングプラットフォームの日時は、正確に設定する必要があります。

GRID ライセンス サーバのインストール: Windows

License Server には、Java ランタイム環境と Apache Tomcat のインストールが必要です。Apache Tomcat は、Windows 向け NVIDIA インストール ウィザードを使用するときにインストールされます。

- ステップ1 最新の Java 32 ビットランタイム環境を https://www.oracle.com/downloads/index.html からダウンロードして インストールします。
 - (注) プラットフォームが Windows 32 ビットまたは 64 ビットのどちらであるとしても、32 ビットの Java ランタイム環境をインストールします。
- **ステップ2** サーバインターフェイスを作成します。
 - a) [NVIDIA Software Licensing Center] ダイアログで、[Grid Licensing] > [Create License Server] をクリック します。
 - b) [Create Server] ダイアログで、目的のサーバの詳細を入力します。
 - c) インストール用にライセンス サーバで生成される .bin ファイルを保存します。
- ステップ3 前の手順でダウンロードした NVIDIA ライセンス サーバのインストーラ zip ファイルを解凍し、setup.exe を実行します。
- ステップ4 NVIDIA License Server ソフトウェアと Apache Tomcat ソフトウェアの EULA に同意します。Tomcat は License Server のインストール時に自動的にインストールされます。
- **ステップ5** インストーラ ウィザードを使用して、インストールの手順を順に実行します。
 - (注) [Choose Firewall Options] ダイアログで、ファイアウォールで開くポートを選択します。NVIDIA は、デフォルト設定(ポート7070は開き、ポート8080は閉じておく)の使用を推奨しています。
- ステップ6 インストールを確認します。License Server ホストで Web ブラウザを開き、URL http://localhost:8080/licserver に接続します。インストールが完了したら、NVIDIA ライセンスクライアントマネージャインターフェイ スが表示されます。

GRID ライセンス サーバのインストール: Linux

License Server には、Java ランタイム環境と Apache Tomcat のインストールが必要です。License Server を Linux にインストールする前に、両方を個別にインストールする必要があります。

ステップ1 Java が Linux インストール環境にインストールされたことを確認します。次のコマンドを使用します。

java -version

どの Java バージョンも表示されない場合には、Linux Package Manager を使用して、次のコマンドでインストールします。

sudo yum install java

- ステップ2 Linux パッケージマネージャを使用して、Tomcat および Tomcat webapps パッケージをインストールします。
 - a) 次のコマンドを使用して Tomcat をインストールします。

sudo yum install tomcat

b) 次のコマンドで Tomcat サービスのブート時の自動開始を有効にします。

sudo systemctl enable tomcat.service

c) 次のコマンドで Tomcat サービスを開始します。

sudo systemctl start tomcat.service

d) Tomcat サービスが動作していることを確認します。License Server ホストで Web ブラウザを開き、URL http://localhost:8080に接続します。インストールが正常に完了したら、tomcat webapps が表示されます。

ステップ3 ライセンス サーバをインストールします。

a) 次のコマンドで License Server tar ファイルをアンパックします。

```
tar xfz NVIDIA-linux-2015.09-0001.tgz
```

b) アンパックされたセットアップ バイナリを root として実行します。

sudo ./setup.bin

- c) EULA に同意し、インストール ウィザードを続行してインストールを完了します。
 - (注) [Choose Firewall Options] ダイアログで、ファイアウォールで開くポートを選択します。NVIDIA は、デフォルト設定(ポート 7070 は開き、ポート 8080 は閉じておく)の使用を推奨しています。
- ステップ4 インストールを確認します。License ServerホストでWebブラウザを開き、URL http://localhost:8080/licserver に接続します。インストールが完了したら、NVIDIA ライセンスクライアントマネージャインターフェイ スが表示されます。

NVIDIA ライセンス ポータルからライセンス サーバへのグリッド ライ センスのインストール

グリッド ライセンス サーバ管理インターフェイスへのアクセス

ライセンス サーバ ホストで Web ブラウザを開き、URL http://localhost:8080/licserver にアクセ スします。 ライセンスサーバへのリモートアクセスを許可するようにライセンスサーバのファイアウォー ルを設定した場合、管理インターフェイスはURL http://hostname:8080/licserver でリモートコン ピュータからアクセスできます

License Server の MAC アドレスの読み取り

License Server のイーサネット MAC アドレスは、License Server を NVIDIA ライセンス ポータ ルに登録するときに ID として使用されます。

- ステップ1 ブラウザで GRID License Server 管理インターフェイスにアクセスします。
- ステップ2 左側の [License Server] パネルで [Configuration] を選択します。

[License Server Configuration] パネルが開きます。[Server host ID] の横のプルダウン メニューに、選択可能 なイーサネット MAC アドレスがリストされます。

- ステップ3 License Server の MAC アドレスを、[Server host ID] プルダウンから選択します。
 - (注) NVIDIA のライセンス ポータルでライセンスを生成する場合には、サーバを識別するために一貫 して同じイーサネット ID を使用することが重要です。NVIDIA は、プラットフォーム上のプライ マリの取外し不可能な Ethernet インターフェイスへの1つのエントリを選択することを推奨しま す。

ライセンシング ポータルからのライセンスのインストール

- ステップ1 ブラウザで GRID License Server 管理インターフェイスにアクセスします。
- ステップ2 左側の [License Server] パネルで [Configuration] を選択します。

[License Server Configuration] パネルが開きます。

- ステップ3 前に生成した.bin ファイルをインストールするには、[License Server Configuration]メニューを使用します。
 - a) [Choose File] をクリックします。
 - b) インストールするライセンス.bin ファイルを参照して、[Open] をクリックします。
 - c) [Upload] をクリックします。

ライセンスファイルが License Server にインストールされます。インストールが完了すると、 「Successfully applied license file to license server」という確認メッセージが表示されます。

使用可能な GRID ライセンスの表示

インストールされて使用可能であるライセンスをそのプロパティとともに表示するには、次の 手順を使用します。

- ステップ1 ブラウザで GRID License Server 管理インターフェイスにアクセスします。
- ステップ2 左側の [License Server] パネルで [Licensed Feature Usage] を選択します。
- ステップ3 この機能の現在の使用状況に関する詳細情報を表示するには、[Features] 列の機能をクリックします。

現在のライセンスの使用状況の表示

現在使用中であり、サーバから交付されているライセンスに関する情報を表示するには、次の 手順を実行します。

- ステップ1 ブラウザで GRID License Server 管理インターフェイスにアクセスします。
- ステップ2 左側の [License Server] パネルで [Licensed Clients] を選択します。
- **ステップ3** シングル ライセンス クライアントに関する詳細情報を表示するには、リストの [Client ID] をクリックします。

グリッド ライセンスの管理

グリッドライセンスが必要な機能は、グリッドライセンスを取得するまで縮小機能で動作します。

Windows でのグリッド ライセンスの取得

- ステップ1 次の方法で [NVIDIA Control Panel] を開きます。
 - ・Windows デスクトップを右クリックして、メニューから [NVIDIA Control Panel] を選択します。
 - Windows の [Control Panel] を開き、[NVIDIA Control Panel] アイコンをダブルクリックします。
- **ステップ2** [Licensing] の下の [NVIDIA Control Panel] の左側のペインで、 [Manage License] を選択します。

[Manage License] タスク ペインが開き、使用されている現在のライセンス エディションが表示されます。 GRID ソフトウェアは、使用している機能に基づいてライセンス エディションを自動的に選択します。デ フォルトは Tesla(ライセンス対象外)です。

- **ステップ3** GRID Virtual Workstation のライセンスを取得するには、[License Edition] の下で [GRID Virtual Workstation] を選択します。
- ステップ4 [License Server] フィールドに、ローカル GRID License Server のアドレスを入力します。このアドレスは、 ドメイン名または IP アドレスにできます。
- ステップ5 [Port Number] フィールドで、サーバが使用するポート番号を入力するか、またはデフォルト設定(7070)のままにしておきます。
- ステップ6 [Apply] を選択します。

システムは、設定された License Server から適切なライセンス エディションを要求します。ライセンスが 正常に取得されると、そのライセンス エディションの機能が有効になります。

(注) [NVIDIA Control Panel] でライセンス設定を行うと、その設定はリブート後も保持されます。

Linux でのグリッド ライセンスの取得

ステップ1 設定ファイル /etc/nvidia/gridd.conf を編集します。

sudo vi /etc/nvidia/gridd.conf

ステップ2 ローカル グリッド ライセンス サーバのアドレスを使用して ServerUrl の行を編集します。

このアドレスは、ドメイン名またはIPアドレスにできます。次のサンプルファイルを参照してください。

- **ステップ3** ポート番号(デフォルトでは7070)を、アドレスの末尾にコロンとともに追加します。次のサンプルファ イルを参照してください。
- **ステップ4** ライセンス タイプを示す整数を使用して Feature Type の行を編集します。次のサンプル ファイルを参照し てください。
 - GRID vGPU = 1
 - GRID Virtual Workstation = 2
- **ステップ5** nvidia-gridd サービスを再始動します。

sudo service nvidia-gridd restart

サービスは自動的に、FeatureType 行に指定したライセンス エディションを取得します。これは /var/log/messages で確認できます。

(注) NVIDIA コントロール パネルでライセンスを設定した後は、その設定はリブート後も保持されます。

サンプル コンフィギュレーション ファイル

```
# /etc/nvidia/gridd.conf - Configuration file for NVIDIA Grid Daemon
# Description: Set License Server URL
# Data type: string
# Format: "<address>:<port>"
ServerUrl=10.31.20.45:7070
# Description: Set Feature to be enabled
```

```
# Data type: integer
# Possible values:
# 1 => for GRID vGPU
# 2 => for GRID Virtual Workstation
FeatureType=2
```

gpumodeswitch の使用

コマンドラインユーティリティ gpumodeswitch は、以下の環境で実行できます。

- Windows 64 ビット コマンド プロンプト (管理者権限が必要)
- Linux 32/64 ビット シェル (Citrix XenServer dom0 を含む) (root 権限が必要)

(注)

コンピューティング モードおよびグラフィック モードとの互換性の最新情報については、 NVIDIA 製品のリリース ノートを参照してください。

gpumodeswitch ユーティリティは次のコマンドをサポートしています。

• --listgpumodes

現在のワーク ディレクトリの listgpumodes.txt というログ ファイルに情報を書き込みます。

• --gpumode graphics

グラフィックモードに切り替えます。プロンプトが表示されたら、特に指定しない限り、 サーバでサポートされるすべての GPU のモードを切り替えます。

• --gpumode compute

計算モードに切り替えます。プロンプトが表示されたら、特に指定しない限り、サーバで サポートされるすべての GPU のモードを切り替えます。



(注) GPU モードの切り替え後、サーバをリブートし、GPU の修正されたリソースが、サーバで実行中の OS またはハイパーバイザによって正しく反映されたことを確認します。

GPU カードをサポートするドライバのインストール

ハードウェアの取り付け後、サーバ BIOS を適切なレベルに更新し、GPU ドライバなどのソフ トウェアを次の順序でインストールする必要があります。

- 1. サーバ BIOS を更新します。
- 2. GPU ドライバを更新します。

1. Server BIOS の更新

Host Upgrade Utility を使用して、最新の Cisco UCS C240 M4 サーバ BIOS を Cisco UCS C240 M4 サーバにインストールします。



(注) NVIDIA ドライバを更新する前に、次の手順を実行する必要があります。

- **ステップ1** URL http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html にアクセスします。
- **ステップ2** 中央のカラムで [Servers-Unified Computing] をクリックします。
- ステップ3 右側のカラムで [Cisco UCS C-Series Rack-Mount Standalone Server Software] をクリックします。
- ステップ4 右側のカラムでお使いのサーバのモデルの名前をクリックします。
- ステップ5 [Unified Computing System (UCS)Server Firmware] をクリックします。
- **ステップ6** リリース番号をクリックします。
- **ステップ7** [Download Now] をクリックして ucs-server platform-huu-version_number.iso ファイルをダウンロード します。
- ステップ8 次のページで情報を確認後、[Proceed With Download] をクリックします。
- **ステップ9** 次の画面に進んでライセンス契約に同意し、このファイルを保存する場所を参照します。
- ステップ10 サーバ BIOS を更新するには、Host Upgrade Utility を使用します。

Host Upgrade Utility のユーザガイドは、『Utility User Guidess』を参照してください。

2. GPU カード ドライバの更新

サーバ BIOS を更新したら、ハイパーバイザ仮想マシンに GPU ドライバをインストールできます。

- **ステップ1** コンピュータにハイパーバイザソフトウェアをインストールします。インストール手順については、ハイ パーバイザのマニュアルを参照してください。
- **ステップ2** ハイパーバイザに仮想マシンを作成します。手順については、ハイパーバイザのマニュアルを参照してください。
- ステップ3 仮想マシンに GPU ドライバをインストールします。次のいずれかのリンクからダウンロードします。
 - ・グリッドハイパーバイザダウンロードのNVIDIAエンタープライズポータル(NVIDIAログインが必要です)。https://nvidia.flexnetoperations.com/
 - NVIDIA パブリック ドライバ エリア: http://www.nvidia.com/Download/index.aspx
 - AMD : http://support.amd.com/en-us/download
- ステップ4 サーバを再起動します。
- ステップ5 仮想マシンが GPU カードを認識できることを確認します。Windows では、[Device Manager]の [Display Adapters] から確認します。



Cisco UCS Manager 統合に適した設置方法

• Cisco UCS Manager 統合に適した設置方法 (167 ページ)

Cisco UCS Manager 統合に適した設置方法

Cisco UCS Manager 統合手順は、次の統合ガイドに記載されています。

Cisco UCS C-Series Server Integration with UCS Manager Configuration Guides

ご使用の Cisco UCS Manager バージョン用のガイドを参照してください。

また、ご使用のリリースの統合に関する特別な考慮事項については、Cisco UCS Manager ソフトウェアおよび C シリーズ Cisco IMC ソフトウェアのリリース ノートを参照してください。

- Cisco UCS Manager Release Notes
- Cisco C-Series Software Release Notes